KCSP
166

釣りキチ三平

第10集

ヨイ釣り編Ⅱ

矢口高雄

雑誌 45423-66

ISBN4-06-101166-9

C9979 ¥621E (3)

講談社

定価652円
本体621円

札幌にて，ファンの少年のベストにサインする矢口先生。

このとき、ぼくは、三平という少年がボクの手からはなれて、一人あるきをしているのに気づいておどろいた。ボクの創ったキャラクターであるはずの三平くんが、独立した人格ともいうべきものを身につけて、そこにすわっていたからである。それからボクのドラマづくりは、三平くんと二人の共同作業になった。

（「あとがき」より）

（カバーデザイン
日本ヘリエールアートセンター）

釣りキチ三平

第10集

コイ釣り編Ⅱ

KCSP
166

釣りキチ三平
第10集
コイ釣り編Ⅱ

矢口高雄

講談社

矢口高雄

釣りキチ三平

第10集　コイ釣り編Ⅱ

矢口高雄

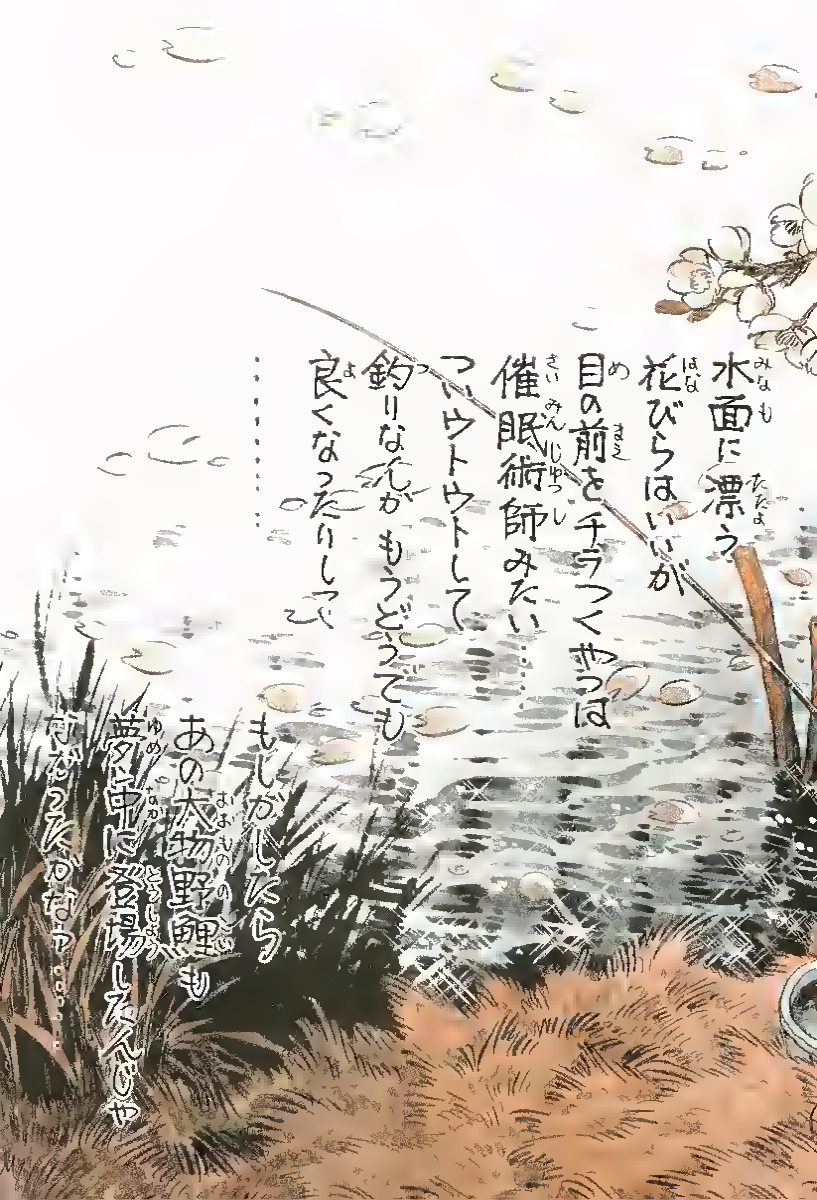
釣りキチ三平〈第10集〉コイ釣り編II

もくじ

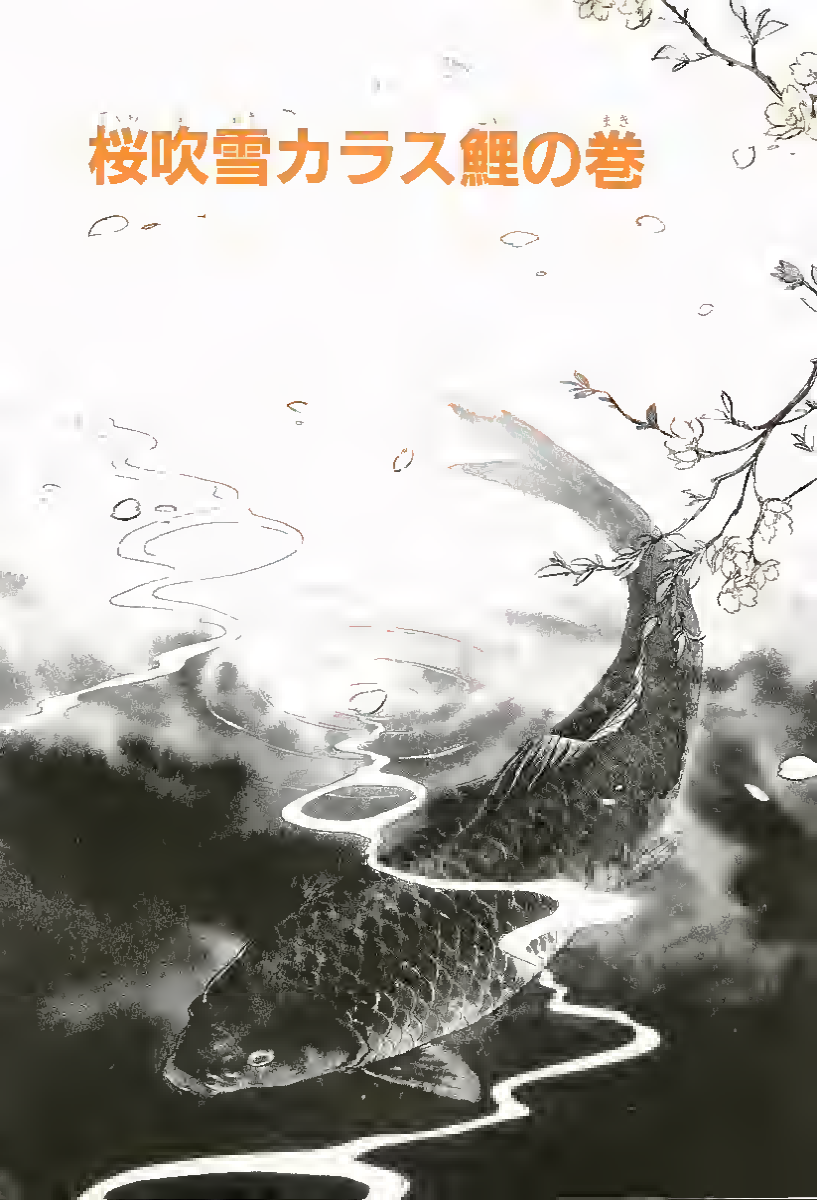
桜吹雪カラス鯉の巻……6
太郎沼の巨鯉の巻……87
巨鯉釣り大作戦の巻……125
黄金の鯉の巻……203
縄文式釣りの巻……319
あとがき……355

釣りキチ三平
第10集
コイ釣り編Ⅱ
矢口高雄

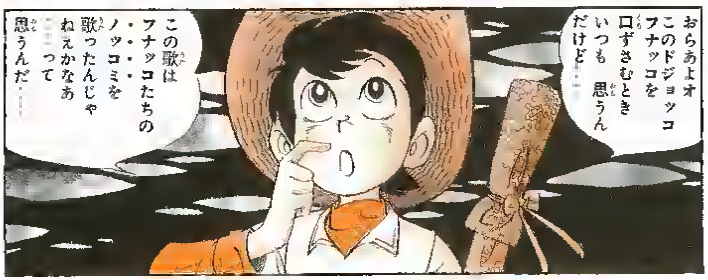
桜吹雪のなかで
釣ったことあるかい……？


水面に漂う
花びらはいいが
目の前をチラつくやつは
催眠術師みたい……
ついウトウトして
釣りなんか
もうどうでも
良くなったりして
……
もしかしたら
あの大物野鯉も
夢中に吞まれてんじゃ
ないかなァ……

桜吹雪カラス鯉の巻

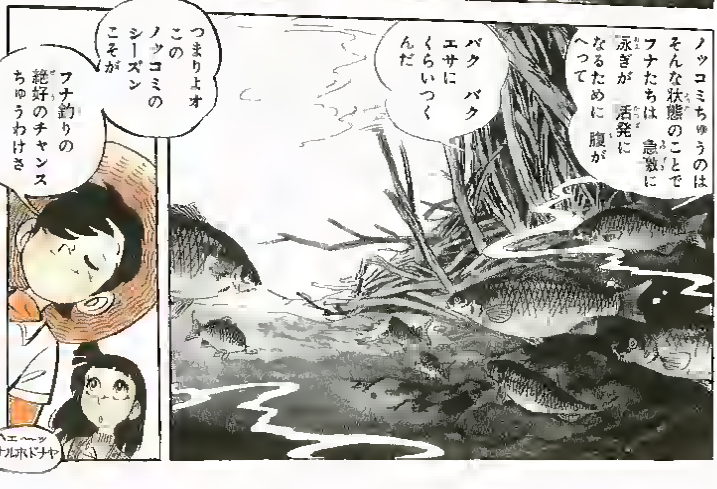


春になれば
氷ノコもとけて
トンノコたの
フナッコたの
夜があけたと
思うべな…


おらあよオ
このドジョッコ
フナッコを
口ずさむとき
いつも 思うん
だけど……
この歌は
フナッコたちの
ノッコミを
歌ったんじゃ
ねえかなあ
って
思うんだ……

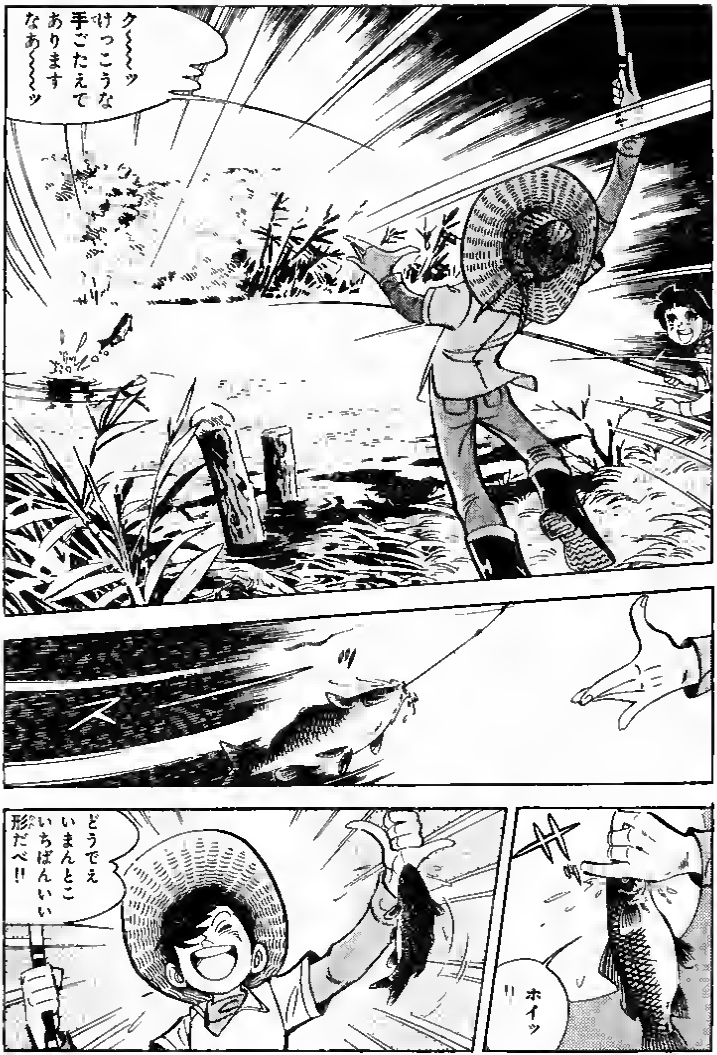
なーにいってるだ
三ちゃん！
なんぼ 釣りキチ
だからといって
歌の文句にまで
イチャモンつける
ことも あるめえ
な――によ
その
ノッコミって
て……!?
カ――ッ
ユリッペ おめえ
あいかわらず
くだらねえこと
いうなあ
おらあ べつに
イチャモン
なんか
つけてる
でねえだ

つまりよオ
フナたちってのは
寒い冬のあいだは
深場の 巣の中さ
もぐって
じっとしてるが
春になって
水がぬるんで
くると 産卵の
場所をもとめて
深いところから
浅場へ大場所から
田んぼの用水路
なんかの小場所へ
移動しだすんだ


ノッコミちゅうのは
そんな状態のことで
フナたちは 急激に
泳ぎが 活発に
なるために 腹が
へって
パク パク
エサに
くらいつく
んだ
つまりよオ
この
ノッコミの
シーズン
こそが
フナ釣りの
絶好のチャンス
ちゅうわけさ
ヘエ――ッ
ナルホドナヤ

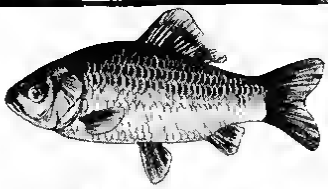
ヒョッ!!

ありゃっ!?
あのガキ
また釣りやがって……
カノハーメどうでえユリノペ
すんごいなやあいかわらず

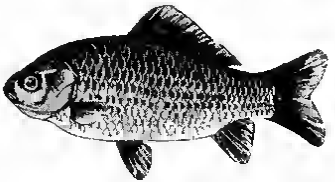

ク～～ッ
けっこうな
手ごたえて
あります
なあ～～ッ
ス
ホイッ
!!
どうでえ
いまんとこ
いちばんいい
形だべ!!

ユリッペ
ほら
ちょっくら
きてみろ
わっ!!
卵だあ
!!
どうでえ
フナたちは
この卵を
葦のクキや
水藻なんかに
うみつける
ために
どんどん
岸の浅いとこさ
乗りこむ
・・つまり
ノッコンで
くるんだ
へえ――っ
な――るほど
乗りこみ
だから
ノッコミ
かあ・・・
んだからさあ
ノッコミ
シーズンの
釣り場は
とうぜんの
ことながら
岸の浅場の
水藻のあたりが
ねらいところに
なるわけだ

ケヘヘヘ
ごくろうさん
ハイ こん中さ
はいってて
くださ——い
三ちゃんって
ほんとに
うめえ
なや
それに
ひきかえ
おらときたら
まだ 一ぴきも
ダハハハ……
な——にが
ダハハハだ
ユリッペ
そんただ
釣り方じゃあ
一日釣っても
メダカ一ぴき
釣れやしねえぜ
あら どこが
いけねえの
おらあ 三ちゃんに
おそわったとおり
やってるだども
ホ——ッ
それだから
いけねえんだ
よお……
バカの ひとつ
おぼえじゃ
あるめえし
ちったあ
自分の頭を
つかえよ
自分の
頭を……



⬇銀ブナ　金ブナ同様ウロコが，銀色の光沢をもつので，この名の由来であるが，フナのうちでいちばん数がおおいため，釣りの対象となるのは，ほとんどこの種類といえる。体長40センチちかくになるのもまれにはあるが約10年で，30センチ前後にそだつ。食性は，雑食性で，水生昆虫・プランクトン，小貝類のほか，水藻の芽などをたべる。



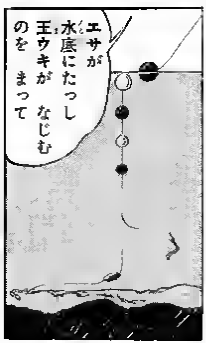
⬆金ブナ　体色が赤味がかった黄褐色だが，ウロコが金色の光沢をもつことから，金ブナの名でよばれる。一般にフナ類は，水底での生活をこのむものだが，ドロの中にもぐって越冬するものもいる。体長は，最大級でも25センチていどで，30センチになるものは，ほとんどない。

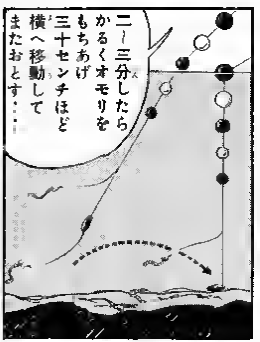
有名な釣り格言にフナは地底を釣れちゅうのがあるが……
これはフナの生活様式が水底をこのむという習性を利用してエサを地べたにつける釣り方がかんがえられたわけさ…

しかしなんぼなんでもひとっところにたらしっぱなしちゅうのはよくねえ
とくにノッコミ期のフナたちはあちこち活発に泳ぎまわるからいろんなポイントにさぐりをいれてみる

…いわゆるさぐり釣りってやつをやるんだ

ねらったポイントに竿をふりこんだら…


エサが水底にたっし王ウキがなじむのをまって


二～三分したらかるくオモリをもちあげ三十センチほど横へ移動してまたおとす…

この動作のくりかえしによってエサにうごきをつけてやりフナたちの食欲をそそらなきゃあ釣れるもんじゃねえ

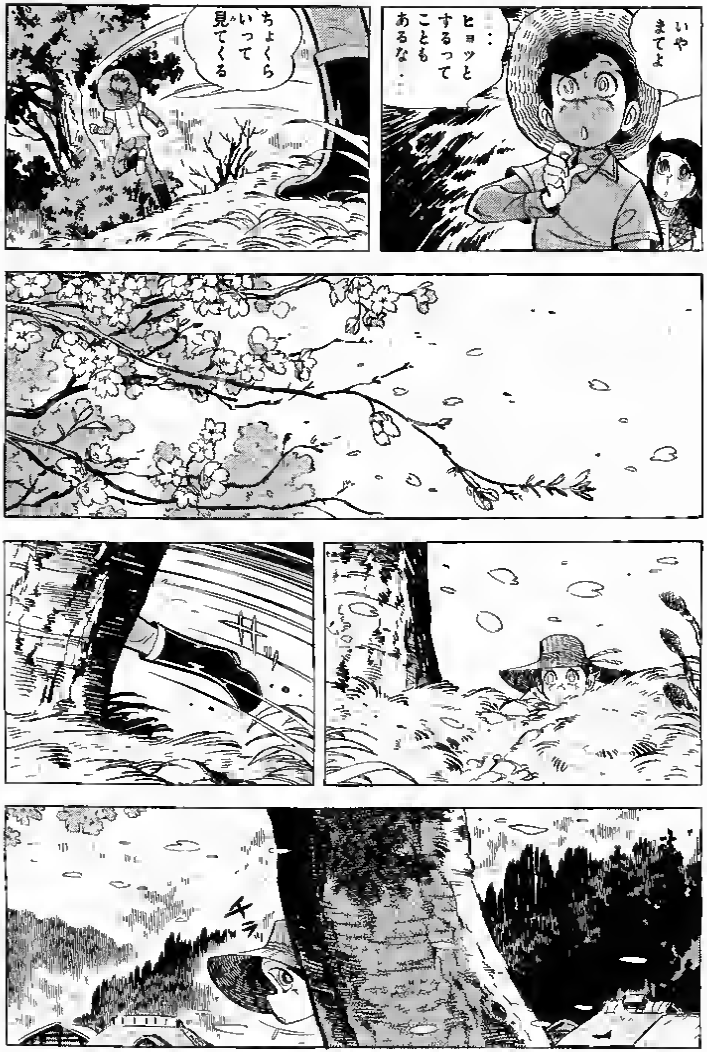
なーにも
そんただ
でっけえ声て
えばらな
くってもも
いいべっ!!
べつに
えばってる
わけじゃ
ねえども
とにかく
エサを
ぶちこんだら
水の中のことや
魚のうごきなど
たえず てめえの
頭ん中で 推理して
みることが 脳を
あげるこつなんだ
竿を
あげてみろ
エサが
ふやけて
くさってる
かも
しれねえぞ
ング
カハハハ
ユリッペ
なんでえ
そりゃあ
フナじゃなくて
タニシに くらい
つかれているで
ねえか アホ!!
ン!?

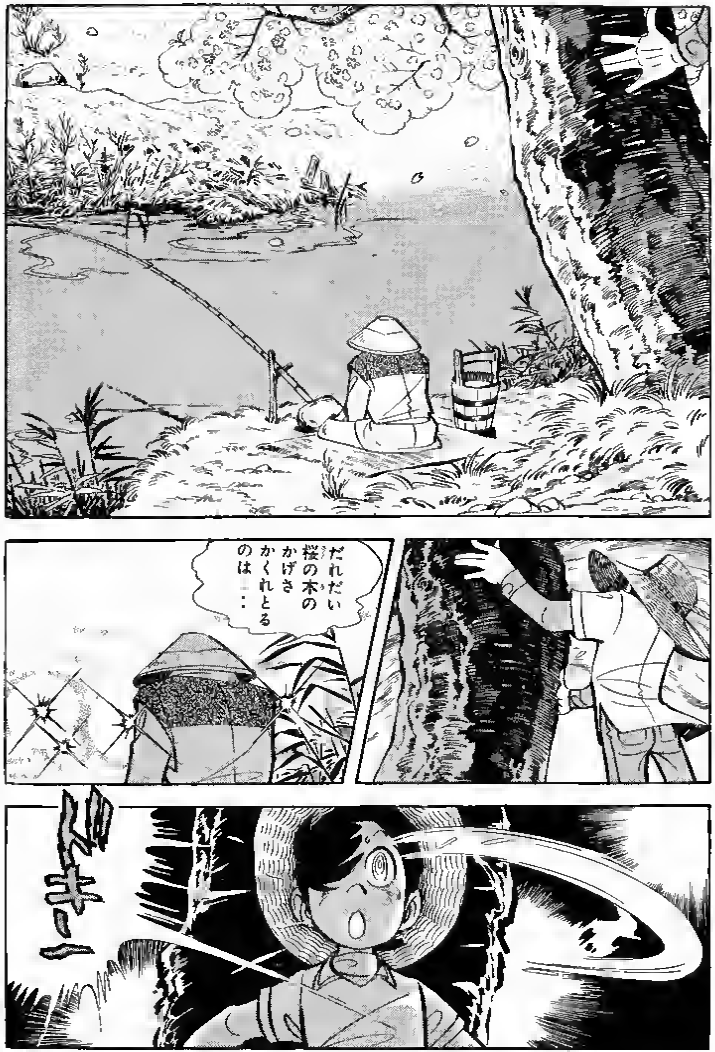
わかったけえ
糸をたれたまんま一日じゅうウキを見てるなんてのは釣りじゃねえってこったろ
そんだことゆったって三ちゃん
ほら見てあの桜の木の下のひと……

けさからズーッとあのかっこで水面をみつめてるだけよ!?

そういえばそうだな…
置き竿にしたまんまエサをつけかえるわけでもねえし

さ三ちゃんあ あのひとそうとうのお年寄りみてえだから
もしかして…
ええっ死んでるんじゃねえかだってえ!?
ばあさか?
シッ声がでっけえ!!


いやまてよ
ヒョッとするってこともあるな…
ちょくらいって見てくる
ギラ


だれだい
桜の木の
かげさ
かくれとる
のは…
ぎょえー

これ
かくれても
わかるぞ
フフフ
すなおに
出て
いらっしゃい
ウッヒャ――ッ
びっくら
こいたなや
うしろむきの
くせして
ほんとに おらの
いることが
わかるなんて

すみま
せーん
のぞき見
なんか
しちゃって
・・・

おやおや
おっそろしく
すなおな
ぼうやだ
こと
なにして
たんじゃ
あんただ
とこで・・・

おじいちゃんこそ
なにしてるだ
おらあ
けさから
むこう岸で
ずーっと
おじいちゃんの
こと
見てたけど
何時間たっても
そのまんまの
かっこで じーっと
うごかねえし・・・
竿なんか一度だって
手をかけたこと
なかったぞ

フフフ
むこうさんがひいてくれねえもん
しょうがあんめえ……
しょうがあんめえ……？
おじいちゃんフナ釣りはじめてけえ……？
はじめてもなんも……わしはフナなんて釣れても釣れなくともええ……
こうやって桜の花の下で釣り糸をたれてるだけでじゅうぶんじゃて
カーッそそりゃあそうだども
やっぱし釣れねえよりか釣れたほうがおもしれえべ
ありゃっ手桶の中はタニシが五六ひき……？
おじいちゃんどうしただこのタニシは……
フフフ
ハハーンユリッペみてえにタニシにくらいつかれたんだな

おじいちゃん
おらあ
いいたくねえ
けどよう
おじいちゃんの
そういう釣り方
見ちゃあ
いられねえだ
そんただ
釣り方なら
フナッコ一ぴき
だって
釣れねえぜ
だいたいだ
置き竿して
何時間も
だまーって
見てるなんて
いちばん
よくねえ!!
フナたちの
食欲をそそるために
しょっちゅう
エサをうごかして
やらなくちゃあ
それに
おじいちゃんが
釣ってるポイントは
やたらと深い
よどみのまん中で
ねえか
いいけえ
いまはノッコミの
シーズンちゅうって
フナたちが
産卵のために
岸の浅いとこさ
よってきてるだ
んだから
葦のしげみや
水藻のはえてる
ポイントを
ねらわなく
ちゃあこ

フフフ
ぼうや
講釈は
もうええだ
わしの釣りは
たわいもねえ
年寄りの
ひまつぶし
じゃて・・・
ピクッ
んだども
せっかく
ぼうやが
おしえてくれた
こったし
ここは
餌をたてて
ちょっくら
竿をうごかして
みるか・・・
ガハハハ
こいつあ
けっさく
だあ!!
まさか
ユリッペの
二の舞とはなあ
あれっ
!!
フフフ・・・

ごめんなさい
ひとの失敗を
わらったり
なんかして
フフフ
ええんじゃよ
とうせ あそびの
ひまつぶし
なんじゃから
ありゃっ
!?
いまの タニシを
くっつけたまま
おちこむなんて
それじゃあ
釣りに
なんねえじゃ
ねえか!!
チチ!!

おやおや
どうしただ
おじいちゃん
おにぎやかだ
こと…
ン？
おう
きたか
まっとったぞ
さくら…
さくら
あ――ら
おじいちゃん
めずらしい
わね
こーんな
わかいひとと
お友だちに
なるなんて
ハハハハ
友だちけえ
いや
なにね
このぼうやから
いろいろと
釣り方を
おそわっとったん
じゃよ…
ん まあ
そうなの
そ
そんな
…
いやあ
このぼうやは
わかいのに
びっくら
こくほど
釣りのことを
知っとる
わしも
ほとほと
感心しとった

ぼうや
これは
わしの孫娘の
さくらじゃが
そういえば まだ
ぼうやの名まえ
きいてなかったね
ハ ハイ
三平三平と
もうします
よろしくおねがい
しま――す
あら
三平ちゃんて
いうの
かわいい
目を
してるのね

ハイ
おじい
ちゃん
おまちどお
さま…
オホン
ありがてえ
わしゃあ
こいつが
たのしみで
釣りに
きとるん
じゃあ

おじいちゃんたらね 毎年
桜の花のさくころになると
この場所に陣どって
一日じゅう 釣りを
してるのよ
でもね
へたの横すきって
いうのかしら 釣って
かえったことなんか
一度も見たことないわ
な――に
いってるだ
さくら
わしは
桜の花が
すきなんじゃよ

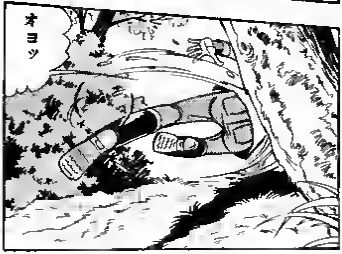
だから おめえの
名まえも
さくらに
したんじゃ

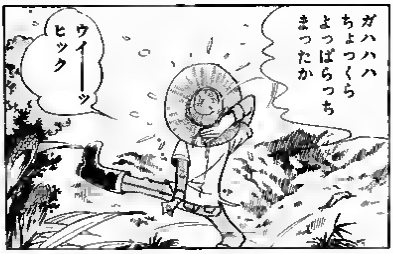
どうでえ
三平くん
おめえも
いっぱい
いくか
ハ ハア
いただき
ま――す
野釣りさ きて
熱いお茶
なんて
けっこうてすなあ

おじいちゃん!!
いいからいいからグイッといけ
ハアいただきまーす
フガフガ
こりゃあお酒じゃねえかあウイ〜〜ッ!
三平ちゃん
フフフ
コロコロ
だいじょうぶ三平ちゃん!?
しっかりして!!

三平ちゃん
だいじょうぶ？
足がふらついて
いるんじゃ
ないの!?
へっちゃら
だ――い！

すっかり
ごちそうに
なりまし
た――っ
おらも
そろそろ
かえって
釣りまーす
そうかい
そうしたほうが
ええな・・・

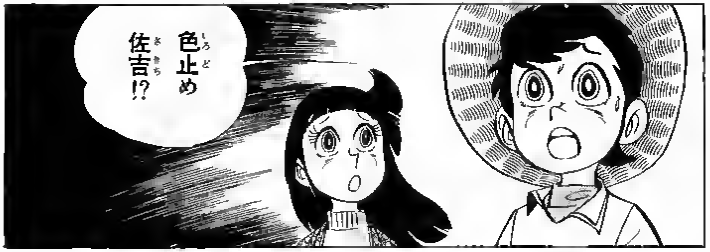

オヨッ


ガハハハ
ちょっくら
よっぱらっち
まったか
ウイ――ッ
ヒック

おらあ
ああいうタイプの
女性には
しこたま
よわいんだ
やさしくって
おしとやか
で・・・・

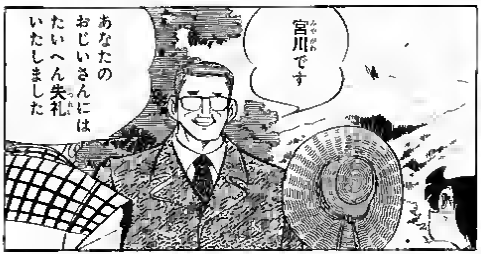
クアーッ
それにしても
さくら
ねえちゃんって
ええええ
ベッピンだなや

クチビルのあたりなんか
ムムーン
とっ!!
ン!?
いやいやひとちがいだべ
わしはそういう人間じゃねえだ
じいちゃんどうしただ!?
じいちゃんも釣りにきたのけえ
あや〜〜〜っ三ちゃん・・・
いま一平しいちゃんがべつのひとにまちがえられてえらいへんだったんだぞ——っ
いままでど——こをほっつきあるいてただ


色止め佐吉!?

三平 じつはこのかたは淡水魚の研究をなさってる大学の先生だそうじゃが
色止め佐吉さんというひとをさがしにやってきてわしを その佐吉さんとひとちがいしたらしいんじゃ

名誉教授
理学博士
へえ――っ


宮川です
あなたのおじいさんにはたいへん失礼いたしました

あなたもきいたことありませんか
色止め佐吉という 鯉釣りの名人のことを

ええ?
鯉釣りの名人だって……!?

いいえ
わたしも
直接 本人に
あったことは
ありません
……
ただ
……

とんと
きいたこと
ねえなあ
な――んか
もっと
特徴が
ないのけ……
その 色止め
佐吉ってひと!?

その 色止め
佐吉なる人物が
つくったという
鯉を
この目で
たしかに
見たのです

……
あれは たしか
昨年の
愛鱗品評会での
できごとでした

愛鱗品評会というのは ひとくちにいえば 観賞用の錦鯉の品評会のことでして
全国各地の 錦鯉愛好家が丹精こめて飼育した錦鯉を いちどうにあつめて その品位をきそいあうものです

わたくしは 淡水魚の研究者であり 同時に 無類の愛鱗家でもあることから この品評会では 審査員として 審査にあたったわけですが……
この年の 品評会は なかなかの盛況でした

錦鯉と ひとくちにもうしあげても その種類は 九系統 二十九中分類……
劣勢とも なれば かぞえきれないほど 多種にわたるもので……
その審査基準も ①姿勢 ②色彩 ③斑紋 ④素質 ⑤品位 ⑥風格 などの項目により評価するものです

宮川先生 そんただ むずかしいこと いわれたって ちっとも わからねえだ
それよりか その 色止め 佐吉さんの 鯉ちゅうのは どんな 鯉だっただ……!?

これは
すまない
ハハハ
なにしろ
すきなもので
錦鯉のことと
なると
つい熱中して
しまうんですよ
いやいや
わかります
それで
…?
審査も
しだいにすすんで
いったわけだが
…
ある鯉の
前まできたとき
審査員一同の足が
ピタッと とまった
まま うごかなく
なって
しまったのです
こ
この鯉は
…!?
み
みごとだ
!!
う――ん
こんな鯉が
この世に
いるのか
いったい
なんという
鯉だ
その鯉は
体長こそ
四十五センチ
ていどのもので
あったが

口ヒゲから
尾ビレにいたるまで
一点のボケもない
全身 これ漆黒!!
名づけて
正系カラス鯉
……!!

カラス鯉!!

錦鯉の品種にやはりウロコの色が漆黒なことから烏系とよばれる鯉があるにはあります
烏系
九紋竜
茶白 充白 四つ目 九紋竜などの逸品がそれですがいずれも全身漆黒ということはありません
したがって この全身漆黒という鯉は
品評会史上はもとより ながい錦鯉の歴史のなかにも いまだかつて出たことのない極上の逸品として
審査員満場一致のもとに内閣総理大臣賞にかがやいたのです
な 内閣総理大臣賞
そ その鯉がその 色止め佐吉さんが出品したものだったのけえ!?

いや 出品者は
愛鱗家の
ひとりでしたが
色止め佐吉なる
人物から
ゆずられた
ものだったのです
ちょっくら
おうかがい
するだが
その
品評会
ちゅうのは
何月の ことだったのけえ?

はい
去年の
九月のことでしたが
それが
どうか?
おかしいな
カラス鯉が
まだ 夏の暑さの
のこる 九月にも
まっ黒でいられる
はずはねえが…

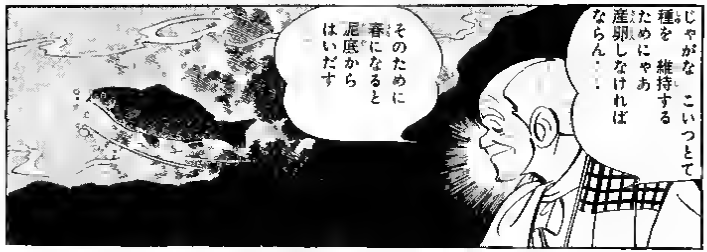
一平さん
いま なんと
おっしゃられ
ましたか!?

じいちゃん
そ それ
ほんとけえ!?

いや その鯉か
どうかは
知らねえが
むかしっから
このあたりで
いいつたえられとる
カラス鯉の話なら
知っとります

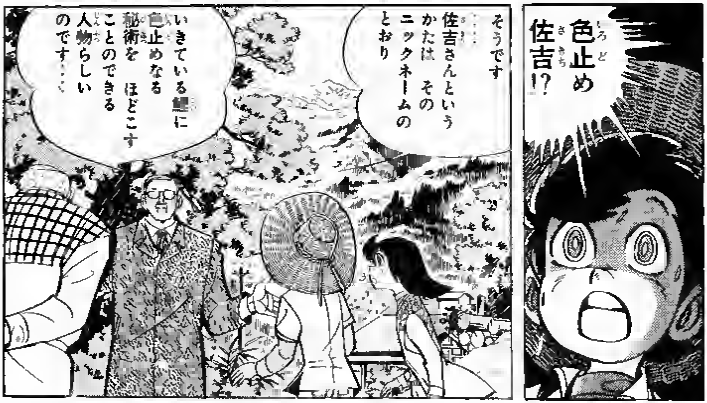
いや わしは
いまだに
一ぴきも 釣った
ことがねえから
ほんとかどうかは
わからねえど
とうやら
このあたりに
いいつたえられる
カラス鰹は
冬になると
泥中深くもぐり
大陽の光りをさけ
ひたすら わが身の
黒さをみがく
習性をもった
鰹だと
いうことです

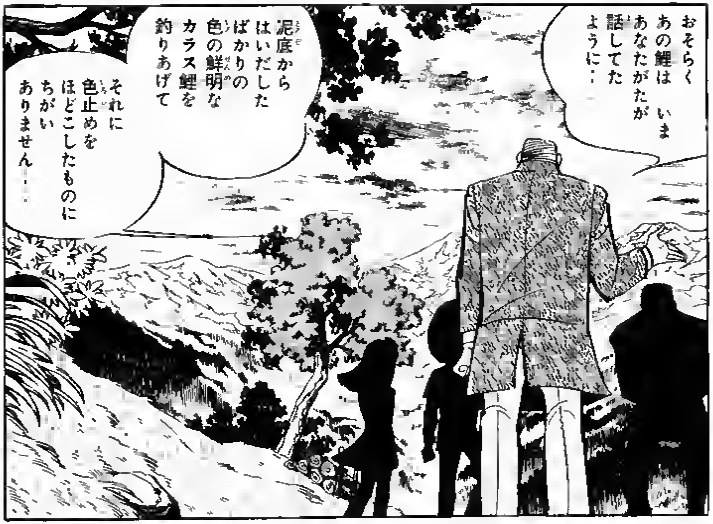
冬に 泥さ
もぐるなんて
金ブナの
習性さ
にてるなや
じいちゃん
そうなん
じゃよ
だから
わしは
むかしの話だから
といって あながち
迷信とも 思え
ねえのじゃよ
ウ～～～ム
なるほど


じゃがな こいつとて
種を 維持する
ためにゃあ
産卵しなければ
ならん・・・
そのために
春になると
泥底から
はいだす

ところが
ふしぎなことに
泥底からはいだすと
その 漆黒の色が
しだいにあせはじめ
夏にゃあ
すっかり
白黒のブチ鯉に
なっちまう
そうじゃ
ヘエーッ
ほんじゃあ
その カラス鯉の
ありったけ
まっ黒なやつを
釣ろうと
思ったら
いまごろの
ノッコミ
シーズンしか
ねえと
いうことに
なるべ
そのとおり
じゃよ
しかも
泥から出て
一日か 二日
くれえの
あいだに
釣れとも
いわれとる
んだども
じいちゃん
!!
そんただ鯉なら
なんぼ まっ黒な
やつを 釣った
ところで
けっきょくは
ブチ鯉になって
しまうべ
フフフ
そういう
こっちゃな
それだっ
!!
ン!?

それですよ 一平さん!
そのカラス鯉の色がブチていくのを止めるんです!!
ええっ 色を止めるだとお!? そ そんなバカな
たしかに信じられないことかもしれません
しかし世のなかにはわれわれの思考力などおよびもつかない秘術をもった人間がいるんです!!


色止め佐吉!?
そうです 佐吉さんというかたは そのニックネームのとおり
いきている鯉に色止めなる秘術を ほどこすことのできる人物らしいのです…


おそらく
あの鯉は
いま
あなたがたが
話してた
ように・・
泥底から
はいだした
ばかりの
色の鮮明な
カラス鯉を
釣りあげて
それに
色止めを
ほどこしたものに
ちがい
ありません・・・

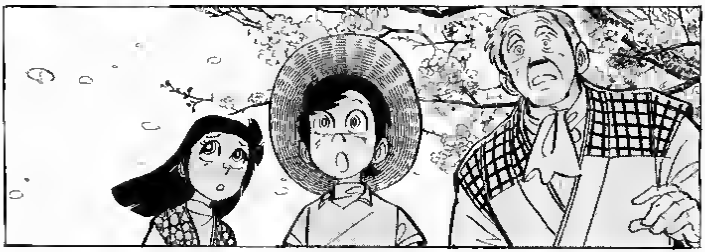
ウ〜〜〜ン〜
それが
もし事実だと
すれば
色止めとは
いってえ
どんな
術だろう?

わたしも
それが
知りたい
のです
だから
こうして
わざわざ
やってきた
のです

しかし
ざんねんな
ことに
佐吉さんは
かなりの
人間ぎらいで
ひとまえには
絶体顔を
出さない
ばかりか
名まえも
あかさない
ひとらしい

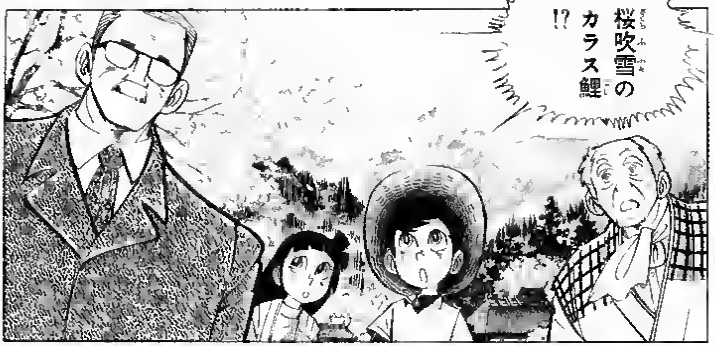
わかっていることは 七十歳くらいの白髪の老人ということ……
七十歳くれえの白髪の老人……はて……

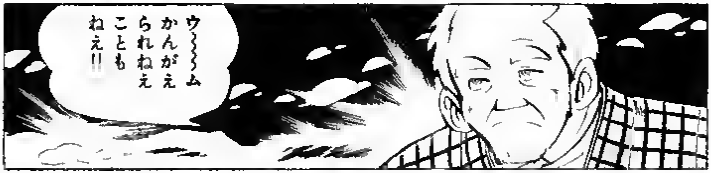
それにつぎの品評会に出品する鯉は……
風にふかれてみだれちる桜の花びらが水面をながれる姿を
その 漆黒の ウロコに 投影した カラス鯉……
名づけて 桜吹雪……
そのように 予告したとききます……



桜吹雪のカラス鯉
まさか……!?

桜吹雪カラス鯉の巻 ②


桜吹雪のカラス鯉!?


ウ～～～ムかんがえられねえこともねえ!!

風にふかれてみだれちる桜の花びら

その花びらが
舞いおちて
水面を
ただよう
姿を……
漆黒の
ウロコに
投影した
カラス鯉
……
そのカラス鯉を
釣りあげて
……
色止めなる
秘術を
ほとこす
……！

桜吹雪(さくらふぶき)の
カラス鯉(ごい)!!

一平さん
わたしの推理も
まさに
そのとおり
です!!

もし そのような
鯉が 現実に
つくられたと
すれば……
おそらく
極上の
逸品
などというよりも
最高の芸術品
とさえいえる
でしょう!!

ウ～～～ン
色止め
佐吉か
……

いってえ
どんな人物
じゃろ
して また
色止めとは
どんな秘術
じゃろ……?

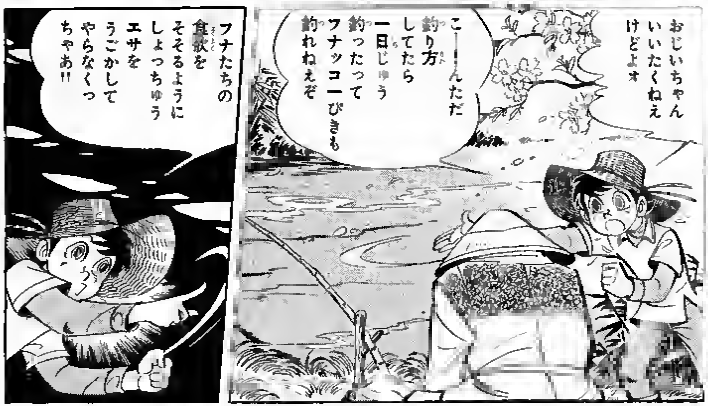
色止め
佐吉
七十歳
くれえの
白髪の
老人……
鯉釣りの
名人
……!?

さ
三ちゃん
!!
もしかして……

あ　あの
おじいちゃん
じゃあ
ねえのけえ
ええ!?
ガハハハハ
ユリッペ
あのじいちゃんが
色止め佐吉
だなんて
おっかし
くって
ヘソが
よじれるだ
そりゃあよォ
たしかに
七十歳くれえで
白髪の老人っ
てとこは
あってるとも
よォ

色止め佐吉
ちゅうひとは
鯉釣りの
名人ちゅう
こったぜ
その 名人と
よばれるひとが いまの
ノッコミシーズンに
置き竿したまんま
まるっきり竿に
手をかけねえ
なんちゅう
釣り方をするけえ

おらあよぉ
ひとの釣り方に
イチャモン
つける気は
なかっただけ
どよぉ
んもん
見――るに
見かね
ちゃって
・・・


おじいちゃん
いいたくねえ
けどよぉ
こ――んただ
釣り方
してたら
一日じゅう
釣ったって
フナッコ一ぴきも
釣れねえぞ
フナたちの
食欲を
そそるように
しょっちゅう
エサを
うごかして
やらなくっ
ちゃあ!!

それにおじいちゃんの釣ってるポイントはやたらと深いよどみのまん中でねえか
いいけえいまは フナのノッコミシーズンちゅうて産卵のために岸の浅場さよってくる時期なんだ
んだからもっと岸の葦のしげみや水藻のはえてるポイントをねらわなくっちゃあ!!
フフフフおもしれえぼうやじゃのう……
あーん
たわいもねえ年寄りのひまつぶしじゃから
フナなんて釣れても釣れなくともええんじゃよフフフフ……
……ときたもんだ
これが名人のいうセリフかよォ

三ちゃんてあいかわらずおせっかいやきだなや
ハーカみてえ
な――にいってるだユリッペ
それからどうなったと思うだ……
ふふんだどもせーっかくぼうやがおしえてくれたこったし
ここはひとつぼうやの顔をたてて……
ありゃっ!?
ちょっくら竿をうごかしてみるか……
ふふふ……

ガハハハハ
こいつぁ
けっさく
だあ!!
まさか
ユリッペの
二の舞とは
なあ!!
あーん
おらと
おなじく
タニシを
?
そうよ
あんまし長い時間
エサをぶちこんだ
まんまで
いたもんだから
泥底の
タニシに
くらい
つかれたんだべ
タニシ
……!?
いやあ
そればっかし
じゃ
ねえ!
おどろいた
ことに
あの
おじいちゃん
そのタニシを
とりはずす
どころか
くっつけた
まんま
また
もとの
ポイントさ
ぶちこんで
しまっただ

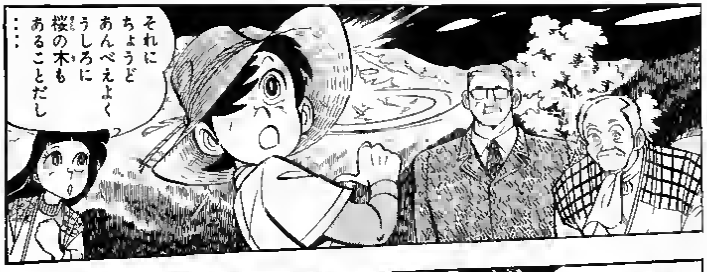
ん もう ここまできたら あきれたの なんのって
そばさ 手桶が あったんで なんか釣ってる かなあ…と 思って のぞいて みると……
なかには タニシが 五 六個 !?
あれが 名人だったら おそらく
タニシ釣りの 名人だべ ガハハハハ
三平 ちょっくら まった!!
そいつあ ひょっとすると 釣りあげた タニシじゃ なくって
エサに しとるんじゃ ねえかな……
エサ!?

し しかし じいちゃん!!
な——んぼなんでも丸ごとのタニシをエサに釣るなんてきいたことねえ
三平…ものごとをきめてかかっちゃあいかん…
おちついてかんがえてみろ鯉がこのむエサはなんだっけ…
ウッ

じ じいちゃんそ そういえばタニシ……
ウくくくム一平さんあなたがたはただの釣りキチではない…
すばらしい科学者だ

たしかに鯉の食性は底生動物と泥上の底生付着藻類やその分解物を食すが
とくにタニシなどの貝類をこのみ咽頭部にある臼歯状の歯でじょうずに貝がらをわってたべるものだ

わたしは釣りにはあまりくわしくはないが
鯉の食性という見地からすればタニシのエサはじゅうぶんにかんがえられる
オレ
ミレ


それにちょうどあんべえよくうしろに桜の木もあることだし……
サクラ……ま まさかあ……

あのおじいちゃんが 色止めの佐吉だなんて……？
じいちゃんここはおらにまかしてけれ……
ちょっくらいってたしかめてくるだ……

おじいちゃ――ん！
さっきはどうも――っ!!
あれっ!!
さくらねえちゃんはもう家かえったのけえ…
あれからなんか釣れた…!?
な――んだやっぱしあのまんまけえ!!
んだからおらがおしえたてねえか

いまは フナの産卵期で岸の浅場さよってきてるから……
もっともっと岸の葦の根もとや水藻のあなんかがねらいどころだって……

おじいちゃんおじいちゃんは おらにさんざんしゃべらせておいて
ほんとはなんもかも知ってるんだべ……

もしかしておじいちゃんの名まえは
佐吉さんっていうんじゃない……？

？

なあほんとのことおしえてよ
おじいちゃんは佐吉さんっていうんだべ
カーッのんきだなや
昼寝してやがる

これじゃあ
鰹釣りの
名人
どころか
やっぱし
年寄りの
ひまつぶし
だあ……
ふ――ん
桜吹雪
かあ……
……
それにしても
色止め佐吉って
どこに
いるんだべ……
ヒラ
ヒラ
ヒラ

ン!?
ああっ!?
おじいちゃ——ん
ひいてっひいてるだ——っ!!

ヒョッ!!
ウワ〜〜ッ
な なんだい
こりゃあ
〜〜っ!
す
すげえ
ひきだ
〜〜っ!!

ウオッ
でてけえ!
ク〜〜〜ッ!!
うわっ!!
おじいちゃ——ん
のんきに
昼寝なんか
してる
ばあいじゃ
ねえ〜〜〜っ!!
お　おきて
くれよお——っ
てけえやつが
かかったん
だ〜〜〜っ!!

三平
とうしたんだっ!?
このとおり置き竿にかかってるだども
おうっ じいちゃん どうしたも こうしたも ねえだ
このおじいちゃん のんきなことに昼寝こいて いるだ〜〜っ
ええっ!?

ウッヒョ――――ッ!!
ホホウ
だいぶ
でかそう
だな
三平(さんぺい)・・・
ずいぶん ひきが
強(つよ)いようだが
だいじょうぶ
ですかね
・・・・・
子どもの
力(ちから)で
・・・
子ども
!?

ちょいと
宮川先生
三ちゃんのこと
子どもだと
思って あまく
みるでねえだ
こうみえても
クジラだって
釣りかねねえ
釣りキチ
なんだぞ
おぼえとけ!!
フフフ……
ウウッ!!
くっ
黒い!
……
まっ黒
のだ!!

三平――っ
しんちょうに
いけっ
しんちょう
に!!
ユリちゃん
玉網だ
玉網――っ
!!
ああっ!?
ウッヒョ〰〰!!

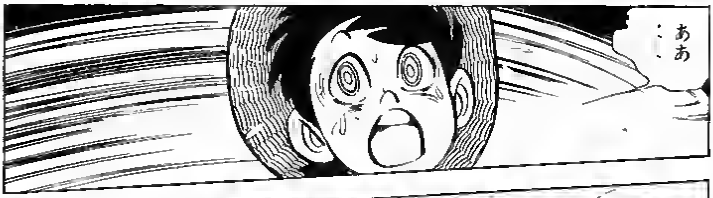
ああっ!!
よ――し
よ――し
そのちょうし
そのちょうし
ミ――ン
ミ――ン
ああっ
こ
これは
!?

漆黒のウロコにくっきりとちりばめられた桜の花びら!!
桜吹雪のカラス鯉!!
こ これは夢ではないまさに桜吹雪のカラス鯉!!
わさわざきたかいがあったというもの!!

三平 見ろ 鯉の口から われた タニシが…
やはり タニシは エサじゃった のだ
じいちゃん …と いうことは …
あの おじいちゃん が……
色止め 佐吉!!
おじいちゃーん
おきて くださーい!!
佐吉 じいちゃん!
じいちゃんの ねらってた 桜吹雪の カラス鯉が みごとに 釣れたん ですよ!!

ああ……
……

あら
三平ちゃん
どうしたの
……？
またおじいちゃんとお話してたの……

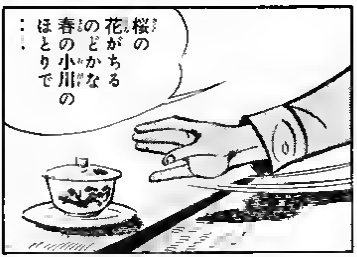

ああ……

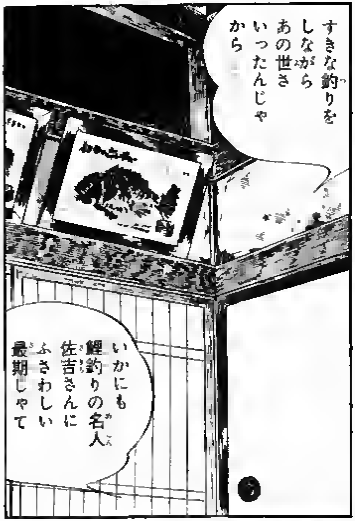
さくらねえちゃ〜〜〜ん！
おじいちゃんがおじいちゃんが!!

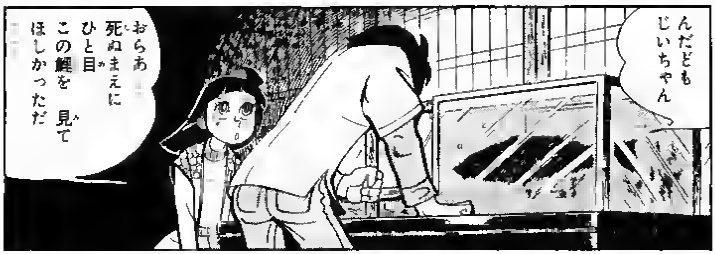
忌中

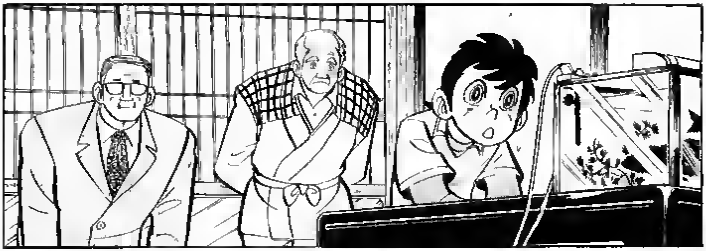
釣り糸をたれたまま息がたえていたなんて……
じつにおしいひとをなくしましたね一平さん……

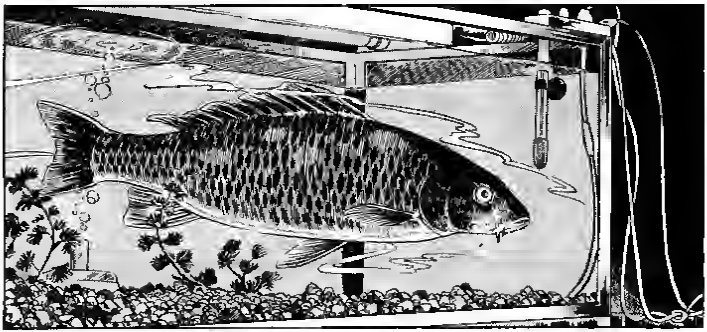
ウムまったくじゃが……
かんがえようによっては いかにも佐吉さんらしい大往生といえるべ


桜の花がちるのどかな春の小川のほとりで……


すきな釣りをしながらあの世さいったんじゃから
いかにも鯉釣りの名人佐吉さんにふさわしい最期じゃて

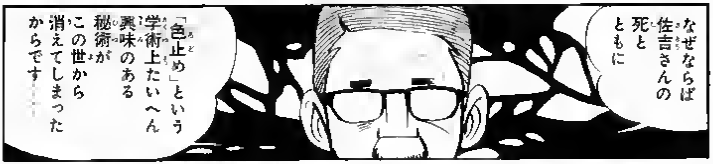

んだどもじいちゃん
おらあ死ぬまえにひと目この鯉を見てほしかっただ

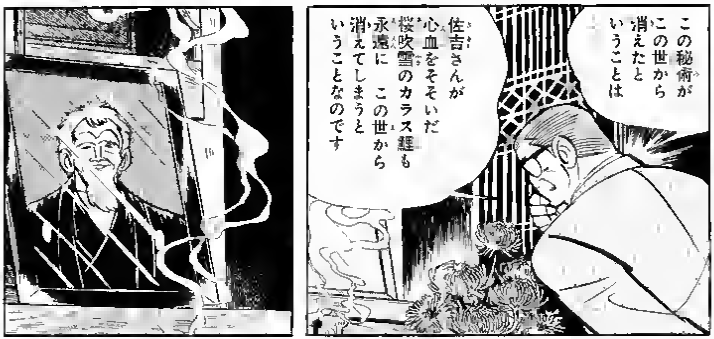




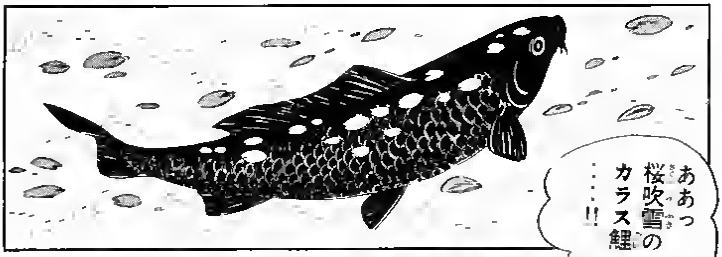
桜吹雪のカラス鯉
みごとな鯉じゃて
ウム…
赤黒のウロコといい
みだれちる桜の花びらといい…
この鯉はまさに芸術品としかいいようがない
三平くんのことばではないが
いきていてその鯉に「色止め」なる秘術をほどこしてほしかった

しかし
佐吉さんが
なくなった
今日！
もはや
そのうつくしい
桜吹雪の
証拠も
神秘だよう
赤黒のウロコも
やがて
色あせて
消えてしまう
でしょう……


なぜならば
佐吉さんの
死と
ともに
「色止め」という
学術上たいへん
興味のある
秘術が
この世から
消えてしまった
からです……


この秘術が
この世から
消えたと
いうことは
佐吉さんが
心血をそそいだ
桜吹雪のカラス鯉も
永遠に
この世から
消えてしまうと
いうことなのです

いいえ…
あたしの
おじいちゃんの…
色止め佐吉の
桜吹雪の
カラス蛾は
けっして
この世から
消えることは
ありません
!?
さくら
ねえちゃん
!?
どうぞ
こちらへ
……


ああっ
桜吹雪のカラス鯉……!!

みごとな振り袖……!!

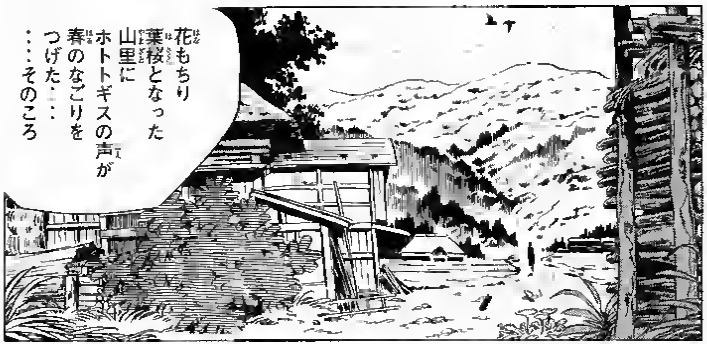
おじいちゃんは
この振り袖を
なくなる
三日前に
くださいま
した・・・
おまえの
花嫁衣装だ
よ・・・って
きっと
自分の寿命を
さとって
いたんでしょう
・・・
ですから
おじいちゃんの
桜吹雪の
カラス鯉は
永遠にこの世から
消えることは
ありません

そうだっ
そうだよ
さくら
ねえちゃん
！
桜吹雪の
カラス鯉は
佐吉じいちゃんの
思い出とともに
いつまでも
いつまでも
おねえちゃんの
うつくしい振り袖で
およぎつづける
んだっ!!

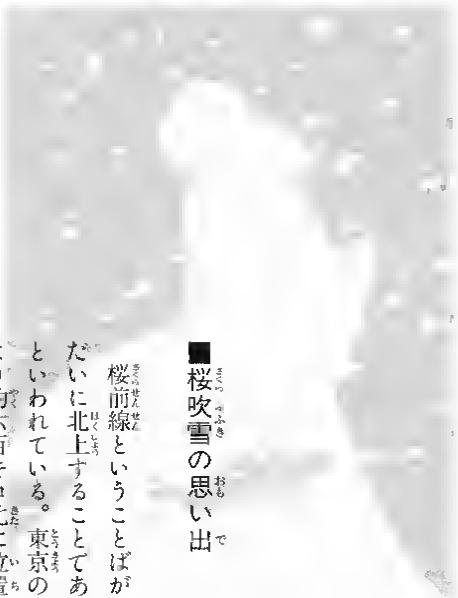
ありがとう
三平ちゃん
ウウッ
……

しあわせな
娘さん
じゃて
……

ウウッ
……



桜吹雪カラス鯉の巻　おわり



■桜吹雪の思い出

桜前線ということばがある。桜の開花が一本の線状になって、しだいに北上することである。このスピードは一日二十キロメートルといわれている。東京の桜の開花は、ほぼ三月の末であるが、そこより約六百キロ北に位置するボクの郷里、秋田は四月の末から五月のゴールデンウィークが満開となる。

生家の近くに、桜の名所で知られる真人公園があって、毎年この時期に花見をしたものである。公園の中央に大きな池があって、この池で花見行事の一つとして〝タライこぎ競争〟がおこなわれる。大きなタライにパンツ一枚になってのりこみ、池の正面からむこう岸まで手で水をかいて進む競争である。「カルデラの青鮒」の章で、

三平くんがタライにのって釣るシーンがあるが、あれはこの〝タライこぎ競争〟からヒントをえたものである。

この日は、花も散りはじめの、桜吹雪のなかでおこなわれた。ボクは一度も出場したことはないが、池のまわりをとりかこんだ大ぜいの声援をうけてこぎ進むさまは壮観であった。しかし、なにしろタライはまるいので、未熟なこぎ手はまっすぐ進めず、おなじ場所をクルクルまわる者や、バランスを失ってひっくりかえる者もいて大笑い。桜吹雪はしだいに水面を薄紅色の花びらでしきつめ、タライにも、しぶきをあびた顔や体にへばりつく。まさに、花びらまみれであった。

タライこぎ競争がおわって、池はまたもとの静けさにかえったが、桜吹雪はその後もふりやまず、水面をしきつめた。ボクは、わずかなおこづかいのなかからアイスキャンデーを買った。しゃぶるキャンデーにも花びらがまつわりついた。

ふと、ボクはなにげなく池をみた。大きな鯉が、浮いた花びらを一枚吸いこんで消えた。真鯉だったが、その背に花びらがくっきりと二、三枚へばりついていたことを記憶している。

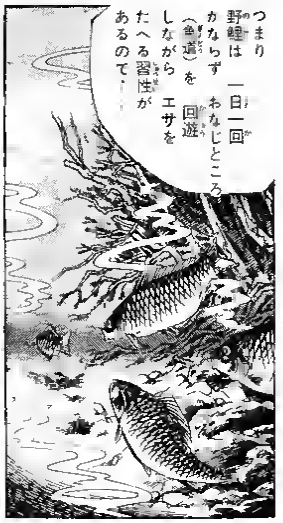
太郎沼の巨鯉の巻

そろそろにえたころだな……
ン……まだちょびっとかためかな……？
これ三平さっきからなんどそうやってつまみぐいしてるだ
クッ
あせるんじゃねえて……
むかしっから鯉は一日一寸（約三センチ）じゃて……

太郎沼の巨鯉の巻

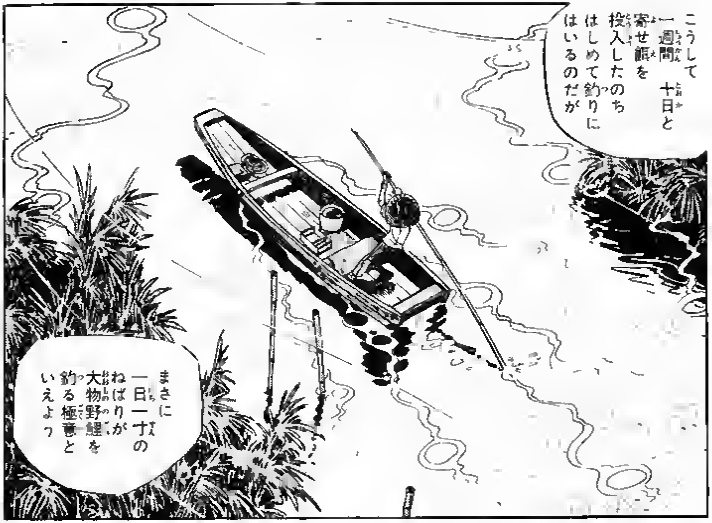
一日一寸かあ……
ようし!!
ヒュウ
ウウッ さ さぶいっ!!
それもそのはずだよなあ
もう奥山のてっぺんは初雪だもんなあ……

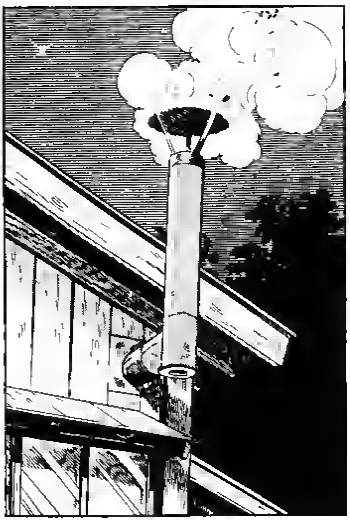
一日一寸……とは
むかしからいわれてきた
野鯉釣りの極意とも
いうべきものである
一尺（三十センチ）の
大物鯉ならば
十日間も釣り場に
かよってぐらいの
ねばりが必要で
あるということで
ある……


つまり
野鯉は　一日一回
かならず　おなじところ
（魚道）を　回遊
しながら　エサを
たべる習性が
あるので……

釣り場の地形を
見きわめ
ここぞと思うところに
寄せ餌をうって
自分の手で　魚道を
つくることから
はじめなければ
ならないという
ことである……

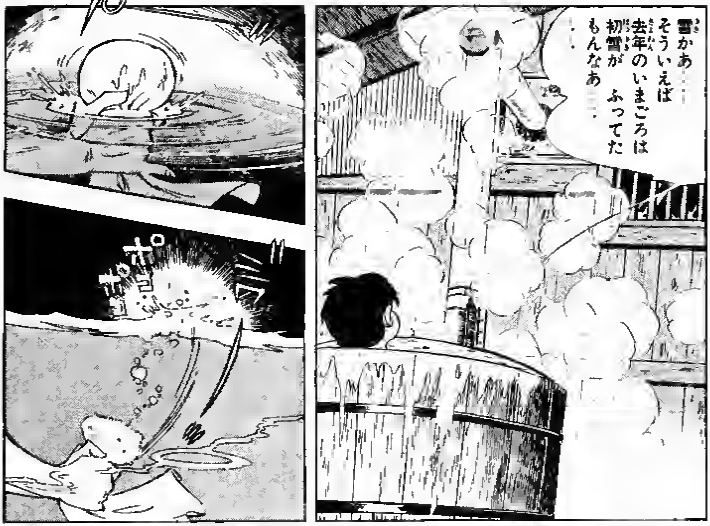
三平は
この大郎沼に
かよいはじめて
もう
十日いじょう
にもなろう
もちろん
垂道づくりの
ためである
天日で
かげぼしした
サツマイモ（農林一四号）を
ふかし
まだ
熱いうちに
五ミリくらいに
輪切りにして
湯気を発散
させる
それを
こく
さつに
プツプツが
のこるていどに
手でこねて
こぶしぐらいの
大ダンゴにして
投入するのだ
ウム!!
ここだっけな
フフフ・・

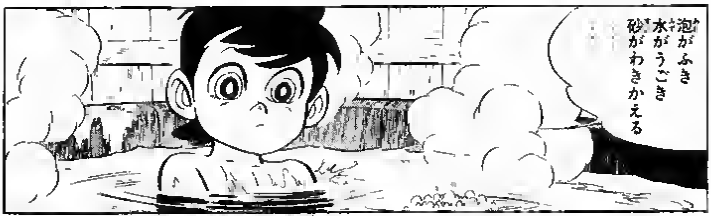




それはそうと 三平かこの大郎沼の巨鯉にチャレンジしようと思った動機は とくに巨鯉の存在を 確認したためではなく大郎沼にまつわる伝説から 思いたったものである

三平
どうじゃ
湯かげんは
ああ
最高だあ
そうけえ
おめえは
よくよく
フロのすき
な
ワラシ（子ども）
じゃな
フフフ
あいさ
おらはフロが
二番めに
すきだべさ
おや
一番めに
すきしゃ
なかったの
けえ
カ――ソ
しいちゃん
ったら
一番めは
釣りに
きまってるべ!!
ハハハ
ちげえねえ
こいつあ
まいった
まいった
フロもいいども
湯さめして
カゼひくてねえぞ
外はだいぶ
ひえこんどる
からのう
ひょっとしたら
雪になるんじゃ
ねえかなあ


雪かあ……
そういえば
去年のいまごろは
初雪が ふってた
もんなあ……
ポヨヨ


泡がふき
水がうごき
砂がわきかえる
……

泡ふき
……
じいちゃん!!

なんじゃとォ
太郎沼の伝説は巨鯉のしわざじゃねえかっていうのけえ……
うん!!
泡がふき
水がうごき
砂がわきかえる
この現象はまさに巨鯉がいる証拠だべ!!
三平!!
それよりもまずはやいとこ服を着れって
チンポコがカゼひくてねえか!!
アッ!!
大郎沼にまつわる伝説のあらましはこうてある

そのむかし
太郎という　三歳の
男の子が　あやまって
この沼におち
おぼれ死んだのが
ことのおこりで
あった

ところが
おぼれ死んだ
はずの
太郎の死体が
二日たっても
三日たっても
ういてこない

村じゅう総出で
夜は
たいまつを
ともし

昼は　小船を
うかべて　水底を
さがしたが
太郎の死体は
いっこうに
みつからない
ままに　十日
二十日……

村人の捜索は
ついに
うちきられて
しまった

しかし
いとしいわが子を
うしなった
太郎の母親は
なかば　半狂乱に
なりながら
沼のまわりを
まわり
わが子の名まえを
よびつづけたと
いう

太郎～～～っ!!

太郎〜〜〜っ
どこさいるだ〜〜〜っ
返事してくれ
太郎〜〜〜っ!!
太郎のおかあさんの足はドロにまみれカヤできったのか血がふきだしていたし着物のすそもボロボロであった

もう三十五日もなにもたべてなかったので目はおちくぼみからだもゲソゲソとやせほそっていた
太郎〜〜〜っ!!
だがそれでもおかあさんは太郎の名まえをよびつづけた
と ちょうど それは 太郎が ゆくえ不明になって 四十九日めのことであった

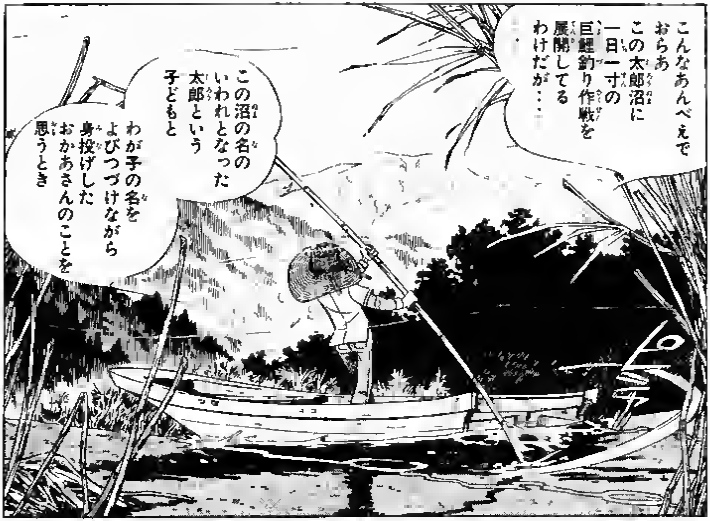
大変
ボヂョ
ああ

泡がふきだして
大きく水がうごいて
砂がわきかえったのは
ちょうど 太郎が
しずんだあたり
だったとか……
すっかり
衰弱していた
太郎のおかあさんは
それから ほどなく
まるで わが子の霊に
まねきよせられる
ように 入水自殺した
そうじゃ……
村人が
ふたりの霊を
なぐさめようと
沼にむかって
「太郎――っ」と
さけんだところ
にわかに
泡がふきだし
大きく水がうごき
砂が わきかえった
という……

以来 この沼を
だれかれともなく
太郎沼と よぶ
ようになったと
いうが
べつの名を
よんでも
この珍現象は
おきなかったと
いうのが
太郎沼の伝説
じゃ……
大乱

おらあ きくと 涙が出てくるだ
いつも このお話を
んだども 伝説は 伝説としても この珍現象は きっと 巨鯉の しわざでねえかと 思うだ
ウム その理由は
泡ふき よォ!!
鯉は 一年とって 大物になると ときどき 水中で タオルをしぼった ときのような 泡をふくべ
なるほど 巨鯉の 泡ふき現象と 伝説の珍現象を むすびつけたってわけか
しかし 「太郎――っと よべば 泡がふきたす ちゅうのは どう説明つける のかな――?
しいちゃん!! よーくぞ きいてくれ ましたっ!!
これぞ 条件反射と いわずして なんといおう!!
条件反射……!?

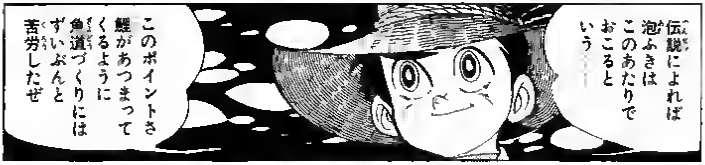
ほら…
池の鯉さ
エサをやるとき
手をたたいてから
やるくせをつける
と…
手をたたいた
だけで
あつまってくる
ようになるべ
あれと
おなじように
大郎 太郎と
いう声を
くりかえし
きかされて
いるうちに
しぜんと
その声をきくと
泡ふきをし
水をうごかし
砂をまきあげる
ように なっち
まったんだ
なーるほど
おもしれえ
かんがえじゃな
三平…
伝説は
ずいぶん
むかしの話じゃ
ろうが 鯉は 百年
生きるちゅうし…
どうてえ
じいちゃん
おらの推理も
まんざらでも
あるめえ!!
フフ…
じゃがな 三平…
もしそいつが
おめえの
思惑どおりの
巨鯉たと
したら…
鯉釣り
一日一寸を
わすれるで
ねえぞ


こんなあんべえでおらあこの太郎沼に一日一寸の巨鯉釣り作戦を展開してるわけだが…
この沼の名のいわれとなった太郎という子どもと
わが子の名をよびつづけながら身投げしたおかあさんのことを思うとき

なんだか胸がジーンとしめつけられてくるだ
かりに それが伝説としてむかしのひとがつくりあげたお話だとしても…

まあ いまさらそんだごたくをならべてみたってはじまらねえ
とにかくきょうというきょうは日ごろ たんねんにつくりあげてきた魚道をせめる一手!!
鬼が出るか蛇が出るか……!!

さあ ついたぞ おらの 目をつけた 最大の ポイントに……

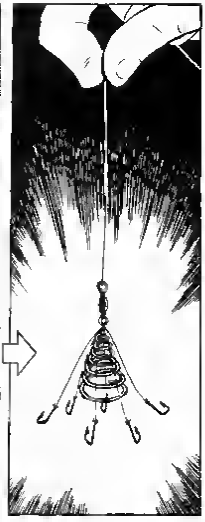

伝説によれば 泡ふきは このあたりで おこると いう……
このポイントさ 鯉があつまって くるように 魚道づくりには ずいぶんと 苦労したぜ

さあ!! 一日一寸の極意を いまこそ ためすときだ!!

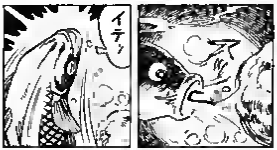
ンッ!!
よしと!!
キュル

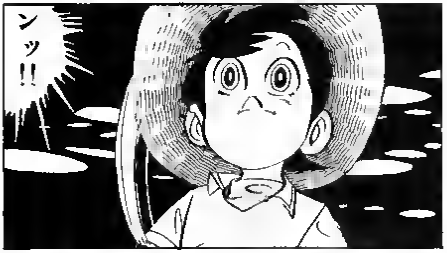
吸口釣りコナー

鯉は 雑食漢であるが 野鯉は一般に 浮き餌は食わず 食い方も 吸いこんだり はきだしたり 再三たしかめながらのみこむ そんな習性を利用して 考えられた釣り方が吸いこみ釣りである



吸いこみのしかけは 右図のように ラセンのまわりに 製網用ナイロンの より糸のハリスを6本 フサ状につけて このラセンに 卵の黄身くらいの大きさのイモネリをダンゴ状にもたせて ハリは1本ずつていねいに 等間隔にさしこんだら もういちど手で ぐっとにぎりしめてダンゴをまとめる このときハリが 外もき 内もきになっても関係ない





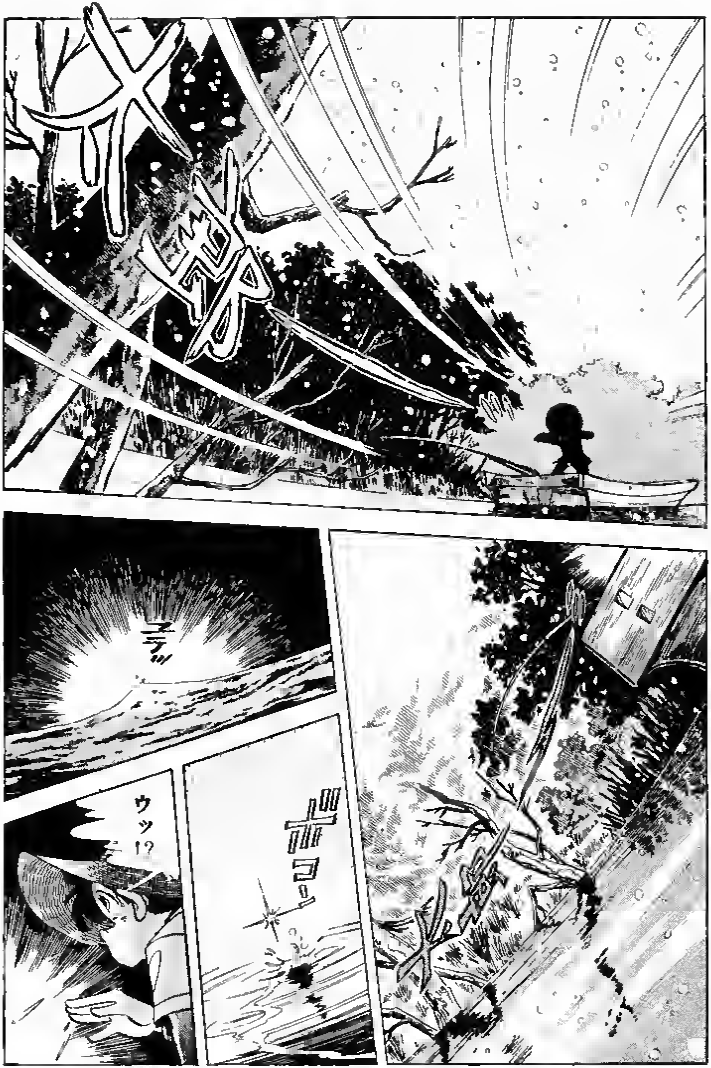
霜は 前夜が寒風で おだやかに
冷気がおりたときに 空気中の
水蒸気や 草の露がこおっておこ
りに水面に 薄氷がはるようなこ
る現象である こんな日は かり
とがあっても 水底はあたたかく
魚も けっこう活動するので ポ
イントをつかめば 思わぬ釣果が
えられる これとはぎゃくに 前
夜に つめたい風がふきあれると
草の露か ふきとばされて 霜に
ならないばかりか 水が つめた
い風にかきまぜられて 水底まで
ひえこんでしまい とうぜん 魚
の活動もにぶり エサ食いを やめてしまうため 釣れない

ウ～～～ン
お おかしい
けさは 霧こそ
おりなかったが
ゆうべは 風もなく
おだやか
だったし
時間的にも
もう とっくに
きてもいい
ころだが…
まさか 魚道の
つくり方が
わるいとも
思えねえ
…
十日も かよって
あれほど
念いりに
つくったから
なあ
ン!?

雪だっ!?
雪だ
初雪だ!!
うわ〜〜っ
どーんどん
ふって
きやがる
こいつあ
つもるぞ
ウッヒョ〜〜ッ
つもれ
つもれ
どんどん
つもれ

冬はありったけさむくってありったけ雪がふるのがいちばんだ――っ！
そうすりゃあ来年の夏にゃあその雪がとけて川はいつもきれいな水をいっぱいにたたえ
魚がごちゃまんとそだつ!!
ふれーっふれーっどんどんふれーっ
と!?
ふってふってどんどんつもれ～～～っ
いいかんこいつあいかん
このまま雪がつもったら
せっかく苦心してつくった魚道が消えちまうでねえか……

ようし
こうなりゃあ
いちか ばちか
奥の手をためすしかねえ!!


ザワ…
ザワ…
ウッ!?
ザブン

ゴゴゴゴゴゴ

あぁ……
あ 泡ふき
だぁ……
ま まさか
ほんとに
ふきだして
くるなんて
思っても
みなかった
のに
よぅし
もっと
よんで
みるべ!!

太郎
ああっ
!!
あ
あれは
……
!?

うわ〜〜っ
で 出た〜〜っ
お 奥の手
なんて いったども
伝説上の
ことだから
冗談て
よんだんだが
す すんごい
巨鯉が
・・・・

あぁ……
ふ　船さ
ちかづいて
くる……
すげえ
かんぜんに
一メートルは
こえてる
……
太郎
……
ゴボ

ウッ!!

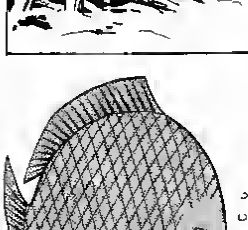
ウウッ……
太郎……
太郎――っ
太郎～～～っ

ゴゴゴゴゴ
で できねえ！
尾も ヒレも
ふさふさにさけ
ウロコはぶよぶよ
目ん玉は
うつろ…
おらにゃあ
とても
こんだけ鯉は
釣ることが
できねえ
で できねえ
とても
釣ることなんて
できやあ
しねえだ～～～
ウッ!!

ふれ――っ!!
ふって
ふって
ふりまくれ～～～っ!!
そんで
野も山も
この
太郎沼も
おめえの
白い綿で
つつみかくして
くれ～～～っ!!

お――い
三平――っ
!!
キ――ン
かぶりものを
もってきた
ぞ――っ
おうっ
すまねぇ
じいちゃ
――ん
ほんで
どうじゃっ
た・・・
怪ふきの
正体は
わかったけぇ
・・・
わかるも
わからねえも
この雪だもん
・・・
釣りも
へったくれも
あったもんじゃ
ねえて・・・
まったくだ
このあんべえだと
今夜はそうとう
つもりそうだなや
さあ
かえるべ

柳田国男著「日本の伝説」（角川文庫）刊
によれば 伝説の主となったひとの 名まえ
をよぶと 泡がふきだしたり 清水がわきだ
したりする 古井戸や 池 沼が 全国各地
に すくなくない ひとの名まえにかわり
大声で 悪口をたたくと お湯がわきだして
くる温泉や 念仏をとなえると いつもは
水がすくなくても たちまち水がわきだす
念仏池 また それとは反対に「ナムアミダ
ブツ」をとなえると しばらくのあいだ わ
きあがるのをやすむ泉など かぞえたら きり
がないほどの珍現象が かたりつたえられ
ている これらの伝説は いずれにせよ「水」
というものが いかに大切であるかを 物語
るものであり その めぐみの大切さをう
やまうために 神仏にむすびつけて祭られ
語りつたえられたものにちがいない



太郎沼の巨鯉の巻 おわり

■弟の死

ボクは長男で、一人息子として生まれた。もっとも、一人息子といえば、一粒ダネとかんちがいされそうだが、四人の妹がいる。つまり、五人兄妹の長男ということである。しかし、これはあくまで現在の姿であって、じつは弟が一人いた。だが、その弟はボクが小学四年生のとき、三歳という幼さでこの世を去った。死因は、その年、全国的に猛威をふるった〝百日咳〟におかされ、心臓マヒによるものだった。

寒い晩、秋の夜だった。日ごと夜ごとにおそいくる激しい咳と高熱に、弟の体はすっかりやせ細り、おふくろのふところにすっぽりとだかれていた。痰で気管がふさがれ、のどがゼーゼーと鳴っていた。

と！　何千回めかの激しい咳がおそった。弟ののどがグキッと異様な音を発したのは、そのときだった。思わずおふくろが、二度三度体をゆさぶって弟の名を呼んだ。しかし、弟の呼吸は、その異様な音と同時にピタリと停止したまま、みるみる顔色が赤から土色、そしてブドウ色へと変化していった。苦痛にゆがんだ顔は、こめか

みにくっきりとスジが浮きだし、目は虚空をみつめて人きくみひらかれ、やせ細った足はおふくろのヘソをつきやぶらんばかりにつっぱり、小さな手は乳房をかきむしって硬直し、やがて弟の目から光が消えていった。

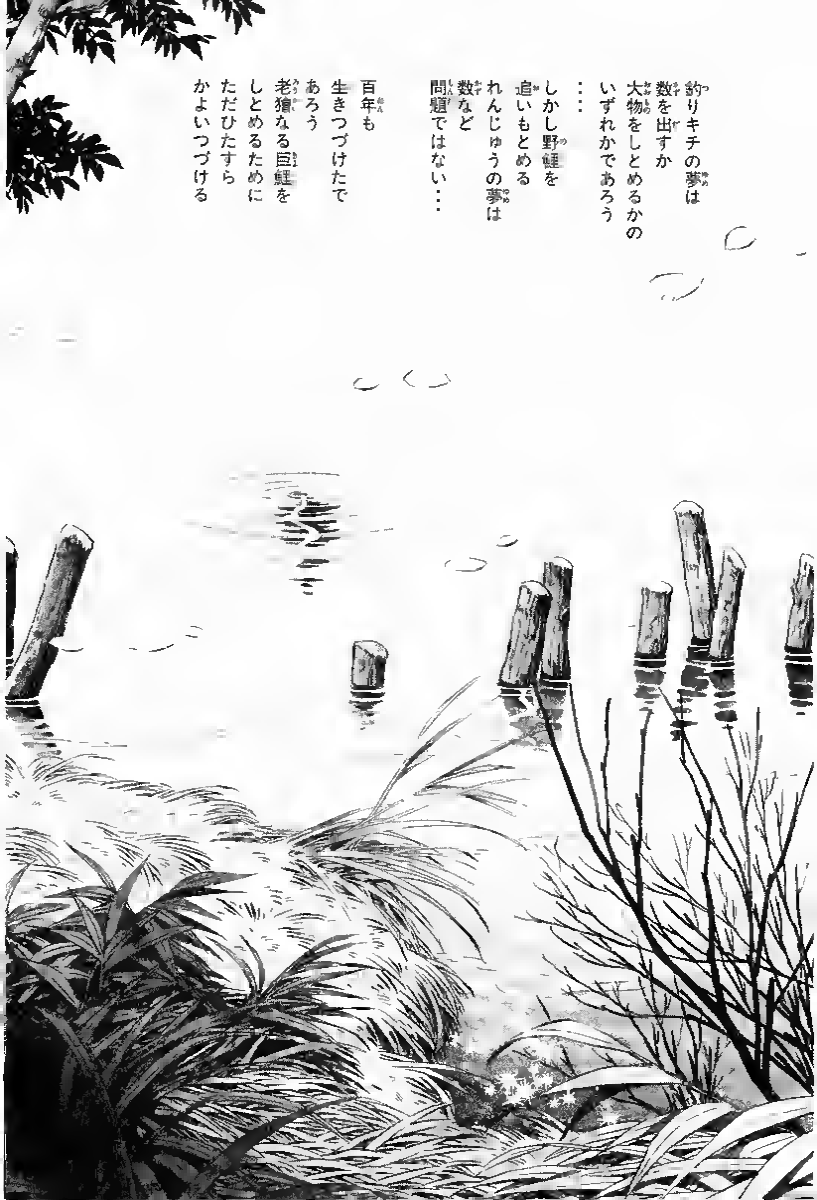
ボクも妹（このときは三人兄妹で、弟は二番め）も、まぶたの落ちた弟にしがみついて泣いた。だが、そのときおふくろのとったしぐさは、あれから三十年たった今日でも忘れることはない。すでにつめたくなりつつある弟を、静かにふとんに横たえ、毅然と立ちあがったかと思うと、泣きわめくボクらを目でたしなめながら台所へと消えた。末期の水をくみにいったのである。

泣いて疲れて、ボクも妹も眠ってしまったらしい。しかし、明けがたちかくに目をさましたボクは、強烈なものをみた。骸と化したわが子を、素肌にしっかりだきしめ、何かを語りかけているおふくろの姿であった。

ここまで語れば「太郎沼の巨鯉」を描いたときのボクの心境がおわかりいただけるだろう。弟の死はボクにも妹にも、もちろんおふくろにも一大ショックにはちがいなかったが、人間の生命の尊さを知る貴重な体験だったとボクは思う。

釣りキチの夢は
数を出すか
大物をしとめるかの
いずれかであろう
…
しかし野鯉を
追いもとめる
れんじゅうの夢は
数など
問題ではない…

百年も
生きつづけたで
あろう
老獪なる巨鯉を
しとめるために
ただひたすら
かよいつづける



矢口高雄
矢口プロ作品

巨鯉釣り大作戦
PART 1
釣りキチ

例年 記録的な
大物野鯉の出る
M川 三日月湖
一帯には……

今年も
巨鯉を夢見る
多くの 野鯉師
たちが つどい
あっていた……

三日月湖といえば 湖と思いかちだが 地学的には 河跡湖とよばれるもので かつて 蛇行してながれていた川が 洪水などによって あらたな本流ができあがったために 三日月型にとりのこされた いわば 古川のことである

M川の三日月湖も
その例にもれず
数十年前の洪水で
できあがったもの
であるが

三日月湖

あたらしい本流

その
洪水のとき
上流の 鯉の
養殖池がやぶれ
あびただしい数の
鯉が流出し……

この
三日月湖に
にけこんだと
いう……

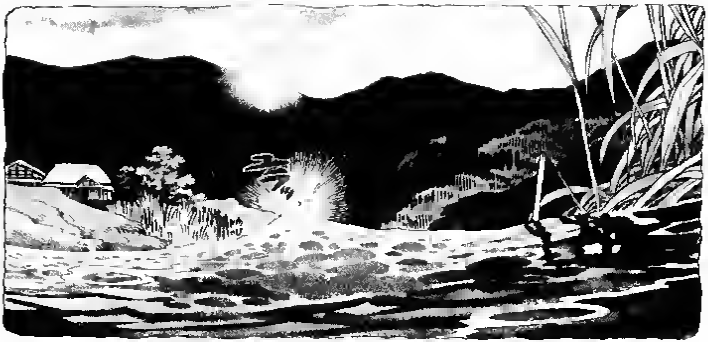
本流が
新川にうつって
なかれがまったく
ゆるやかになった
三日月湖には月日の
ながれとともに
ほどよく水草も
はびこって鯉の
絶好のすみ家に
なったことは
いうまでもない
とともに・・・
いかに
この三日月湖が
大物野鯉の
好ポイントで
あるかが
つなずけよう

まあ
そんな話は
べつと
しても・
とにかく
野鯉師たちに
二三
インタビュー
してみよう
このヒト…もちろん世紀の八十二ボーイ
矢口高雄でるる
キャ～ッ
すてき!!
しびれる
わァ!!
さゆうせ
マェ!!
ドコマ
釣り師 A氏
なんだ
とォ…!?
野鯉釣りの
魅力だとォ
!?
そんなこと
きまってるじゃ
ねえか…
どえらい
大物を
しとめる
ことよォ!!
ザコには
とんと
用は
ねえわさ
ギョピ

まあ
この三日月湖は
歴史的にみても
立地条件からしても……
大物野鯉が
ウジャウジャ
いることは
うたがいようの
ねえ 事実だが
まさか
あれほどの
大物がすんで
いようとは
思わなんだ
ありゃあ
ちょうど 日も
暮れてきたんで
竿をたたんで
土手を のぼり
かけたときだった
……

わしゃあ
なんかの
気配を
感じて
ヒョイト
ふりかえった

ン!?



そりゃあ
もう でかいの
なんのって
……
身の丈は
ゆうに三尺三寸
（約一メートル）
……
体高一尺五寸
（約四十五センチ）
……!!
やや 紅味を
おびた 金色の
ウロコは
ぐっとしぶく
すすけて
十円玉ほどの
でかさだった
から……
どう見たって
百年ちかくは
生きてる
超大物野鯉で
あることは
……
まちがい
あるめえ!!
ヘエ～～～ッ
ひゃ 百年も……!!
そうよ
むかしから鯉は
百年生きると
いわれとるぜ
……!!
しかし おめえ
かんがえてもみろよ
百年も生きつづけて
きたってことは
その間 さまざまの
外敵から身をまもり
病気にもうち勝ち
多くの釣り人のハリにも
まどわされることなく
生きながらえて
きたってことに
なるから……
これを
釣ろうって
ことは
大変なこと
なんだぜ!!

釣り師B氏の場合

な――に……!?
体長一メートル
体高四十五センチ
百歳をかぞえる
超大物野鯉だって……!?

ギッヒッヒ　この三日月湖にゃあそんなやつがすくなくとも三本はいるぜ
げんにおれはそのうち二本までは確認しとる

それでやっぱりあなたもそれがねらいですか……?

この三日月湖の野鯉師にとっちゃあ一尺や二尺なんてめじゃねえ!!

ギヒヒヒヒきまりきったことをきくんじゃねえやい!!

なんだとォ…!?
しかけをきかせろだとォ…!?
こんのやろうなに気ねえツラしてよくもそんなことがいえるな
てめえがきいてることはどんなことかわかっとんのか!?

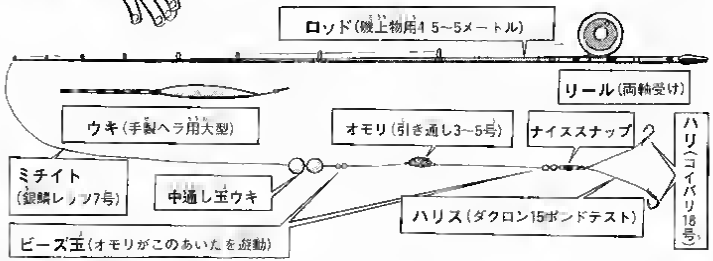
釣り師はてめえのしかけや穴場を公開するってことはめったにしねえもんよ!!
なぜなら
それは釣りってもんが孤独をたのしむもんであり
そんなかから粒々辛苦してあみだした秘策をもちいて人に先んずるということが無上のよろこびなんだからさ

しかし まあここだけの話として ほかには絶対もらさんというのならわしのマル秘中のマル秘作戦を見せてやってもいいぜ

お おねがいします
絶対ないしょにしますから…!!

ようし しからば……
まず 渇手は淡水魚といってもメーターク ラスの越大物野鯉だからヘラ竿や ヘナチョコ竿などの もたねえし……では
かかっても観念して寄ってくるまでには そうとうあばれたりつっ走ったりするだろう…

そこで　まず
ロッドは
ごらんのとおり
磯上物釣り用
四・五〜五・〇
メートルを
使用
リールは
釣力の強い
両軸受けリールに
ラインはたっぷり
二百メートルを
準備し…
一本は
ウキ釣り
もう一本は
ブッコミで
ためして
るって
わけさ!!
まあ
ここまでは
だれでも
かんがえ
られる
としても
問題は
しかけき
…
じっくりと
見てくれ!!


ロッド(磯上物用4.5〜5メートル)
リール(両軸受け)
ウキ(手製ヘラ用大型)
オモリ(引き通し3〜5号)
ナイススナップ
ハリ(コイバリ18号)
ミチイト(銀鱗レッツ7号)
中通し玉ウキ
ハリス(ダクロン15ポンドテスト)
ビーズ玉(オモリがこのあいたを遊動)

へエ〜〜ッ
これが　マル秘
しかけ…!?
しかし
いったいどこが
マル秘中の
マル秘部分
ですか…!?
エサ(シャクイモの角切り
か　ねりえ)
ポイントが
近いとき
ポイントが
遠いとき

よくぞきいてくれましたっ!!
Y字バリとはいうまでもなくY字型をしてることから命名したわけだが
チチワ(ナイススナップに連結)
(4~5センチ)
ハリス(ダクロン15ポンドテスト)
ハリ(コイバリ16号)
ふつうの二本バリじかけとちがうところはハリスの長さが四~五センチときょくたんに短いところにミソがあるんだ!!
なにをかくそうわしのマル秘中のマル秘とはこのハリス!
名づけて野鯉用のY字バリ!!
すなわちこのハリスの一方をのみこんで鯉は必死にあばれまくっているうちに
もう一方が下アゴやエラのあたりにかかって大鯉の走りにブレーキがかかるって寸法!!
げんにわしはこのしかけで七十二センチ六・一キロという大物を
たったの三分たらずでとりこんだ実績があるんだぜ……
どうだいおどろいたろう!!

まあ 見てろってこの三日月湖にゃあ名だたる野鯉師が目をひからせとるだろうが……
百歳の超大物はわしのもんだぜガハハハ

おいおいくれぐれも秘密だぞ秘密……!!

フフフとかなんとかいってるけど
内心はやっぱり人に自慢したいんだよなあ……

釣り師C氏の場合

ケッヘッヘ……
野鯉釣りの極意はむかしからいわれてきた"一日一寸"につきるた

知ってるだろうが野鯉というやつは一種の回遊魚で
一日一回かならずおなじ道(魚道)を回遊しながらエサをたべる習性があるんだ……

したがって
釣り場の地形を
見きわめ 魚道を
発見したら

そこに
くりかえし
くりかえし
寄せ餌をうって
魚を寄せる

つまり
"一日一寸"とは
一尺(三十センチ)の
鯉を釣る
ためには

十日間も
釣り場にかよって
寄せ餌をうつ
ほどの ねばりが
かんじんであると
いうことじゃ

じゃから あえて
野鯉釣りの秘訣はと
きかれれば

一に釣り場の選定
二にエサ
とでもいうことに
なるかな…?

なるほど

一にポイント
二にエサ…

まあ見てくれ
エサといっても
野鯉釣りには
二種類ある

ひとつは
魚道にうちこんで
鯉を寄せるための
寄せ餌であり

もうひとつは
ハリにつけて
鯉を釣るための
食わせ餌だ

こいつは
食わせ餌にする
ジャガイモの
煮たものだが
身割れ
しないように
塩を少々いれて
水から 五時間も
かけて コトコト
煮たものだし

こっちは
高系十四号
という 品種の
サツマイモを
・・・
かげぼしにして
三 四時間
じっくりと
煮こんだもの
だが・・・

やはり身割れを
ふせぐために
サラシでくるみ
糸でしばって
煮こみ・・・
さめないうちに
注射器で
ハチミツを 注射
したものさ・・・

ハチミツを
注射・・・!?

ハハハ
そんなのは
まだ序の口で
これなんかは
わしの マル秘餌
とでもいうべき
イモヨウカンで
ふかしたイモを
すりつぶし
カタクリコを スプーン
一ばいと黒砂糖一、五はい
ハチミツ一、五はいに
つなぎ粉として メリケン
粉を 三ばいいれて
さらに
アルミニュームの
弁当箱につめ
セイロで二十分間
むしたものだ

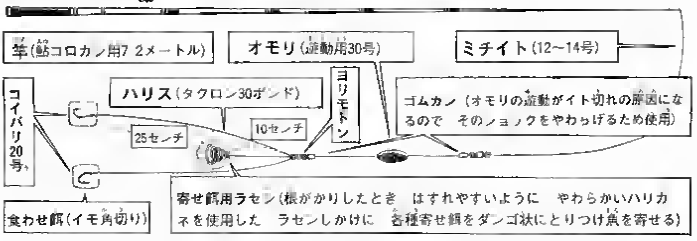
ヘエ〜〜ッ
すごい
ですね
これじゃあ
われわれ人間が
たべたって
おいしそう
ですね

あったりめえ
よう!!
こっちの
寄せ餌なんかは
集魚効果を
ますため さらに
サナギ粉やエビ粉を
まぜたり

かくし味としてミリンやワインウイスキー日本酒などをいれたものや
赤まむしドリンクや栄養剤を投じたもの
はては化学調味料までいれて研究してるってわけよ!!

ウヒャ〜〜〜ッ
するとあなたのマル秘作戦とはエサですか…!?

そうよ野鯉釣りの秘訣は一にポイント二にエサー
この金言にもとづいてあみだしたのがつぎのしかけよ
フフフフ…


竿(鮎コロカン用7.2メートル)
オモリ(遊動用30号)
ミチイト(12〜14号)
ハリス(タクロン30ポンド)
ヨリモドシ
ゴムカン(オモリの遊動がイト切れの原因になるので そのショックをやわらげるため使用)
コイバリ20号
10センチ
25センチ
食わせ餌(イモ角切り)
寄せ餌用ラセン(根がかりしたとき はずれやすいように やわらかいハリカネを使用した ラセンしかけに 各種寄せ餌をダンゴ状にとりつけ魚を寄せる)

釣り師D氏の場合

ハハハハ
一に場所
二にエサ
とな
たしかに
そうには
ちげぇねえが
野鯉釣りは
なんてったって
腕と執念
じゃよ

とくに 超大物
野鯉ともなれば
かならず
釣ってやるぞ!って
気迫と執念が
なくちゃあいかん

たいていのやつらは
夕方になれば
きょうは もう
ダメじゃろう
って 竿をたたんで
しまうが
わしの場合は
そう思ってから
さらに 一二時間
ねばってみる

そのねばりが
いつもわしに
大逆転勝利を
あたえてくれるんじゃよ!!

な——に
マル秘作戦……!?

だから
いったべ
野鯉釣りは
腕と執念
じゃと

ちかごろの わかいもんたちは みように複雑な しかけを 考案したり…
バカ値段の竿や リールなんちゅう機械をつかっとるようじゃが…
釣りなんてもんは世のなか どんなに進歩しようがしょせん
エサをつけたハリに 魚が食いつけば釣れるという単純なもんさ
竿(3間半=約6.3メートルの布袋竹のべ竿)
ミチイト(ナイロン6号)
ハリ(セイゴ18号)
ハリス(ナイロン3号)
オモリ(1号ナス型3個)
チチワむすび
30センチ
20センチ
エサ(しゃがいもの角切り)
ヘラウキ(手製50センチ)
じゃからしかけなんてむしろ単純なものほどいいし
竿もごらんのとおりごつごつ布袋竹ののべ竿一本きり…!!
まあ…しかけもさることながらあたりほとりを見まわすと
竿をなん本も出して釣っとるやつらをよく見かける
ヘタな鉄砲も数撃ちゃあたる式のことをかんがえてのことじゃろが
釣りの基本はあくまでも一本釣りよォ!!

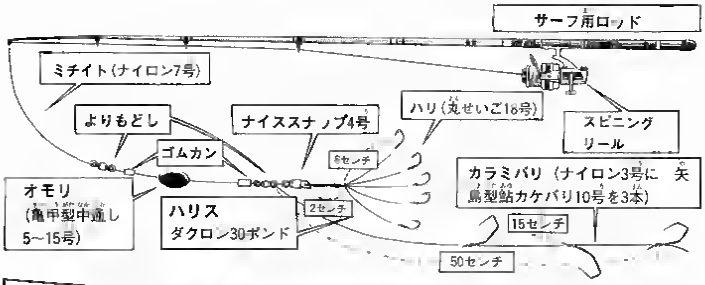
絶対釣ったる！
という気もちを
ただ一本の竿に
たくして釣る!!
このねばりと執念が
大物野鯉を
しとめる わしの
マル秘作戦!!
年はとっても
まだまだ
わけえ
もんには
負けんて…

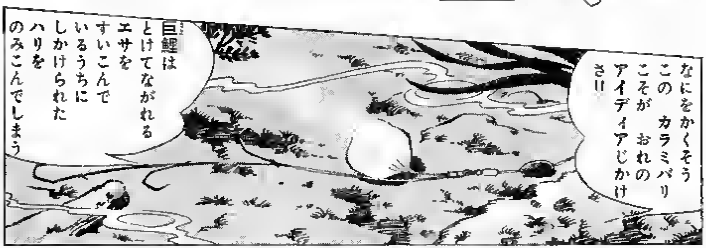
釣り師E氏の場合

フフフ
ねばりと
執念だって
!?
いまどき
そんなふるくせえ
かんがえが通用
すると思うかい!!

いまや
すべてが 科学
とアイディア
の時代!!
たかが
魚釣りと
いっても
あらゆる機械や
アイディアを
駆使してたのしむ
時代なんだぜ

このロッドは
投げ釣り用
ロッドだが
ついてるしかけは
スイコミだ
しかし ただの
スイコミ
じかけじゃあ
ねえんだぜ

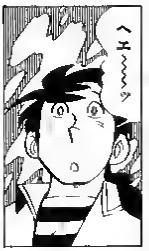

サーフ用ロッド
ミチイト（ナイロン7号）
よりもどし
ゴムカン
ナイススナップ4号
ハリ（丸せいご18号）
スピニングリール
6センチ
2センチ
オモリ（亀甲型中通し5〜15号）
ハリス ダクロン30ポンド
カラミバリ（ナイロン3号に矢島型鮎カケバリ10号を3本）
15センチ
50センチ


なにをかくそうこのカラミバリこそがおれのアイディアじかけさ!!
巨鯉はとけてながれるエサをすいこんでいるうちにしかけられたハリをのみこんでしまう

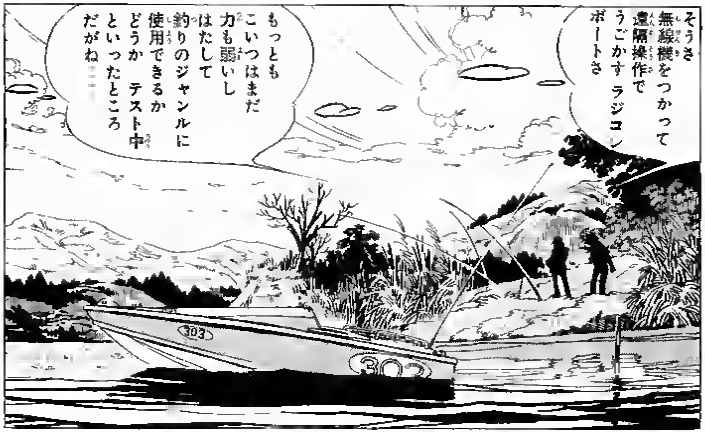
さしもの巨鯉もオタブツというわけさ

ハリをのみこんだ巨鯉はとうぜんもがきまくるわけだがこのもがきにじょうじてカエシのないカラミバリがからだのあちこちにつきささって

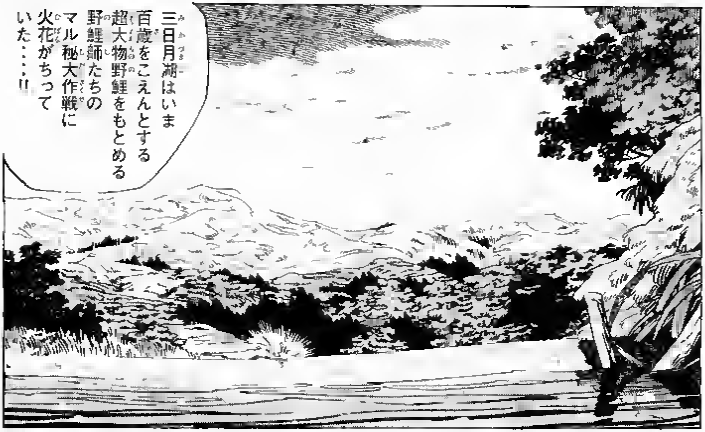
ところで目の前のカメラみたいのはなんですか？

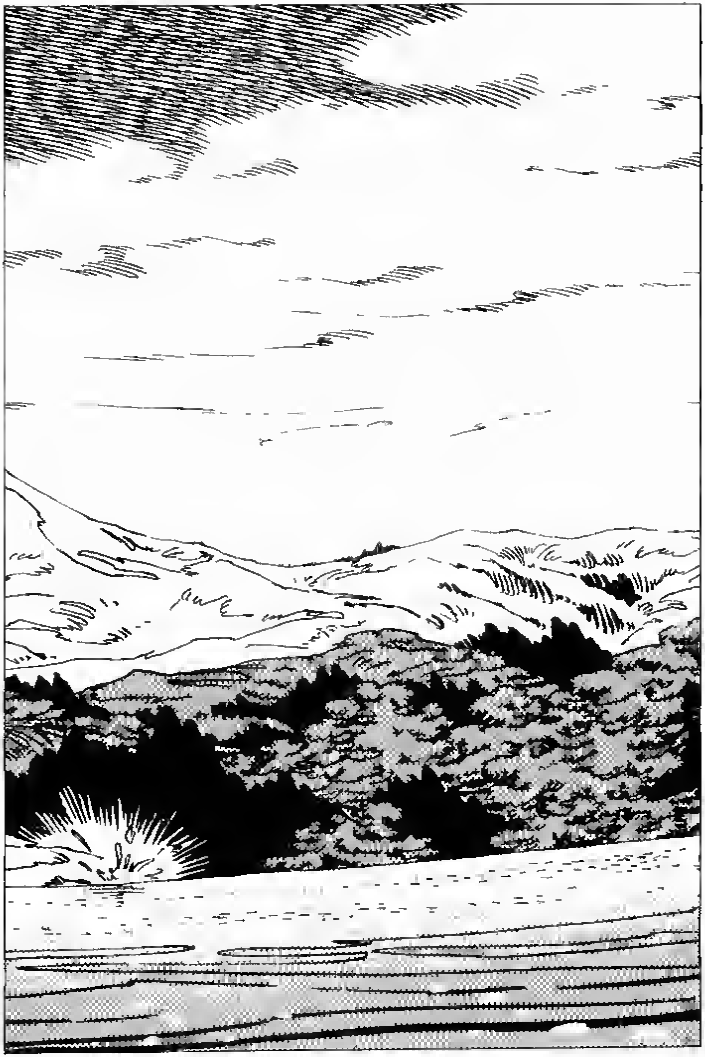

ヘエ〜〜〜ッ

こいつか…
こいつはウキの微妙なアタリを拡大して見るワイドスコープだ
ちょいとのぞいて見るか
ハリャッ!!
こりゃあすげえやウキのトップがこんなにでっかく見える
あったりめえよオ拡大率三倍のワイドスコープだもん
そんなもんはどうってことねえさ
それよりもあれを見ろ…!!
なんですかあれは!?
オモチャのボートみたいだけど
フフフ たしかにオモチャのボートにはちがいないが
ただのオモチャではなくしかけをつんだラジコンボートだ!!
ええっ?
ラジコンボート…!?

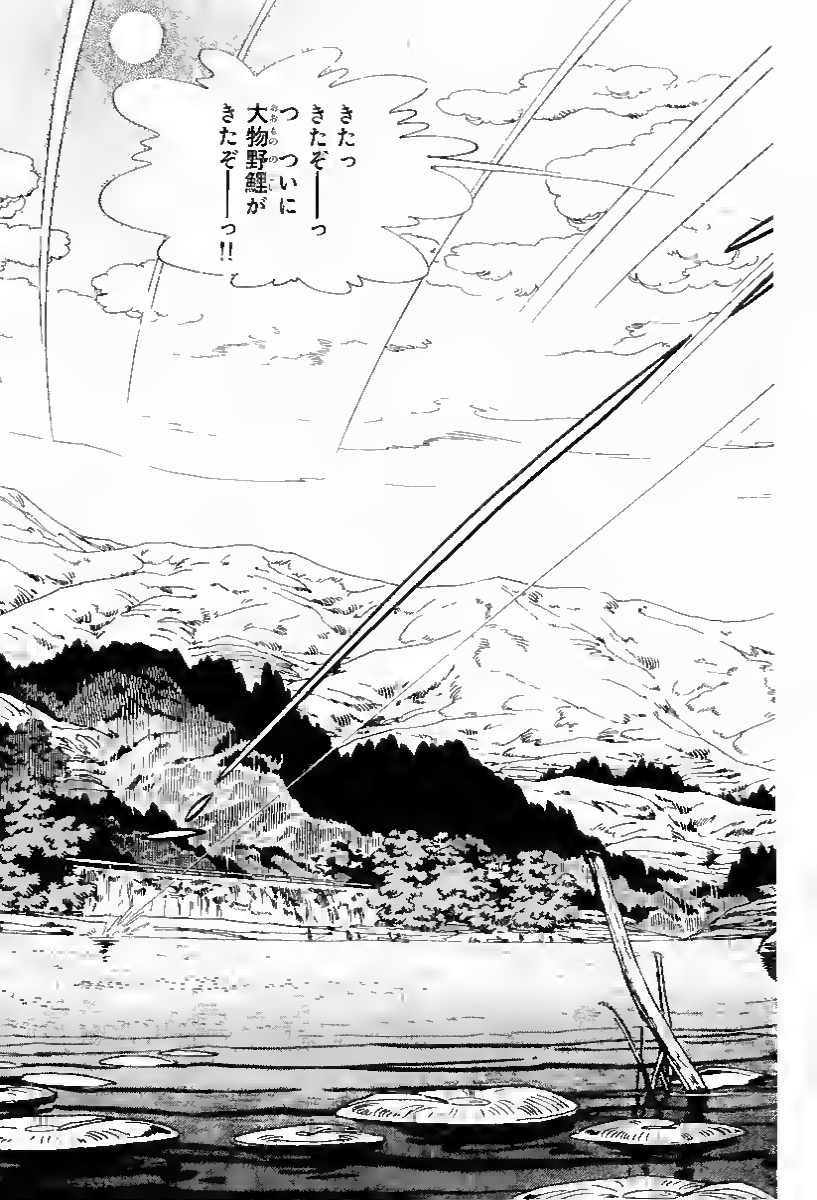

そうさ
無線機をつかって
遠隔操作で
うごかすラジコン
ボートさ
もっとも
こいつはまだ
力も弱いし
はたして
釣りのジャンルに
使用できるか
どうか テスト中
といったところ
だがね
303

な なるほど
ラジコンの
釣りかあ
こいつあ
おもしろく
なってきた
ぞオ


三日月湖はいま
百歳をこえんとする
超大物野鯉をもとめる
野鯉師たちの
マル秘大作戦に
火花がちっていた……!!



うわっ
!!


きたっ
きたぞ――っ
つ ついに
大物野鯉(おおもののごい)が
きたぞ――っ!!

ムッ!!
な なんだとォ!?
そ そんなバカな…
まさか例の大物では…
カ〜〜〜ッ
こいつぁすげえ
例の百歳の大物にまちがいねえっ!!

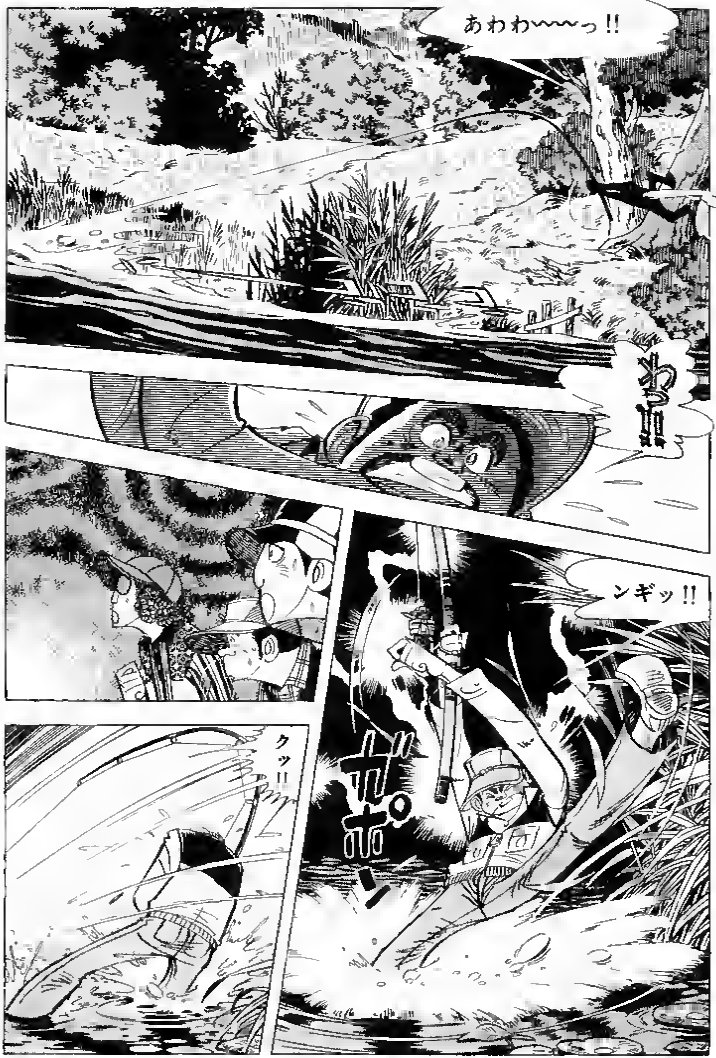
と　とにかく
いってみよう

そ　そんな
はずは
ねえ

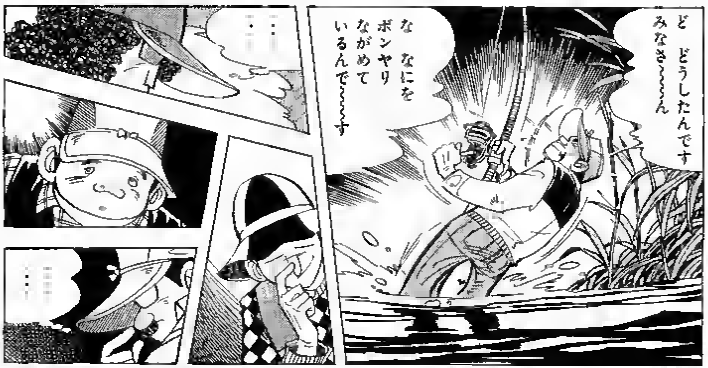
しかし
あのひきは
かなりの
もんだぜ

クーーーッ!!

ングッ!!
こ こなくそっ
あ あ…
あわっ!!


あわわ〜〜っ!!
ンギッ!!
ポ。ポ。
クッ!!

クァ〜〜〜ッ
みみなさ〜〜〜ん
ど どうやら
わしひとりの手には
おえそうも
ありませ――ん!!
ジジ…
どうか
とりこみに
手をかして
くださ――い
おねがい
しま――す!!


ど どうしたんです
みなさ〜〜〜ん
な なにを
ボンヤリ
ながめて
いるんで〜〜〜す
…
…

ハハ――ン
そういう
ことかい！
わかった
ぜっ!!
でめえらは いま
ねらってた大物が
目の前で わしに
釣られようとして
いるんて あったまに
きてるんだろう!!
くやしくて
バラせばいいとも
思ってやがるん
だろうっ!!
そうかい
そうかい!!
でめえらには
釣り師としての
連帯感なんて
ハナクソほども
もってねえんだ
な～～～っ!!
もう
たのまねえ!!
そのかわり
こいつは
さかだちしても
わしひとりの力で
とりこんで
みせるから
だれも
手出しを
するんじゃ
ね――っ!!

まあ　まあ
そんなに
力みなさんな
ホウラ
もうだいぶ
弱っとる
ぞ：
ああ・・・

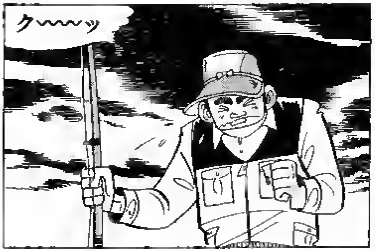
ああっ!?
よーしよしもうちょいだ
しんちょうにしんちょうに・・・
ンン
カリカリ
!?
アハッ!?
よっしゃあそこだそこだ!!

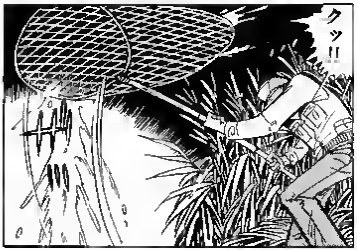
ホイッ!!
ガハハハハ
なーにが
百歳の超大物
野鯉だい!!
ガタガタ
わめきやがって
よォ!!
……
……
いやいや
ごりっぱな
型じゃよ
これは……
さっと
みつもっても
二尺二寸
(約七十二センチ)は
あるな……

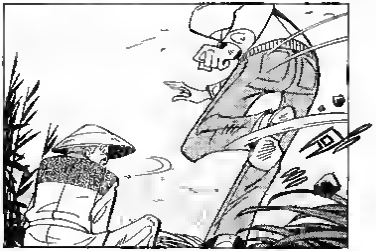
ハハハハハ
コマイ
コマイ
ふつうの
釣り場なら
いざしらず
そのていどの
型に
よろこんで
いるようじゃあ
この三日月湖の
一流野鯉師にゃあ
なれんて!!

まったく
人さわがせも
いいとこだ
さあ
かえって
釣るべ!!

おれだったら
あんなもん
ただちに
放流するぜ
ハハハハハ


クーーッ

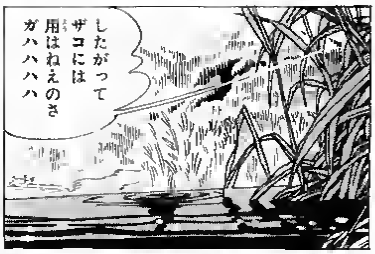

クッ!!



ハリヤツ
も もっていねえ!!

せめて大きさと目方くれえはかっとけばよかったと思うがな…

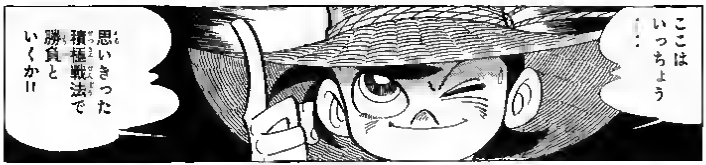
フフフ じいさんせっかくとりこみをてつだってもらってこんなことをいうのもおかしいが…
やつらのいうとおりおれたちのねらいはあくまでも百歳の超大物野鯉よォ!!

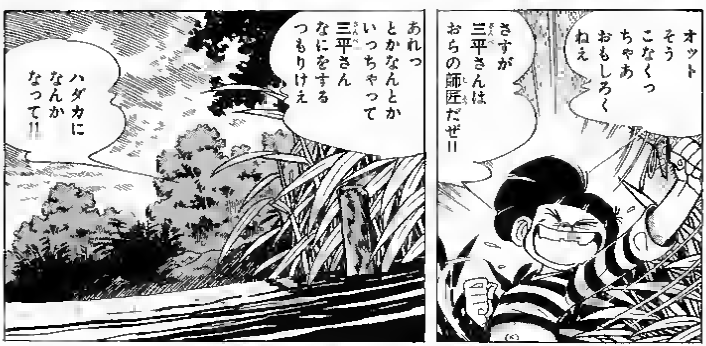

したがってザコには用はねえのさガハハハハ

フッフッフ二尺をこす野鯉がザコとな…
そういうもんかのうフッフフ…

ンギッ!!
ああ
おおしかった
ギッヒッヒ
みんなのてまえつっぱってカノコつけるからそんなことになるんだよ
しかし 正治 この三日月湖ではそんな気分になるのもむりねえぜ……
なにしろまわりにゃあ腕におぼえのウルトラ野鯉師たちのあっつい視線が無数にひかっているからな……

それにしても
これだけ一流の
野鯉師れんじゅうが
ひしめきあい
……
しかも
ねらう獲物が
百歳にもなろうと
いう 超大物
野鯉となれば……
まず
まともに
いっては
勝ちめは
あるめえ!!

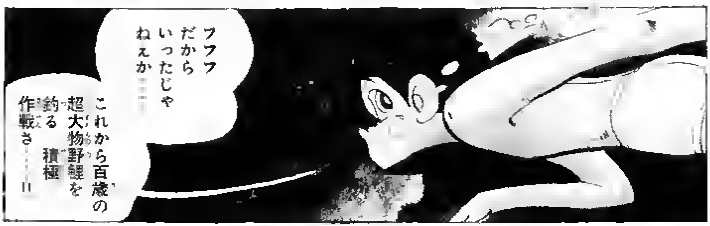

ここは
いっちょう
……
思いきった
積極戦法で
勝負と
いくか!!


オット
そう
こなくっ
ちゃあ
おもしろく
ねえ
さすが
三平さんは
おらの師匠だぜ!!
あれっ
とかなんとか
いっちゃって
三平さん
なにをする
つもりけえ
ハダカに
なんか
なって!!

きまってるしゃねえか!!
百歳の超大物野鯉釣りの積極作戦開始さ!!
ええっ!?
さあ 正治(しょうじ)つづけ――っ!!
ハ ハイッ!!

巨鯉釣り大作戦PART2

さ 三平さん
いきなり
水中なかさ
なんか
もぐって
な なにを
やらかす
つもりけえ
……!?


フフフ
だから
いったじゃ
ねえか
これから百歳の
超大物野鯉を
釣る 積極
作戦さ……!!

いいか 正治
鯉ちゅうもんは
てめえの領地内の
きまったコースを
一日になん回か
巡回する習性が
あるんだ……

なるほど
ということは
魚道が
みつかれば
そこに釣り場が
あるという
わけか!!

そういうこと
ましてや
百歳の 超大物
野鯉ともなれば
きっと
はっきりした
道すじが
ついとると
おらは
にらんで
いるんだ

カ～～～ッ
三平さんて
そこまで
かんがえて
いるなんて
すんごいなや
おだてるんじゃ
ねえやい

野鯉釣りは
このコース
つまり 魚道を
発見することが
第一なんだ

ウハッ!!

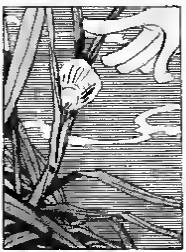
えぇっ
!?

あった
これだっ!!

見ろ 正治!!
泥もなく ヌメリもなく 水藻もはえて いない ひとすじの 砂地がむきだして つづいている だろう…
これが 典型的な 野鯉の 魚道だっ!!

三平さん
もっとむこうへ
いってみようよ

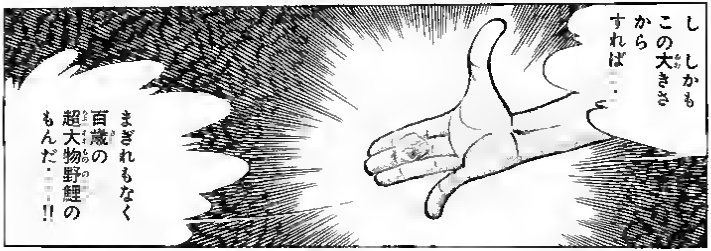
ヘエ〜〜〜ッ
これが
鱒道かァ
す すんごい
なや・・
おらあ
はじめて
見ただ



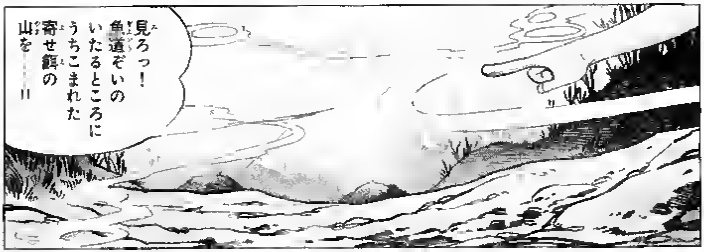
ウッ!?

フフフ
ほかの釣り人の
じゃまにならない
ように
さぐらないと
いかんぞ

ああっ
!?
これは
鯉の
ウロコ
だっ!?


し しかも
この大きさ
から
すれば・・・
まぎれもなく
百歳の
超大物野鯉の
もんだ・・・!!

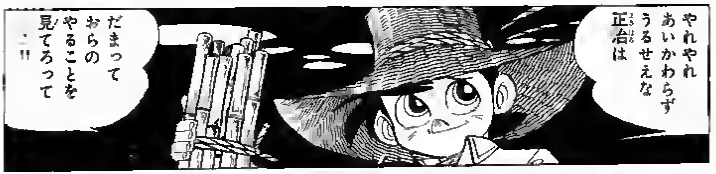
三平さん なにをぐずぐずしてるだめざす獲手のとおり道がみつかったいじょう
はやいとこ釣りはじめねえとほかのやつらに釣られちまうべ!!
正治 ガタガタわめくんじゃねえて・
この三日月湖にはすご腕の野鯉師どもがゴマンといるんだぜ!!
そんなれんじゅうがこの魚道を発見しないで釣りイトをたれてると思うか


見ろっ! 魚道ぞいのいたるところにうちこまれた寄せ餌の山を……!!

ああっ!!
いいか正治 おらのいう積極作戦とは魚道を発見することだけではねえ!!

これだけの野鯉師をむこうにまわし超大物をしとめるためには
イチかバチかこの魚道を修正してためえの釣り場によびこんでしまう積極策をとらんと勝ちめはねえってこった……!!
魚道を修正してためえの釣り場に野鯉をよびこむ……!?
そんなことできるんですか!?
できるかどうかはやってみなきゃわからねえべ
それよかはやいとこ服を濡ろよ
いつまでフリチンを出してるんだい
さあ作戦開始だっ!!
ハハイッ

さ 三平さ――ん
ちょっくら
まってけれって
ば――っ！
こんだ
竹竿なんか
もちだして
いってえ
なにをやらかす
気イけえ!!


やれやれ
あいかわらず
うるせえな
正治は
だまって
おらの
やることを
見てろって
…!!

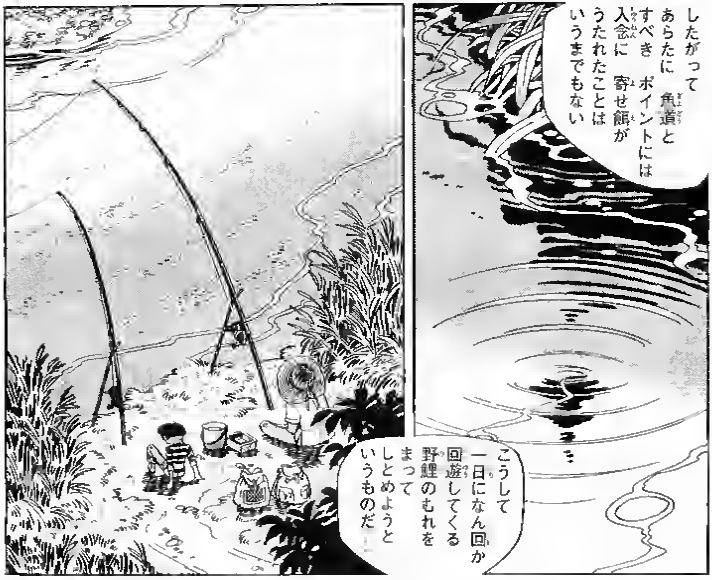
いいか 正治
ここが
おらたちの
釣り座だ
…
例の 百歳の
超大物野郎を
しとめるにゃ
またとねえ
ポイントさ!!

さ 三平さん
まさか それ
マジメで
いってるんじゃ
ねえべ!!
なにを
いってんだい
マジメも
マジメ
大マジメさ
…!!
ここと
あのくさった
橋桁のたつ
あの中島に
はさまれた
ホソ……!
このポイントこそ
例のやつを
しとめるには
またとねえ
ポイントと
おらは にらんで
いるんだ!!
さ 三平さん
じょうだんは
いうなて
…!!
さっき
おらたちが
野鯉のとおり道を
さぐってたときにゃあ
このホソには
一ぴきの野鯉も
とおったあとは
なく……
みんな
中島のむこうさ
まわっていってる
ことが はっきり
してたんで
ねえけえ!?

あわてるな 正治…
だからこそ おらのかんがえる 積極作戦が 実行できる またとねえ ポイントなんだ
あくくくん!?
いいか 正治 たしかに おめえの いうとおり やつらの とおり道は
ゴゴゴゴ
この中島の 岬よりの がわを とおっている…
だが もし この地点で とおり道を 遮断したと したら どうなるだ…
野鯉のとおり道
沖
中島
陸
三平のえらんだポイント
ええっ!?
と とおり道を 遮断されたら そりゃあ……
いき場を うしなった 野鯉は まようことなく ホソのほうさ はいって…
野鯉の とおり道
中島
陸

ああっ!!
そういえばさっき三平さんがいってたあの…
水道を修正してためえのポイントに野鯉をよびこむ積極作戦とは
このことだったのけえ!!
ケッヘッヘどうやらわかってきたようだな
んだども とおり道を遮断なんてかんたんにいうけど
まさかブルドーザーをつかうわけにもいくめえしどうやるつもりなんでえ
フフフ 正治この竹竿がきっと その遮断機の役目をしてくれるさ
しかも例の百歳の超大物野鯉だけのな…

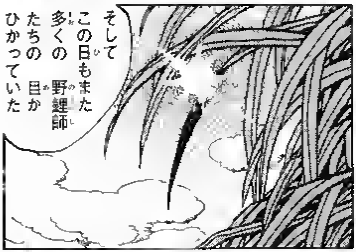
自分のポイントに
野鯉をよびこむ
ために 餌道を
かえてしまう
これが三平の
巨鯉釣り
マル秘大作戦で
あった!!


したがって
あらたに 餌道と
すべき ポイントには
入念に 寄せ餌が
うたれたことは
いうまでもない
こうして
一日になん回か
回遊してくる
野鯉のもれを
まって
しとめようと
いうものだ

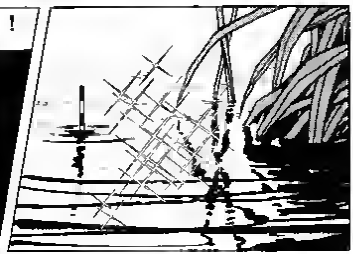
しかし 三平さん
あんただ
シカケをして
ほたして
例のやつが
このホソさ
のりこんで
くれるかなあ
……
フフフ
おらにも
わからん
人間の
かんがえることと
水んなかの
できごとは
まるっきり
ちがうばあいも
多いからな……
さ 三平さん
そ そんただ
心細いこと
いわねえで
けれ……
おらあ
三平さんを
信じて
釣ってるんだ
せ……!!
正治
これは一種の
カケさ!!
カケで
あるいじょう
あてはずれは
つきもんだ
……
しかし
これだけすご腕の
野鍛師たちが
集結している
三日月湖
だから……
たまにゃあ
こんただ
でかいカケを
してみるのも
おんもしれえじゃ
ねえか
フフフ……

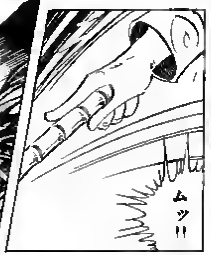
野鯉師の釣りは
執念の釣りだ
……
ねらった獲物を
しとめるまでは
なん日でも
かよう……

三平たちが
この三日月湖に
かよいはじめてから
またたくまに
一週間がすぎた
……


そして
この日もまた
多くの野鯉師
たちの 目が
ひかっていた

ヒョオッ！




ムッ!!

ウウッ
ああ・・・
まさか
ククッ
アハッ!!
やれやれ
こりゃあ
いくらなんでも
心臓に
わるいぜ
まったくじゃ
アタリのたびに
例のやつじゃ
ねえかと思って
ギクッと
するわい

それにしても
あのふたりの
子ども…
ずいぶん
ねばると
思わんかい
そういえばこのまえ
中島のあたりで
水あそびなんか
やらかしてたと
愚ったら
あれから
ず――っと
あそこから
うごかずに
釣ってる
いやあ
このごろじゃあ
少年たちの
釣り熱も
たいへんな
もんだから
なあ…
道具や
装備なんか見ると
われわれおとなも
顔負けの
れんじゅうも
いるからなあ
まあ
いいじゃ
ねえか…
釣りは
いまや
健全なあそび
なんだから
しかし
いくら健全な
あそびと
いっても
あんな
ポイントで
一週間も
釣り
つづけてるってのは
ひでえぜ!!

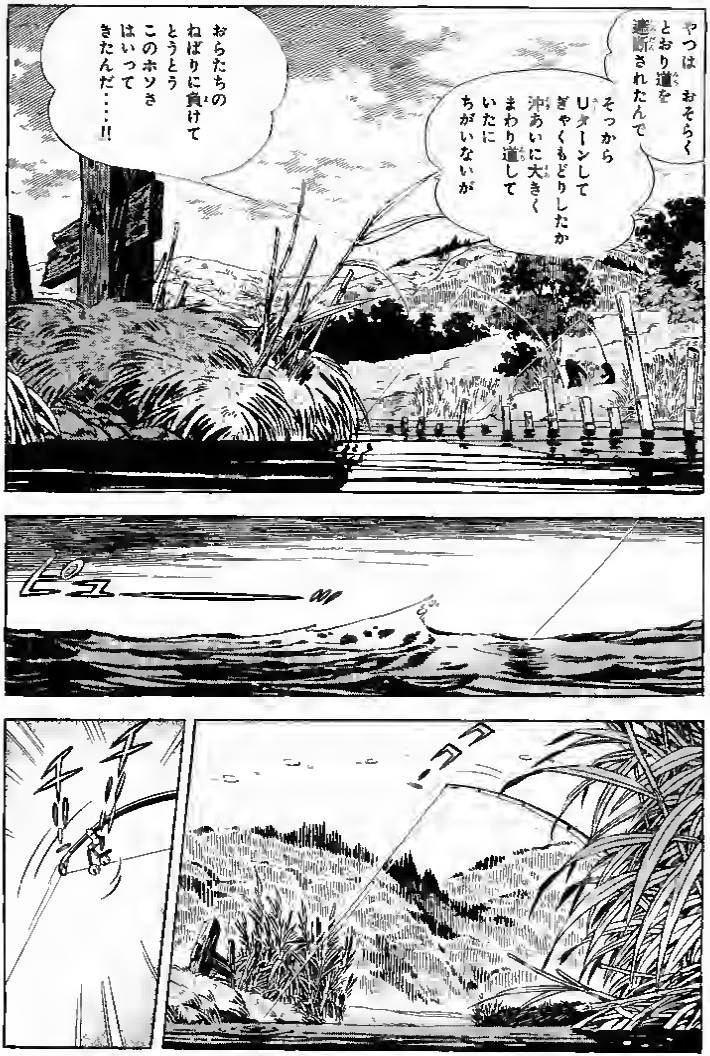
あのホソは
増水期になると
ひあがっちまう
ところだから
・・・
魚はほとんど
よりつかない
はずなんだ
・・・
ほっとけ
ほっとけ
子どもの
あそびに
口出し
するほど
ヒマでも
あるまい

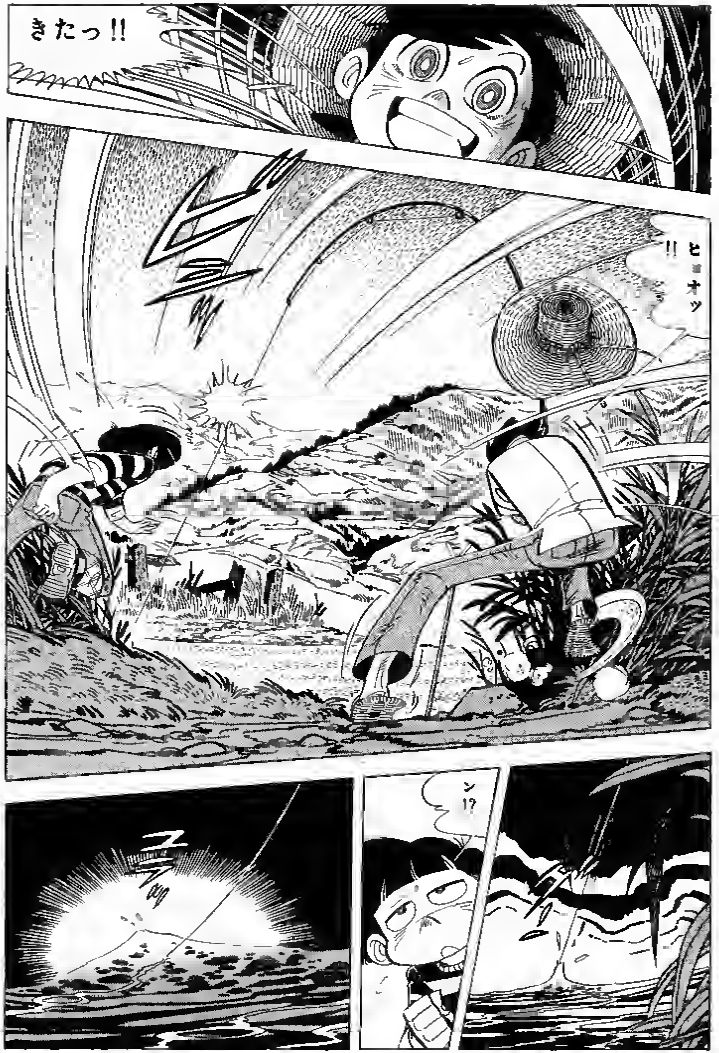
いや わしゃあ
釣りの先輩として
子どもたちには
正しい釣りの技術を
身につけて
もらいたいから
・・・
ああいう
まちがいを
見すごすことは
できないんだ
よ・・・

ちょいと
いって
アドバイス
してくる
・・・

あんがい
おせっかい
なんだな
あいつ
どうせ
子どもなんか
にゃあ
たいした釣りも
できんだろうに

きたっ!!
きたぞ 正治!!
えっ!?
ああっ そ そういえば あのアブクは
三平さんが おらに いつも 話してくれた 大物鯉特有の 泡ふき現象だなっ……
ウムッ そのとおりだっ!!

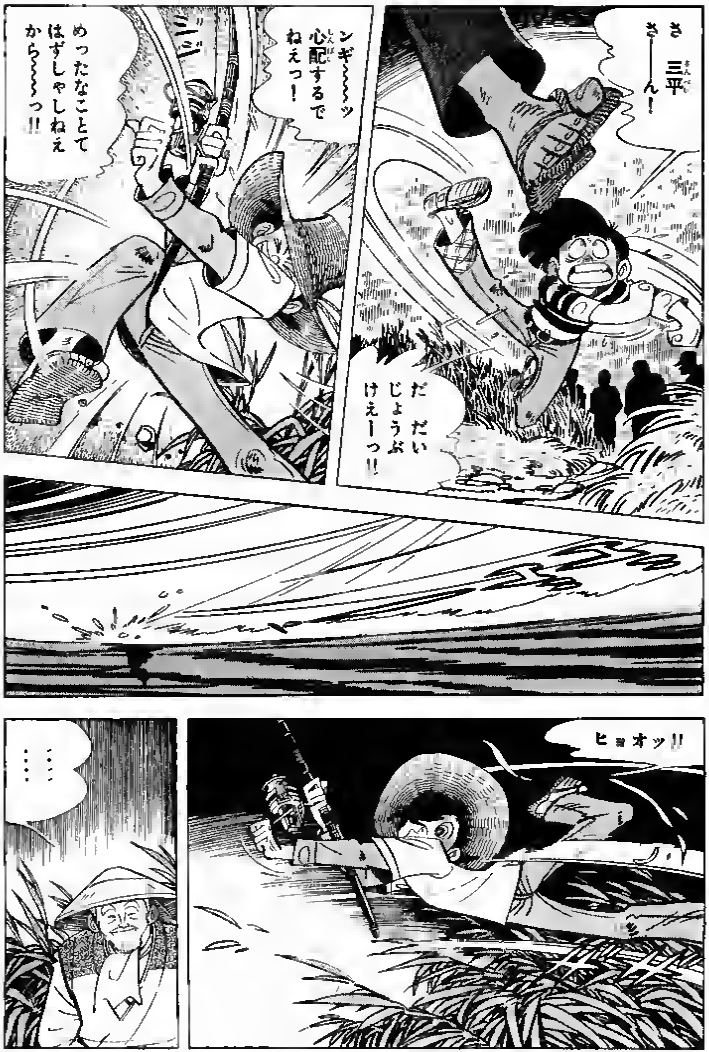

やつは おそらく
とおり道を 遮断されたんで
そっから Uターンして ぎゃくもどりしたか
沖あいに大きく まわり道して いたに ちがいないが
おらたちの ねばりに負けて とうとう このホソさ はいって きたんだ……!!


きたっ!!
ヒュオッ
!!
ン!?

うわ〜〜っ!!
きたっ
きたっ!!
百歳の
超大物野鯉が
ついにきた
ぞ〜〜〜っ!!
うわあ〜〜〜っ
すごい
すんごい
さーすが
三平さんは
おらの師匠
だ〜〜〜い!!
ムムッ
そんな
バカな
あんな
ポイントで
かかるわけが
ねえ…

し しかし
あのヒキは
まさに百歳の
超大物野鯉
……
わ わしゃあ
夢を見てるんじゃ
ないだろうか
イテッ
ギュ
やはり
夢ではない
……
お おい
どうしたんだ
えれえ
あわてて
……
バッキャロ――ッ
のん気に竿なんか
かまえてる
ばあいじゃ
ねえっ!!
あの中島の
ホソで釣ってた
ムギワラ帽子の
ガキに とうとう
例の巨鯉を
かけられて
しまったんだ
ぞ――っ!!
ええっ
そんな
バカな
あそこは魚の
よりつかない
ポイントだと
いったじゃ
ないか!!

ああっ!!
ウッヒョ〜〜〜ッ!!
うわわっ!!


さ 三平(さんぺい)
さ――ん!
だ だいじょうぶ けえーっ!!
ンギ～～～ッ
心配(しんぱい)するでねえっ!
めったなことではずしゃしねえから～～～っ!!
ヒョオッ!!
……
……

ただならぬどよめきにわれこそは百歳の巨鯉をしとめんとはりきっていた野鯉師たちがぞくぞくとあつまってきた
どこだどこだ
かけたのは子どもだっていうじゃねえか
ククッ!!
なあにそのうちバラしちまうさ
ああやっぱし…おれなんか一か月もかよいつづけてるちゅうに
あんなガキに釣られてしまうのか…!!
だいたいあんなガキがあれだけの大物野鯉をどうやってとりこむというんだ
YUKI

な――るほど…
ほんじゃあじっくりお手なみ拝見といくか…
やれやれなんともさもしいれんじゅうがそろったもんだ
YUKI
MU

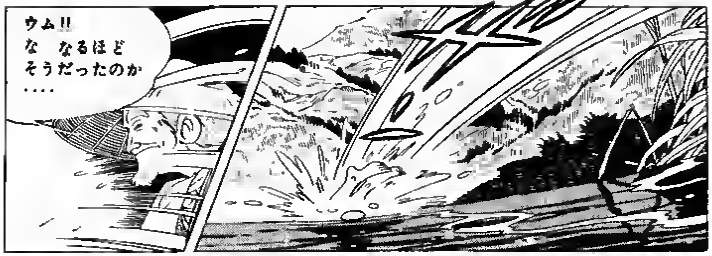
これだけのおとなの野鯉師どもを相手に…
どうどうと釣りあげようとしている あの子を目前に だれひとりとして とりこみをてつだおうとするやつがいねえとは…

いやそれならまだいいがなかにゃあバラしてくれとねがってるやつもいるなんて…
おみごとおみごと
とうとうやりましたなぼうや

ハアどうも…
あれだけの巨鯉じゃからとりこみもたいへんじゃろ…
なんなりとてつだうぞ…

どうも
ありがとう
…
んだども
やつも あのとおり
だいぶつかれて
きてるから もう
だいじょうぶ
さ…
正君
手ぬぐいの
準備は
できてるな!!
このとおり
準備
ばんたん
おこたり
なしさ!!
おう!!

よおし
ほんじゃあ
ボチボチ
手はずどおりと
いくかっ!!
ハイッ!!
ヒュッ!!
!?
フエ〜〜ッ
さ…さーすが
百歳の巨鯉…
す…すんごい
手ごたえだ
なや……
ギリ
ギリ
けっして
ムリしねえで
じっくりと
ロッドを
さばえて
いるんだ
ぞっ!!
バカッ
手ごたえなんか
たのしんでる
ばあいじゃ
ねえ!
ムッ!?


ウム!!
な なるほど
そうだったのか
....

じいちゃん
じいちゃん
あのガキゃあ
なにを
やらかす
つもり
なんでえ!!
手ぬぐいなんか
もって 水に
とびこんだり
して....

フフフ
抱きとり
じゃよ
....

抱きとり
....!?
いってえ
なんの
こっちゃあ
そりゃあ
....!?

鯉というやつは
ぬれた新聞紙などで
目かくしをすれば
あばれなくなることは
おめえたちも
知ってるだろう
....
抱きとりは
そこを利用した
川魚漁師の
伝統の秘技で

鯉の頭に
手ぬぐいを
かぶせて
目かくしし
....
素手で
抱きあげて
とりこむという
方法じゃ!!

おそらく
あの子は
かりに 鯉を
かけたと
しても…
なまじっかの
方法では
とりこめねえ
巨鯉である
ことを
読んで…
釣るまえから
この方法を
かんがえて
いたに
ちがいねえ
…

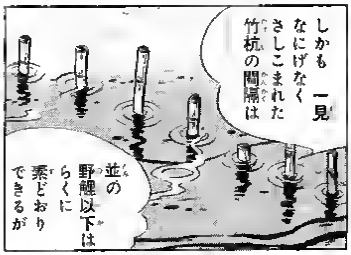
そ そんな
バカな
あんな
ガキに
はたして
そんなことが
かんがえつく
だろうか
…!?

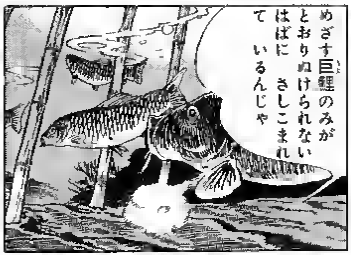
うんにゃ
あの子なら
じゅうぶん
かんがえつく
…!!

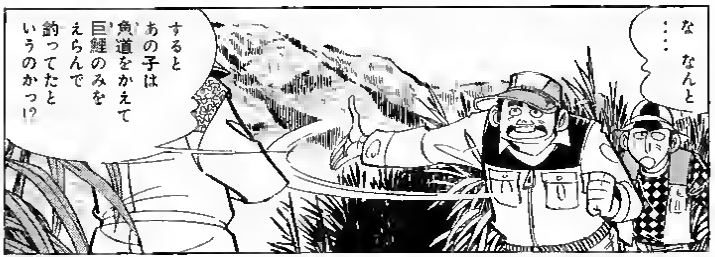
その証拠に
あれを
見ろ!!

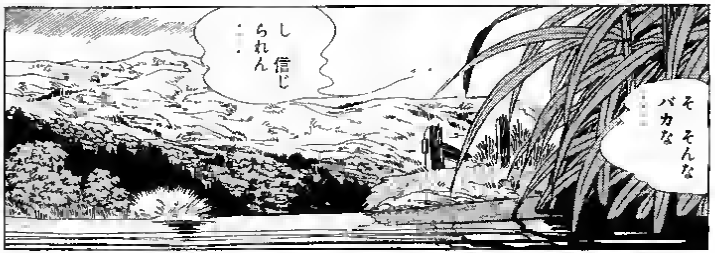
ああ
あの
竹か…
あれなら
こないだ
水あそびを
してたとき
いたすら半分に
たてたもの
だろう…

いたずら
…!?
とんでも
ねえ!
あそこは
野鯉の
とおり道に
あたってる
場所じゃよ


あの子は　そのとおり道を竹杭をさしこんで遮断し
ホソ
中島
竹杭
寄せ餌をうって自分のまちかまえるホソに　野鯉をよびこんだんじゃ
しかも　一見なにげなくさしこまれた竹杭の間隔は
並の野鯉以下はらくに素どおりできるが


めざす巨鯉のみがとおりぬけられないはばにさしこまれているんじゃ


な　なんと……
すると　あの子は　魚道をかえて巨鯉のみをえらんで釣ってたというのかっ!?


そ　そんなバカな……
し　信じられん……

ウムッ!!

正治
いくぞっ
!!
ウオッ!!

フエ〜〜〜ッ
さすが百歳の巨鯉でっけえなや……
ようし……!!
ウッ!!

うひゃ〜〜〜っ
ああっ!!
あ…あれが鯉の抱きとり……

鯉の寿命は　ふつう20年ぐらいだが　なかには　70～80年も生きるものがかなりいるというし　100年をこすものも　それにはあるようだ　体長の日本最大は　1メートル53センチ　体重45キロが記録されている　しかし釣りの対象魚としてはあまり人気がない　これは　鯉が　養殖魚として池などに多く見られるからかもしれないが　淡水大魚の少ない日本で　しかも　日に日に魚類資源が減少している今日　もっと釣り対象魚として　みなおすべきではないだろうか

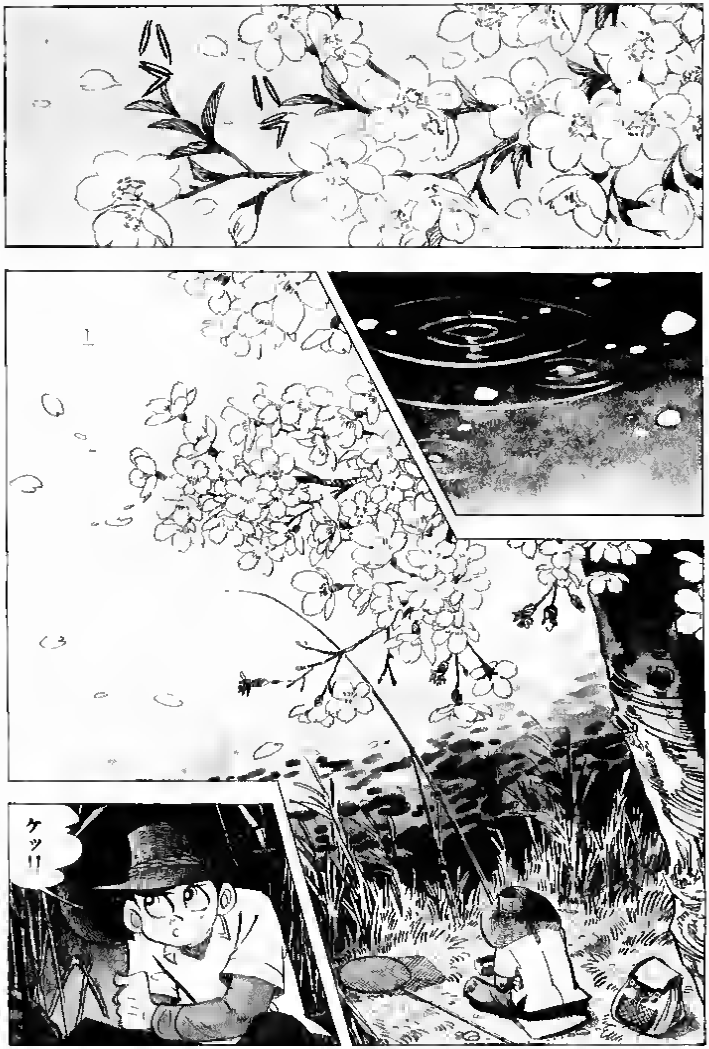
フフフ
どうやら
はいったようだ
な…

黄金の鯉か
すむという
里に…

矢口高雄
矢口プロ作品

釣りキチ三平

黄金の鯉の巻 其之一


ケッ!!

ク――ッ
いってえ
どうなってるだ
あの人
さっきから
ず――っと
おらんとこを
見てるなんて
おかけで
あんなにバカスカ
釣れてたのが
ピタット
とまっちまったで
ねえけえ…!!
それにしても
うすきびわりい
人たなや
まるで
時代劇さでてくる
旅の僧みてえな
かっこうして

んだども 背なかさ
釣り竿を
背おってる
とこをみると
……
釣りの旅でも
してるのかなア
……!?
そんならそうで
おなじ釣り人
どうしだもん
声ぐれえ
かけてくれても
よさそうな
ものを……
ただ
だま――って
見てるだけと
きてるから
うすきび
わるくて
しゃあねえ

ありゃっ!?
いつの
まにか
いなく
なってる
……!?
ハハ――ン
いつまでまっても
釣れねえ
もんだから
とうとう
シビレをきらして
いっちまったって
わけか……

や――れやれ
これでやっと
気らくに釣れる
……
まったく 人に
見られながら
釣るってのは
調子がくるう
……

いっちょう
気分一新のため
エサも
あたらしい
やつと
とりかえて
みるか

あ――あ
エサまで
おっこちて
やがる

これからが
本番って
わけだ
……
ホイッ!!

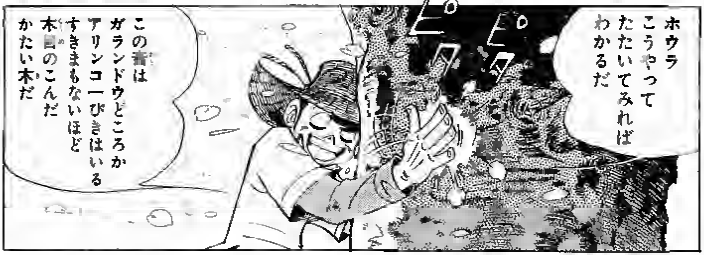
まあ
いいや
どうせ
厄病神が
いなくなった
んだから
……

フフフ
小僧
厄病神は
ないだろう
……
ン!?
わっ!!
フフフフ……

わわっ!!
お おじさん
そ そんただとこさ
い いたのけえ!?
フフフ…
厄病神で
わるかったな
…
いや
それは
その
…
ケッヘヘヘ
それにしても
この桜の木は
すばらしい
木だ……
これならば
すくなく
みつもっても
三びきは
はいっとる
ク〜〜〜ッ
ハア
!?

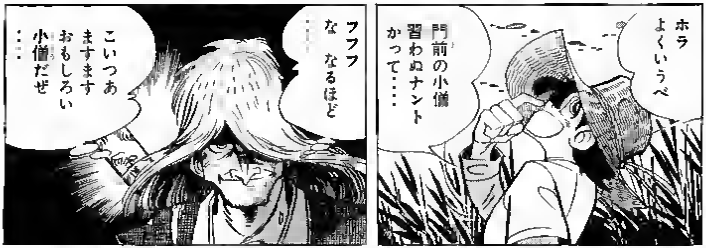
三びき……!?
いってえ なにが 三びき はいってるだ……
木を食いあらす虫でもはいっているのけえ!?

フフフ
おもしろい
ことをいう
小僧だ
だが
はいってるのは
虫ではなく
鯉さ……！
鯉が三びき
確実に
はいってる
鯉
……!?
ハハハハハ
おじさんこそ
おっかしなことを
いう人だなや
……
木のなかさ
鯉がはいってる
なんて
そのあなが
工古になって
沼さつうしていて
鯉が三びきはいって
いるちゅう話なら
わかるども
こいつあ
くちてなんか
いねえぜ
ペッ
まさか
この桜の木が
くちて なかが
ガランドウに
なってて


ホウラ
こうやって
たたいてみれば
わかるだ
ピタ
ピタ
この音は
ガランドウどころか
アリンコ一ぴきはいる
すきまもないほど
木目のこんだ
かたい木だ

ウム!
小僧
きみは 木を
たたいただけで
木目の
こみぐあいが
わかるのか…!?
いやあ
わかるって
ほどのことも
ねえけど…
おらの
じいちゃんは
年が年じゅう
竹をあつかう
和竿づくりを
してるし

知りあいには
コケシをつくってる
木地師なんかも
いるんで…
みよう
みまねで
なんとなくわかるって
ていどのことさ…


ホラ
よくいうべ
門前の小僧
習わぬナントかって…
フフフ
な なるほど
こいつあ
ますます
おもしろい
小僧だぜ…

長い旅のはてにやっとたどりついたみちのくの問題の地……
その問題の地のとっかかりでこんなにおもしろい小僧にあうとは……
これもなにかの縁かもしれん……
おじさんひとりでなーにぶつくさいってるだ
トト
小僧ひいてるぞっ!!
ムソ!!
モゾ
モゾ
ウオッ!!

ウヒョッ!!
ウムッ!!
タハ――ッ
やばいやばい……
おじさんとの
話に すっかり
夢中になって
うっかり アワセの
タイミングを
そこなうところ
だった……

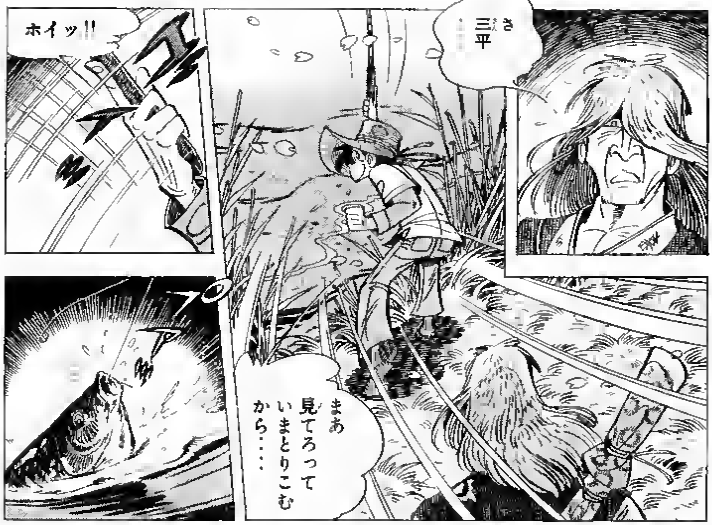
ホウッ!!
タン
ホホウ
鯉か…
ケッヘヘ
尺をちょっくら
うわまわる
中型って
とこかな
それにしても
こいつ なかなか
手さばきが
いいな
トトッ
!!

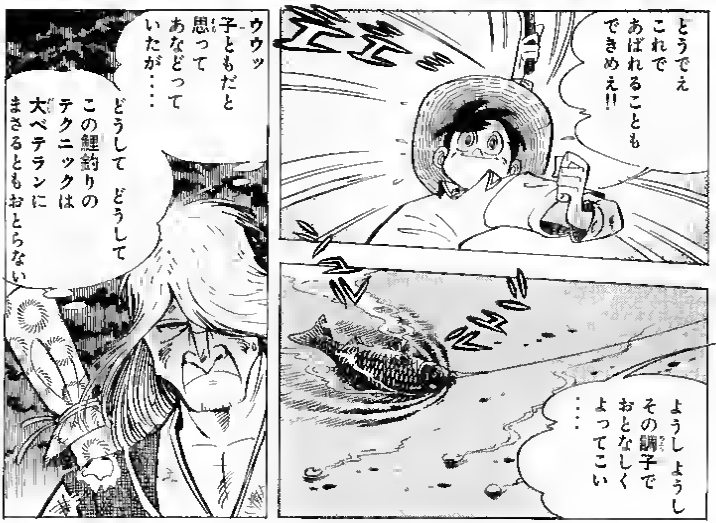
ウッヒョ〰ッ!!
ウオッ
な なんだ あのハチ(鯉のひたい)のホシは!!

AH!

HA!

フエ〜〜ッ!!
ジタバタ
すんじゃ
ねえやい
いまさら
……!!
小僧
慎重に
あつかえ!!
バラしては
ならんぞ
……!!
オヨッ!!
どうしただ
いきなり
大声を
だしたりして
……!!
このていどの
鯉で ガタガタ
することも
ねえべ
それよか その
小僧 小僧
ちゅうのを
やめて
くれねえか
おらには
三平ちゅう
れっきとした
名まえがある
んだから……

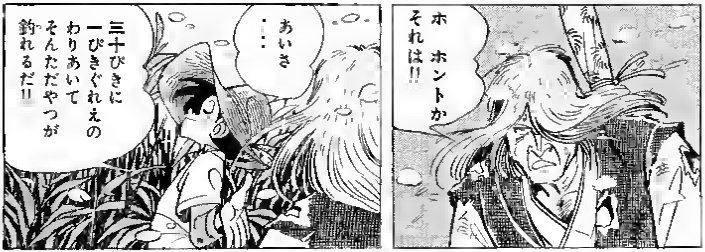

三平
ホイッ!!
まあ見てろっていまとりこむから…


とうでえこれであばれることもできめえ!!
ようしようしその調子でおとなしくよってこい……
ウウッ子ともだと思ってあなどっていたが……
どうしてどうしてこの鯉釣りのテクニックは大ベテランにまさるともおとらない

そ それにしても
あの黄金(こがね)に
かがやく ハチの
ホシはなんだ
……!?
もしや
……!?
小僧(こぞう)
そいつを
見(み)せろ!!
小僧じゃ
ねえってば
……!!

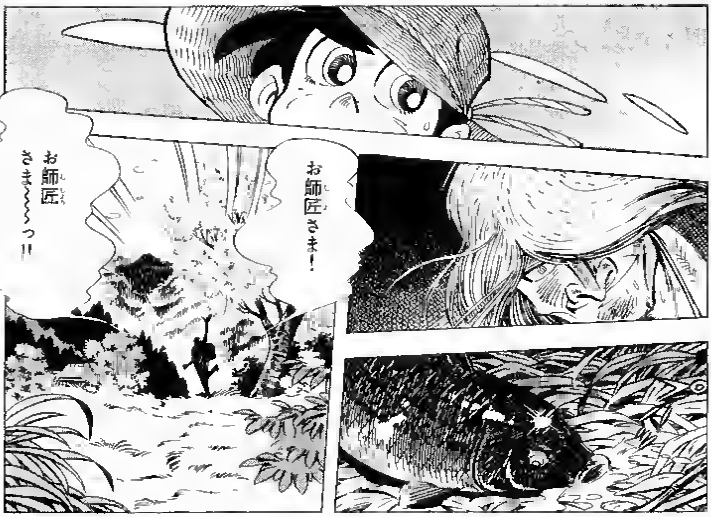
さ 三平くん だったな……
すまんが その鯉を 見せて くれ!!
ウウッ!!
こ このハチにかがやく 黄金の斑点は……
な――んだ それか……
それは 金かぶれちゅうって このへんの沼や池から 釣れる 鯉のなかに ときどき見られる型さ……!!

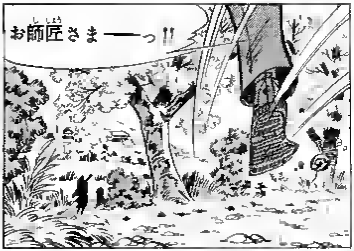
金かぶれ……!?
そうさ 魚体の一部がちょうど かぶれたみてえに 金色になるってことからそうよばれてるのさ……
んだからどれもこれもハチがかぶれるちゅうわけではなく……
あるものは背ビレだったりシッポの一部が金かぶれだったりするだ


ホ ホントかそれは!!
あいさ……
三十びきに一ぴきぐれえのわりあいでそんだやつが釣れるだ!!

な なんということだ!
半信半疑ながらたずねてきた黄金の鯉のすむ里はやはり実在していたのか……!!

黄金の鯉…!?


お師匠さま!
お師匠さま〜〜〜っ!!


お師匠さま――っ!!

だれだへ
大声なんか
だして

あっ
お師匠さま
……!!

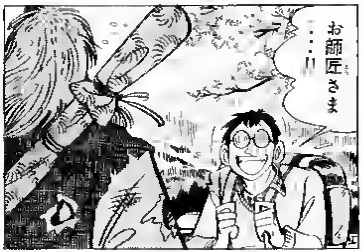
こんなところに
いらっしゃったん
ですか!!
ずいぶん
あちこち
さがしました
よ……!!

フン
雨慶か
あいかわらず
こうるさい
やつじゃて

お師匠さま
それはないで
しょう
わたしは
お師匠さまの
おからだの
ことを
思えばこそ
こうして
……

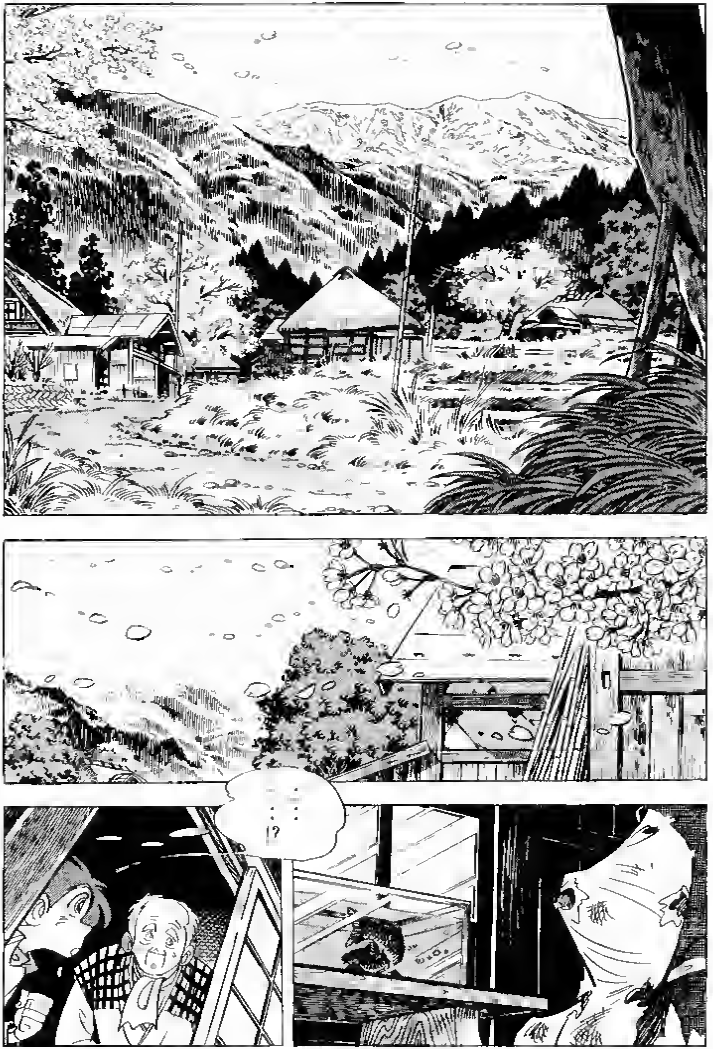
あのう このおじさんが お師匠さんと いうことは
おめえは おじさんの 弟子ちゅう ことけえ……!?
ハハア そ そういう ことですけど
てまえの 師匠が なにか そそうを……?
バカ このわしが そそうなど するわけ ないだろう……
雨慶 それよりも これを 見ろ!!
ああっ お お師匠さま こ これは……!!
フフフ どうだ
直径わずか 一センチにも みたないとは いえ
このハチに さんぜんと光る 黄金のかがやき……!!

そのむかし
奥羽藤原三代の
黄金文化をささえた
この地は
そのまま…
黄金の鯉を
生みだす
里でもあった
のだ…!!
ゴポッ


お師匠さま
…!!

カ〜〜〜ッ
おめえたち
いい年こいて
な——に
ねごと
こいてんだ!!

黄金文化だの
黄金の鯉だのって
たかたか金かぶれの
野鯉一ぴきに
な—に大さわぎ
してるだ…!!



さっきから
金かぶれの鯉を
いれた 水槽の前に
すわったきり
うごこうと
しねえんだから…
かわった
お人じゃ
のう…

かわってる
ところの話じゃ
ねえぜ……
おらが釣ってる
うしろの桜の
大木をジーッと
見つめながら
……

フフフ
みごとな
桜の木よ
この木の
なかにゃあ
鯉が三びき
はいっとる
……
な――んてこと
いうんだぜ
……!!

ええっ!?
桜の木の
なかに 鯉が
三びき・・・?
ハハハハ
師匠が
そんなことを
いったん
ですか
まったく
わたしの師匠には
こまったもの
です・・・
いい木を
見ると すぐ
ほりたく
なるんです
から・・・
ほりたく
なる・・・!?
えぇ・
じつは
わたしの師匠は
仏師なんです
ホホウ
仏師とな
じいちゃん
なにけえ
・・・!?
そのブッシと
いうのは
ハハハ
三平くん
仏師というのは
お寺などで よく
見かける 仏像を
ほる 彫刻師の
ことさ・・・

そうです……
すると あの
お釈迦さま
とか……
観音さま
なんかを
ほる人けえ!?

ハイ
そういう
ことで……
その木ならば
三びきの鯉が
彫刻できる
ち神う意味
だったのか
なんだ
そうか
な――るほど……
つまり 桜の木に
鯉が三びき
はいってる
といったのは

まったく うちの
師匠ときたら
こないだなんかも
とおりすがりの
とある家の前で
大きなケヤキの木を
見るなり・・・
きりたおして
こいなんて
いうんですから
まいっちゃい
ますよ
ハハハ……

いやいや ちかごろは そのような 仕事熱心な方は めったに おりませんぞ
おそらく そうとう名の ある方では……？
ちょっとこれを ごらんください
なんだ こりゃあ!?
こりゃあ たしか 奈良の東大寺か なんかの門にある 仁王さまの像で ねえけえ!?
よく知ってますねえ
あったり めえよお!!
このていどは 日本人の 常識って もんだべ!!

ハハハハ
くわしくは
奈良東大寺の
南大門に
安置されている
金剛力士像と
いわれるもので
……

いやあ
まいりました
ね……
ようく
ごぞんじで
……

たしか
平安時代から
鎌倉時代にかけて
活躍された……
名匠運慶
(千二百四十八年〜
千二百二十三年)の
作といわれとる
ようじゃな……

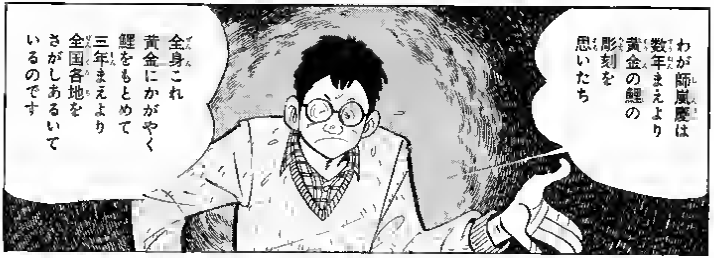
じつは なにを
かくしましょう
わが師は その名を
嵐慶と
もうしまして
名匠運慶を
直系の師と
あおぐ
正統派仏師で
あり……!!
昭年の運慶と
よばれる
現代の名仏師
なのです

ええっ!?
昭和の運慶
……!?

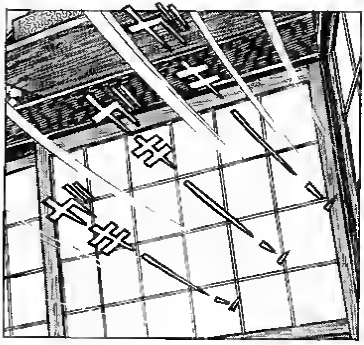
そんただ
えれえ人が
なんでこんただ
へんぴな
山んなかさ・・・・
んだどもよお！

な なるほど
たしかに あの目の
かがやきや もの腰には
ただならぬ気迫が
感じられたが
やはり 名のある方
だったのか

黄金の
鯉です!!


わが師嵐慶は
数年まえより
黄金の鯉の
彫刻を
思いたち
全身これ
黄金にかがやく
鯉をもとめて
三年まえより
全国各地を
さがしあるいて
いるのです

さ 三年も
まえから
・・・
全身黄金に
かがやく鯉を
もとめる
旅を・・・!!

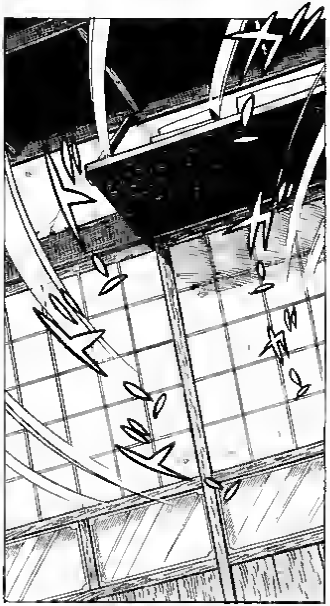


シ〜〜〜ッ!!
黄金の鯉をほりはじめたんですよ……

な なんだあの音は……!?

どうやら三平くんの釣った金かぶれの鯉て……
黄金の鯉のイメージがかたまったものと思われます……

んだども全身黄金色の鯉をさがしているんだったら
なにもあんただ鯉をモデルにすることもあるめえ!!



そうじゃないまじゃあ錦鯉の産地さいけば全身これ金ピカの錦鯉がわんさかいるじゃろし
各地の愛鱗家の池をたずねれば一尾数百万円ちゅう逸品も見せてもらうこともできるべ……

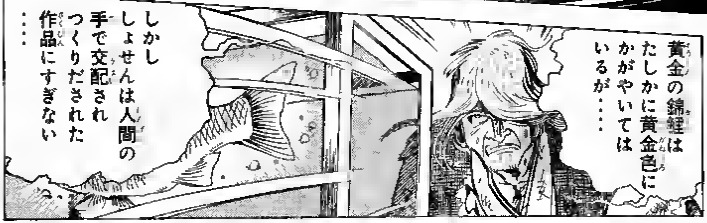
ハイ……
おっしゃられるまでもなく……
錦鯉の産地として名高い新潟県の小千谷には十数度もかよいましたし……

各地の愛鱗家の池もくまなくたずねあるきました。

しかしそのたびに師匠は

ググ……
ちがう!!

これは
わしのもとめる
黄金の鯉では
ないっ!!
お
お師匠
さまっ!!

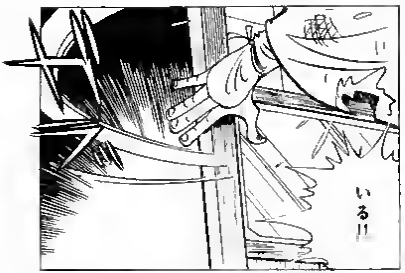

黄金の錦鯉は
たしかに黄金色に
かがやいては
いるが……
しかし
しょせんは人間の
手で交配され
つくりだされた
作品にすぎない
……

わしの
ほしいのは
本物の
黄金の鯉だっ!!
竜ほども
人手がくわわらず
自然のなかで
みずからの鱗を
みがきあげた
本物の 黄金の
鯉がほしいの
だ～～～っ!!

せっかくの彫刻をたたきわっちまったというのけえ……!?
ハイそれも一度や二度のことではありません……

フ～～～ン
徹底した名人なんだなや

んだども錦鯉ならいざしらず……
自然のなかで全身すべてが黄金色になった鯉なんていもんだべか……!?


いる!!

お
おじさん!!

直径わずか一センチたらずとはいえ
あれほどにすばらしい野生の尤をたたえた鯉が釣れたということは
この里のどこかにかならずいる……!!

ハハハ
おじさん
あてずっぽうで
ものをいっちゃあ
いけねえよ!!
あてずっぽう
では ない!!
この東北地方は
平安時代から
鎌倉時代にかけた
およそ百年のあいだ
黄金文化で
さかえた……!!
いうまでもなく
平泉を中心と
した 藤原三代の
栄華であるが……
その藤原三代を
ささえたものは
深い奥羽の山中
より ながれいずる
おびただしき量の
砂金だったと
いう……
そのながれいずる
砂金をあび
砂金をエサとして
全身黄金にかがやく
鯉がおよいでいたと
この古文書の
一節に
しるされて
いるんだ……!!
な なんだ
とお……!?
さ 砂金をエサにして
そだった
黄金の鯉……!?

な なんと
そのむかし
奥羽平泉に
さかえた
藤原三代の
黄金文化
……!?

フフフ
さよう
しかも その
黄金文化を
ささえた
ものは……
深い
奥羽の山中より
ながれいする
おびただしき
量の砂金
だったという
……

ハハハ
ハハ……
そ そのながれいずる砂金をエサに全身黄金色にかがやく鯉がおよいでいるだとオ……!?
そ そんな
バカな
……

黄金の鯉の巻 其之二

これ 三平
わらうなんて
失礼じゃ
ねえけえ
人の話を
しめえまで
ききも
しねえで
だって
じいちゃん
だっても
ヘチマも
ねえ…
たしかに
藤原三代といえば
そのむかし この
奥羽一帯を
支配した豪族で
…
藤原清衡
基衡 秀衡の
三代にわたって
一大栄華を
きわめたそうな
…
げんにその遺跡として
名高い 平泉の
中尊寺金色堂は
ぬりこめられた黄金が
今日なお まばゆい
ばかりにかがやき…
そのなかには
清衡 基衡
秀衡の三体が
ミイラとなって
まつられて
いるんじやよ

ええっ!?
ミ ミイラに……!?
じ じいちゃんミイラちゅうたらあの エジプトのピラミッドなんかさはいってるちゅうアレのことけえ!?

まあミイラの目的は死体をくさらせず後世にのこそうということだからその点ではおなじでしょうが
エジプトのミイラと日本のミイラでは つくる過程が根本的にちがうんだよ

つまり簡単にいえば……
エジプトのミイラは死体から脳ミソや内臓をぬきとりさまざまな薬物をつめこんでつくるといわれている

しかし日本のミイラは:
五穀たち十穀だちとしょうするいわゆる断食をおこない

生きながらミイラになる準備をしたうえで自然にひからびるように
みずからの意志でミイラとなったという

ほんじゃあ
まるで スルメや
ダシジャコみてえ
でねえけえ……!?

ええっ
断食しながら
骨と皮ばかりに
やせこけ……
生きながら
ひからびて
ミイラになる!?

ハハハハハ
スルメや
ダシジャコとは
まいったな
……

しかし たしかに
そうとも
いえるかも
しれんし
……
べつの面から
いえば
日本のミイラは
一種の餓死自殺と
もいえよう
……

餓死自殺
……!?
ガス自殺なら
きいたことは
あるけど
生きてる人間に
そんだことが
できるもんだべか……!?

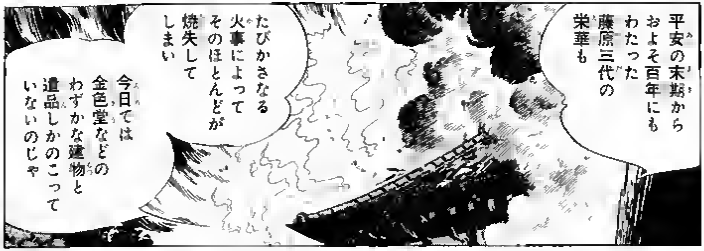
信仰じゃよ……
死してのちも理想世界に生きたいとねがう信仰心がきびしい修行にたえてミイラになっていくという……

もっとも藤原三代がいかなる方法でミイラとなったかは いまださだかではないが
初代清衡のミイラは現存する日本最古のミイラであり
生前の一族は熱烈なる仏教信者であったことは事実だ!!

その証拠に 初代清衡が建立した中尊寺は その寺塔だけでも 四十余宇をかぞえ……
禅房にいたっては三百余宇も林立していたというし……

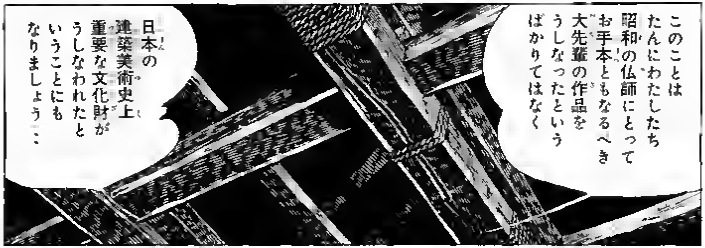
さらに 二代めの基衡が建立した毛越寺は 寺塔四十余宇 禅房五百余宇というから
まさに当時の貴族文化の中心である 平安の都にまさるともおとらない寺院文化であったといえよう……

ホントけえ……!?
おらあ中尊寺にはいちどいったことがあるけどそんただ多くのお寺や建物なんて見なかったぞ
火事しゃよ


平安の末期からおよそ百年にもわたった藤原三代の栄華も
たびかさなる火事によってそのほとんどが焼失してしまい
今日では金色堂などのわずかな建物と遺品しかのこっていないのじゃ

ウ～～～ム
木造建築ちゅうやつは火事にあったらイチコロじゃからのう…

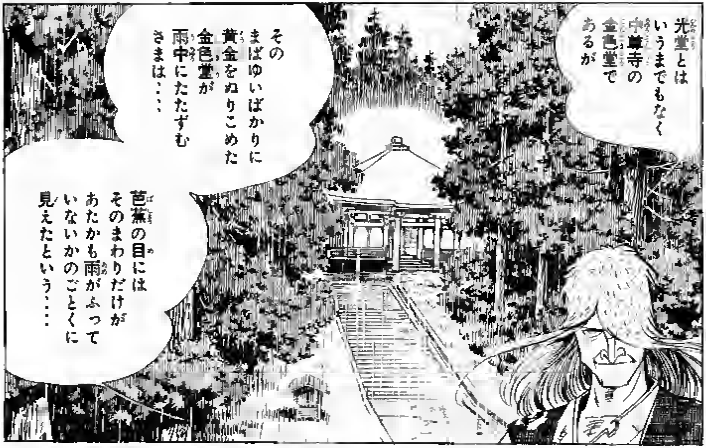
まったくですじつに残念なことですが おそらく焼失したなかには……
当時の仏師たちのすばらしい作品の数々があったことでしょう


このことはたんにわたしたち昭和の仏師にとってお手本ともなるべき大先輩の作品をうしなったというばかりではなく
日本の建築美術史上重要な文化財がうしなわれたということにもなりましょう…

フフフ
雨慶……
おめえも
なかなか勉強
しとるな……
そりゃあ
そうですよ
こうみえても
わたしはいつの日か
師匠をのりこえる
仏師になりたいと
がんばってるん
ですからね!!

フフフ
なまいき
いっちゃって
たしかに
おめえのいう
とおりかも
しれんが
当時の藤原三代の
栄華は 今日でも
じゅうぶんうかがい
知ることができる

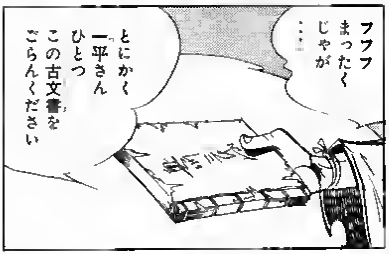
たとえば
かの
俳聖松尾芭蕉の
奥の細道の
一句に……
五月雨の
降りのこしてや
光堂……
というのが
ある…

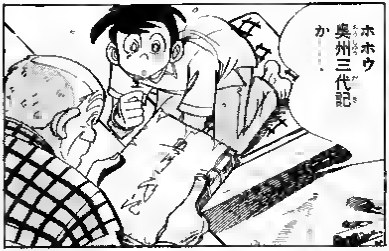

光堂とは
いうまでもなく
中尊寺の
金色堂で
あるが
そのまばゆいばかりに
黄金をぬりこめた
金色堂が
雨中にたたずむ
さまは…
芭蕉の目には
そのまわりだけが
あたかも雨がふって
いないかのごとくに
見えたという…

へ〜〜ッ

これだけを
とってみても
いかに藤原三代の
栄華が 黄金の
かぎりをつくした
ものであったかが
うかがいしれよう
し…
その黄金量に
おいて 当時の京の
都の 貴族文化を
はるかにしのぐものの
あったことは 想像に
かたくない
なるほど…
その藤原三代の
黄金文化を
ささえたのが
砂金だったと
いうわけじゃ
な…

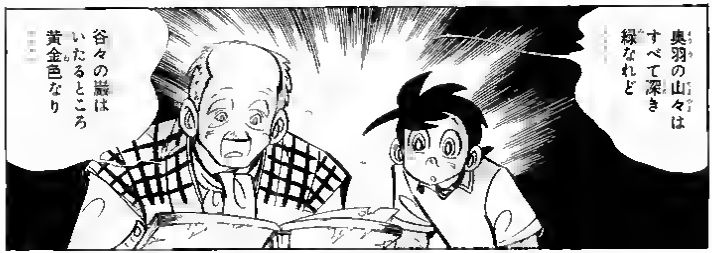
それよか
嵐慶さん
かんじんの黄金の
鯉の話は
どうなってるだ
……!!
いつのまにか
話がだいぶ
それてるで
ねえけえ!!


フフフ
まったく
じゃが
……
とにかく
一平さん
ひとつ
この古文書を
ごらんください

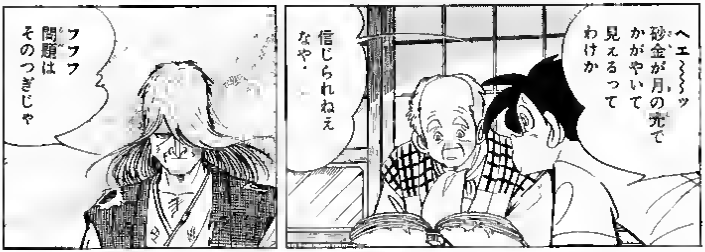

ホホウ
奥州三代記
か……

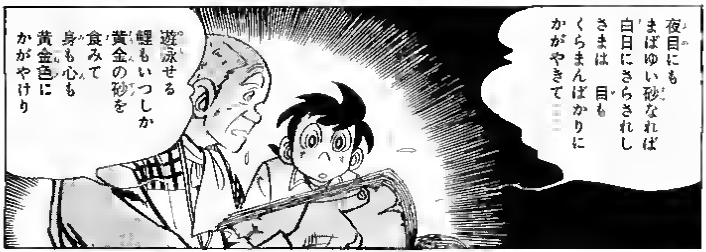
いうまでもなく
藤原三代の
栄華の数々を
記したもの
じゃが……
その
こよりを
はさんである
一節をあけて
みてください

ここか
……
なになに


奥羽の山々は
すべて深き
緑なれど
……
谷々の巌は
いたるところ
黄金色なり
……

わきいずる
青き流れが
その巌をうがち
砕き……
砂となりて
流れ落つ
屠殺たる
流れに
浄められし
砂々は……
せせらぎに
とどまりて
夜半の月にも
黄金色に
かがやけり……


ヘエ〜〜〜ッ
砂金が月の光で
かがやいて
見えるって
わけか
信じられねえ
なや・
フフフ
問題は
そのつぎじゃ


夜目にも
まばゆい砂なれば
白日にさらされし
さまは 目も
くらまんばかりに
かがやきて……
遊泳せる
鯉もいつしか
黄金の砂を
食みて
身も心も
黄金色に
かがやけり

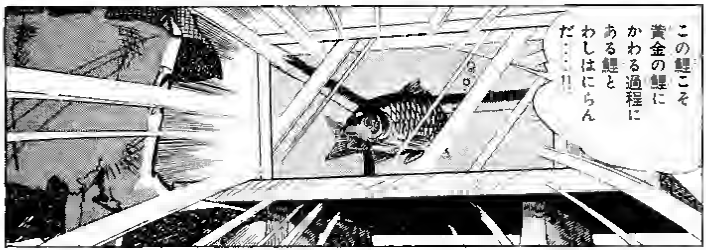
遊泳する
鯉もいつしか
黄金の砂を
食みて……
身も心も
黄金色に
かがやけり
……!?

どうじゃ
……
その
一文こそが
黄金の鯉の
生息を意味する
重要な一文
なのじゃ!!

ええっ!?
ま まさか
嵐慶さんは
たった
これだけの文から
ヒントをえて
黄金の鯉を
さがしにきたって
いうんじゃ
ねえだろうな……!?
いや
それだけ
じゃ
その一文だけが
黄金の鯉にふれた
ゆいいつの
文献じゃ!!

そ そんな バカな!!
んだって これは むかしの人が ありったけ 誇張してかいた もんだべ!!
しかも鯉は 雑食性ではあるが なんぼなんでも 砂金をたべる なんて でたらめに きまってるだ!!
ハハハ たしかに 古文書には 誇張した表現が 多い…

しかし げんにきみは あの 金かぶれの 鯉を 釣りあげたでは ないか
あの野鯉こそ 古文書の 真ぴょう性を うらづける うごかしがたい 事実であり


この鯉こそ 黄金の鯉に かわる過程に ある鯉と わしはにらん だ…!!

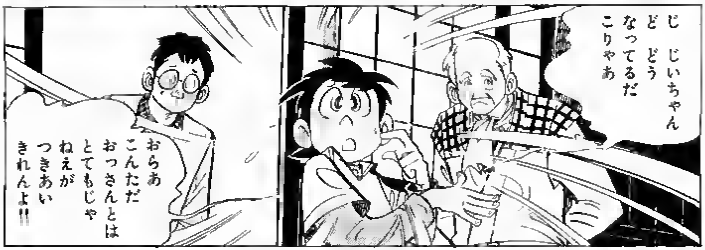
フフフ
こうなれば
人間なんて
じつに
欲ふかい
ものよ……
こうして
金かぶれの鯉を
モデルに
ほりすすめて
いくうちに
しだいに欲望が
ふくらみ……

せっかく
ここまで
たどりついた
からには……
やはり
完璧な
黄金の鯉が
ほしくなって
きたのじゃ
……!!

し しかし
嵐慶さん
……!!
いや
三平くん
いまさら
あとには
ひかせない
ぜ……!!

袖すりあうも
他生の縁!!
わしときみとが
こうして めぐり
あえたのも
前世からの
深い縁じゃ!!

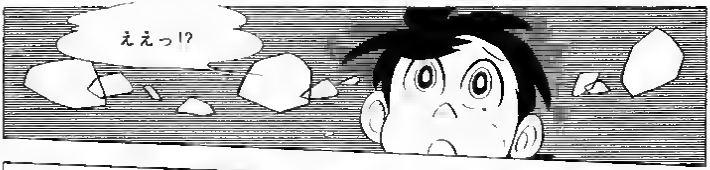
これからさき
なん日かかろうが
黄金の鯉を
さがしあてるまでは
徹底的に
つきあって
もらう!!
そして
この嵐慶の
一世一代の作品
黄金の鯉の木彫は
この地にて
完成するのじゃあ!!


じ じいちゃん
ど どう
なってるだ
こりゃあ
おらあ
こんだ
おっさんとは
とてもじゃ
ねえが
つきあい
きれんよ!!

砂金をエサに
黄金にかがやく
鯉なんていったら
大わらいされるのが
オチだへ!!
そんただとこさ
もってきて
……

そりゃあ
大むかしの
東北地方には
大量の砂金が
でたかも
しれねえ
んだども
このごろじゃあ
そんただことは
話にも きく
ことはねえべ!!

フフフ 三平
おちつけ
いちがいに
そうとも
いえねえかも
しれんぞ


ええっ!?

……
……
!?

そりゃあ
砂金をエサにして
黄金にかがやく
鯉なんて わしと
しても 信しがてえ
話じゃし……
かつては 大量に
とれたであろう
砂金もほとんど
とりつくされて
このごろじゃあ
皆無にひとし
かろう……

しかしわしの知りあいにな…
いまなお奥羽山中の秘金をもとめてあるいとる金山師がいるんじゃ…
ええ…!?
じつはずーっとまえのことじゃがそいつから…
やはり嵐屋さんがおっしゃったとおなじような黄金の鯉の話をきかされたことがあるんじゃよ…
ええっ…!?
な
なんと!!
もちろん当時のわしはそんなことなど山師のホラ話か伝説くらいにしか考えなかったので…
いつのまにかコロッとわすれとったっというわけじゃが…

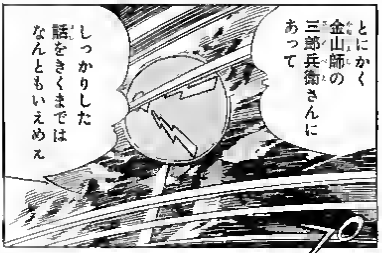
一平じいさん
そ それは
ホントのこと
ですか……
そいつあ
わからん
しかしやつは
およぐ姿を
見たとも
いっとった

そ
そんな
バカな
……

フフフ
……
これは
まさに
神仏の
おみちびき
じゃ……!!

一平さん
すまないが
明朝さっそく
その山師に
おひきあわせ
ねがいたい
……
フフフ
しようが
あんめえな
……

しかし
信じられんなあ……
黄金の鯉だなんて……
おいおい 三平
ゆんべからなんどおなじことをいってるだ


とにかく
金山師の
三郎兵衛さんにあって
しっかりした話をきくまではなんともいえめえ

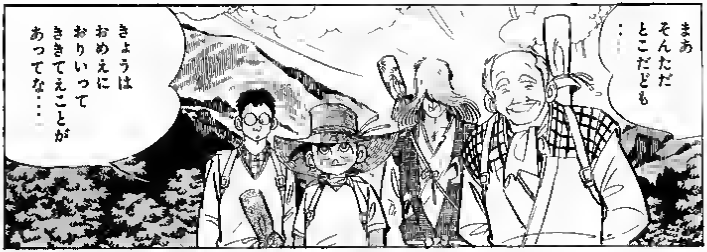
ここからは山道じゃ
一時間もあれば三郎兵衛の小屋さつくはずだ……

だいぶ けわしい 山道ですね…
そりゃあ そうだべ…
なにしろ 砂金をとろうって 場所じゃからな…
あれが 三郎兵衛の 小屋しゃ
おお やっとる やっとる

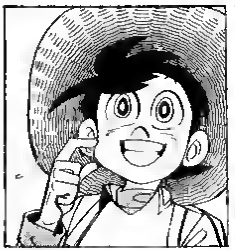
お――い!!

ン!?

なんじゃ
一平じゃ
ねえか
ヤマメでも
釣りに
きたのかい
…


まあ
そんただ
とこだども
…
きょうは
おめえに
おりいって
きてえことが
あってな…

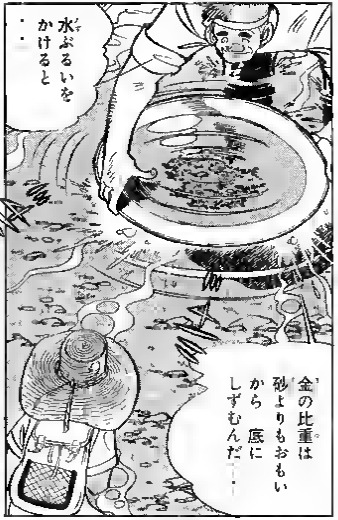
おらに
きてえこと
…!?
なんでえ
そりゃあ
まあ　とにかく
ちょっくらまて
こいつをかたづけ
たら　あがって
いくから…

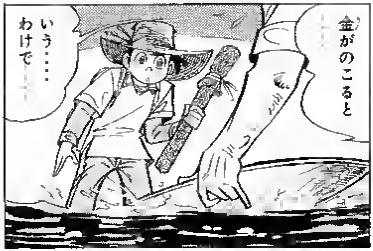


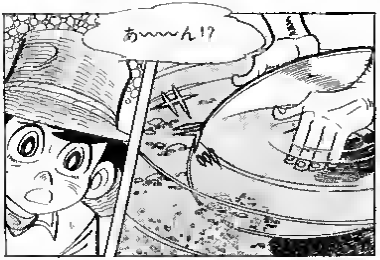
おじさん
こんちわ——っ
!!
おお
なかなか
元気のいい
子だな
おめえ
三平くんって
いうんじゃろ
ハア…
なるほど
なるほど
やっぱし
そうけえ
おめえが
一平の孫で
無類の釣りキチ
という
三平くんか
なるほど
なるほど
それよか
なにやって
るだ
フフフ
見りゃあ
わかるべ
砂金を
とってるん
じゃよ

ええっ!?
砂金ってこんただことしてとるのけえ
なんかでっけえおわんみてえだけど
おわん・・・!?
ガハハハハこいつちまさにおわんじゃよ!!
わんけちゅうてむかしからつかわれとる砂金とりの道具じゃ
ええっ!?
んだどもそんただ簡単なもんで砂金がとれるのけえ・・・!?
あいさ!!
砂のなかから金をよりわけるなんてことは造作もないことさ・・・
まずこうやってわんのなかに川底の砂をすくいとって・・・

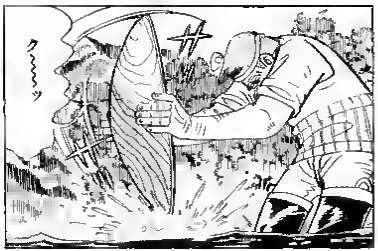
あとは
しずんだ
ところを
みはからって
上の砂だけを
あらいながせ
ば…


水ぶるいを
かけると
…
金の比重は
砂よりもおもい
から 底に
しずむんだ…


金がのこると
いう…
わけで

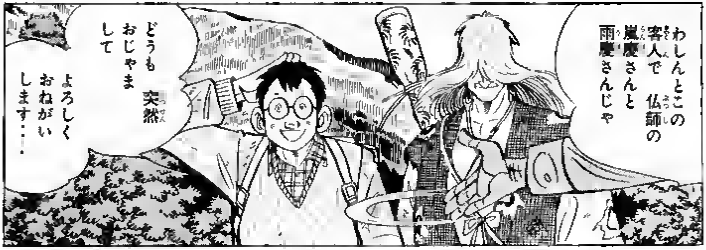

あ〜〜ん!?

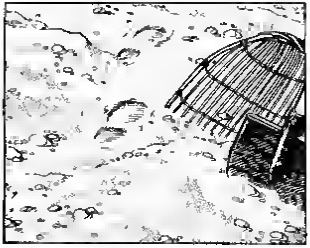
やめじゃ!
さっぱり
とれん!!

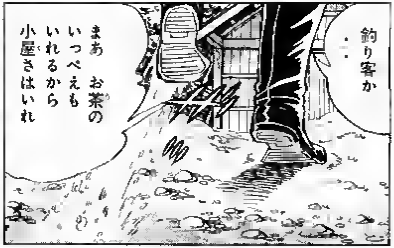

ク〜〜ッ

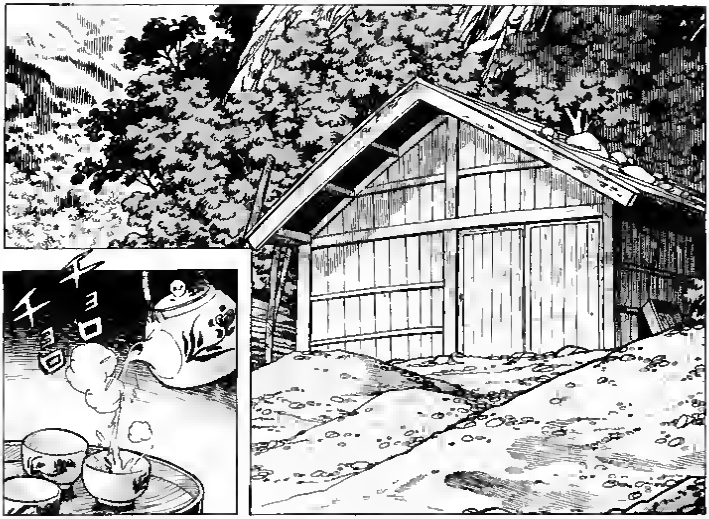
おいおい
金山師の三郎兵衛ともあろうもんが弱音をはいてどうするだ

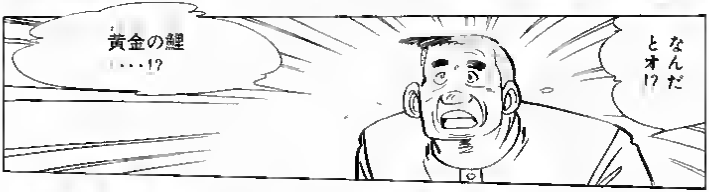
いやあかつてこの川はもっとも産出量の多い川じゃったらしいが…
このごろじゃあまったくの骨折り損もいいとこさ…
ところでそちらさんは…!?


わしんとこの客人で仏師の嵐慶さんと雨慶さんじゃ
どうもおじゃまして
突然よろしくおねがいします…



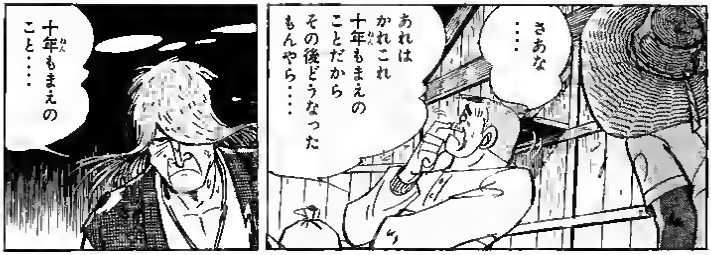

釣り客か…
まあお茶のいっぺえもいれるから小屋さはいれ

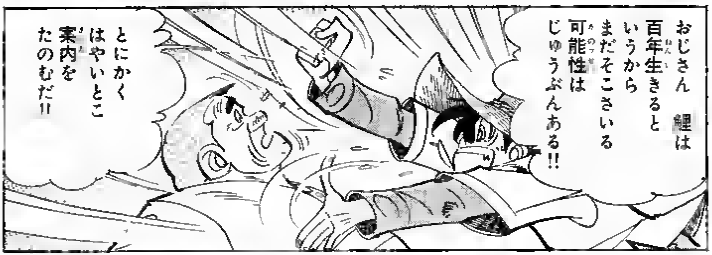

チョロロ

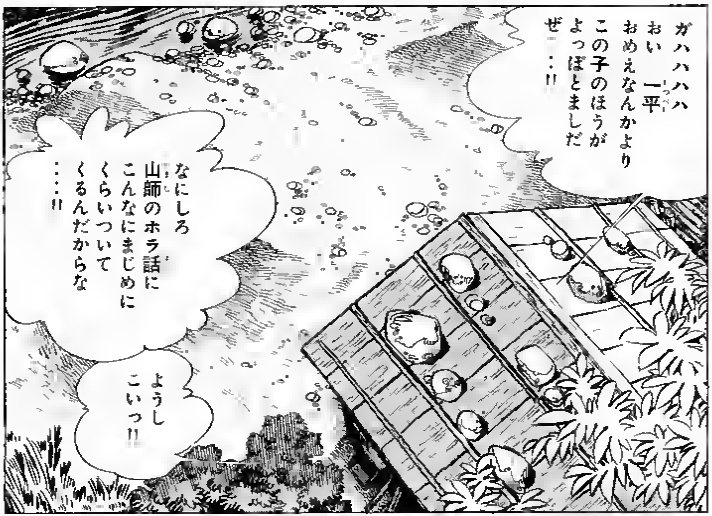

なんだとオ!?
黄金の鯉…!?

おい 一平 おめえってやつはいまごろになってなにをいいだすんだ…!!
あのときはわしの話なんぞ耳のまがりかとにもいれなかったてねえけえ

お　おじさん
す　すると
やっぱし
黄金の鯉は
いるんですか
いるも
なにも
おらあ
この目で
たしかに
見たんだ
それなのに
一平ときたら
せっかく　おらが
めずらしい鯉を
釣らせてやろうと
思って知らせたのに
てーんて相手にして
くれねえんだからな
いやあ
すまん
あんときゃあ
せいぜい山師の
ホラ話ぐれえに
しか　思わな
かったもんで
おい　一平
そりゃ
ひでえぜ
たしかに
むかしから
山師の話は
半分にきけと
いわれてるけど
よオ
そ　それで
おじさん!!
その鯉は
いまもいる
のけえ!!

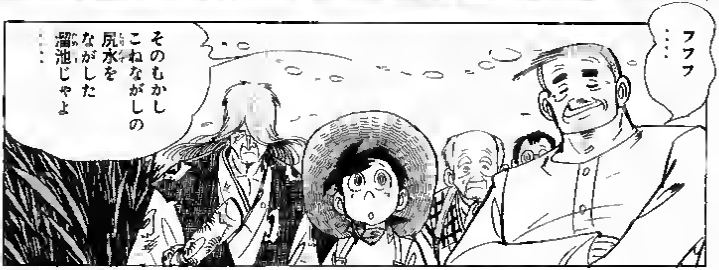

さあな……
あれは かれこれ 十年もまえの ことだから その後どうなった もんやら……
十年もまえの こと……


おじさん 鯉は 百年生きると いうから まだそこさいる 可能性は じゅうぶんある!!
とにかく はやいとこ 案内を たのむだ!!


ガハハハハ おい 一平 おめえなんかより この子のほうが よっぽどましだぜ……!!
なにしろ 山師のホラ話に こんなにまじめに くらいついて くるんだからな……!!
ようし こいっ!!

こっちじゃ
こっち!!
ハイ
ハイ
しかし
おらあ
知らんぞ
…!!
いまごろ
ノコノコ
やってきた
ところで
はたして
いるかとうか
…
ここじゃ
…!!
ありゃっ!?

こりゃあどうなってるだ……
こんただとこさ池が……


フフフ……
そのむかしこねながしの尻水をながした溜池じゃよ……

こねながしの尻水……!?

まあはやい話が……
砂金をふくんだ砂を これ以上下流にながさないためにつくられた当時の沈殿池とでもいうべきもんさ

ええっ!?
砂金の沈殿池…!?
そうよ…あの水中に立ったくちはてた柱が当時のおもかげをつたえるものじゃ…

すると黄金の鯉を目撃したというのはこの池なんだな…!?

しかし三郎兵衛たしかにこの池は様相からして鯉にとってはもってこいのすみかにはちげえねえが…
こんただ山奥にはたして鯉がいるのか…!?

ウウッ

そうじゃ…!!

おい 一平
おめえまだ
うたがっとるの
けえ・・!?
いや
うたがうって
ほどのことも
ねえけど
こんただ 人里
はなれた山んなか
ことだから
だれかの手によって
もちこまれねえかぎり
鯉がすむことには
なるめえと思ってな・・
ウッ!!

鯉だ!!
しかも
かなりの
大物!!
ングッ!!
ギッヒヒヒ
かたるに
おちたとは
このことだな
一平…

たしかにここは
人里はなれた
山んなかには
ちげえねえ
二!!
しかし 砂金とり
はなやかなりし
ころには
千人からの鉱夫が
はたらいていたと
いうし…
この池の鯉は その
鉱夫どもの食糧として
放流されたことが
そもそもの
はじまりと
いわれとるんじゃよ

ええっ!?
砂金とりの鉱夫たちの食糧として……!?
フフフなるほど……
雨屋!! やっとたどりついたぜ!!
やっとさがしあてたぞ黄金の鯉のすむという池に……!!
この池こそまぎれもなく古文書にしたためられた黄金の鯉のすむ池じゃあ!!
砂金の沈殿池にはなたれた鯉が長年月をへるごとに砂金をむさぼり身も心も黄金色にかわっていったのじゃあ!!

いざきたれ
黄金の鯉
……!!
仏師たる
生涯をかけて
もとめてやまぬ
黄金の鯉よ
……!!

オット
嵐慶さん!!
ぬけがけは
ゆるさねえ
ぜっ!!

黄金の鯉の巻 其之三

黄金の鯉はおいらがいただくだアー……!!
フフフ三平くんそうは問屋がおろさんぞ……!!
ヘエ～～～ツふたりともなんちゅうやつらだ
あれよあれよというまに第一投めをぶちこみもうやがった……

ンムッ!!
ハリャッ!!

うわあ
お師匠さん
一発しゃ
ありません
か…!!

フフ
まぁな
しかし
問題は
こいつが
ま　まさか
いきなり
黄金の鯉が
きたんじゃ
あるめえなや
ウ～～～ン
さすが　黄金の鯉を
もとめて釣りあるいて
いるというだけに
嵐慶さんの腕まえは
みことじゃが
こいつあ
初モノにしては
ちょっくら
でかい
ぞ…!!
!!
ングッ
華

ゴボ!
ウッ!!
あ〜〜ん!?
クッ!!
な——んだ ふつうの鯉で ねえけえ……!!
ハハハ 嵐慶さん はやけりゃあ いいってもんじゃ ねぇべ
きょうの おらたちのねらいは あくまでも 黄金の鯉なんだぜ!!
ヒョッ!!

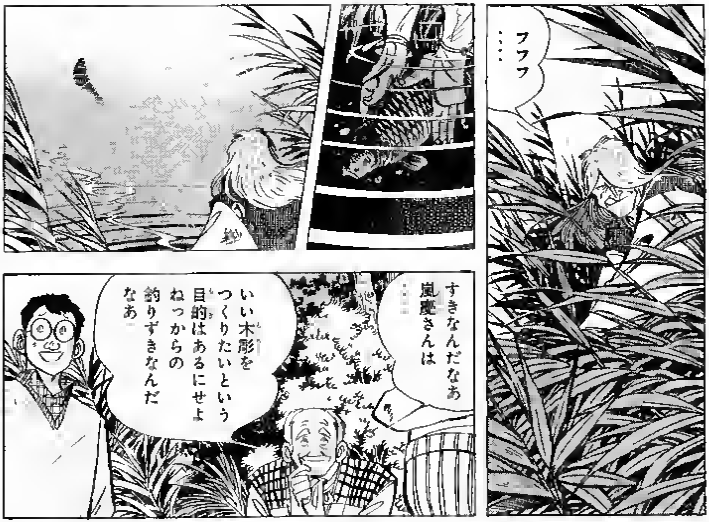
ホイキタ!!
ほほう!!
ありゃ!!
き 三平(さんぺい)
くん……!!
ケッヘッヘ
どうでえ
嵐慶(らんけい)さん
こっちだって
そうやすやすと
負(ま)けて
たまるかいって
てんだ……!!

ドド
!
ああ…

ダメだ
またふつうの鯉だ
フフフ
あんまりひとのことをいえんな三平くん
ク〜〜ッ
ごあいきょうごあいきょう
なあにこれでどちらも1勝1敗だから一回戦はひきわけってとこだべ
フフフ
あくまでも強気か
あったりきよオ!!
とにかくこの池にはかなりの鯉がすんでることがわかったわけだから…
黄金の鯉がでるまで釣って釣って釣りまくるだけよオ!!

くどいぜ
三平くん
……！
わしの
ねらいは
もとより
黄金の鯉
ただ一ぴき
……!!
ほかの鯉に
用はない!!
ンムッ!!
ああ
また
ふつうの
鯉だ……

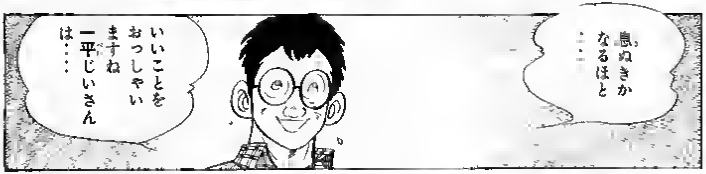
ヒョッ!!
ンッ!!
ありゃまたか・・・


フフフ……
すきなんだなあ嵐慶さんは……
いい木彫をつくりたいという目的はあるにせよねっからの釣りすきなんだなあ

そうなんです仕事がうまくいかないときやイライラしたときなど
サソと竿をかついででかけちゃうんです……
そして釣りからかえってくるとそれまでの気むずかしい顔がパッとあかるくなってノミさばきも軽快になるんです……
わかるわかる
そんなもんかなあ……
おらあ釣りなんかトント興味がねえからわからんなあ

な——にいってるだおめえにだって趣味のひとつやふたつはあろうが…
人間が生きていくためにゃあほどよい息ぬきがひつようだってことき…
毎日はりつめてばっかりじゃあ息がつまっちまうべ…
その息ぬきにあたるもんが趣味ってもんじゃ…

趣味!?
そうよ
趣味っていやあかたくるしくきこえるかもしれんがようするに…


息ぬきかなるほど…
いいことをおっしゃいますね一平じいさんは…

しかし おらに趣味なんてあるかなア…
せいぜい仕事がおわってから酒をのむぐれえしかたのしみなんてねえような気もするが…

バカこけおめえにゃ砂金採りちゅうとてつもねえ趣味があるじゃねえか…
いまどき山んなかさこもって砂金採りに夢中になってるなんて趣味でなくてなんでえ!!

あ そうか
そういえば
そうだな
バカだな
いまごろ
気がついたのか
い!!
ケッへへ
まいった
まいった
しあわせな
男しゃよ
おめえって
やつは……
しかし 雨慶さん
おめえの師匠の
釣りは……
急ぬきに
しては ちと
意気ごみ
すぎるんしゃ
ねえのけえ
……!?

ありゃあ
どうみたって
気がるな
息ぬきなんて
もんじゃねえ
・・・!!
まるで
なにかにつかれた
ような・・・
そ そういわれて
みれば
なんか こう
・・・
鬼気せまる
ような
すさまじさすら
感じられる
・・・

いやあ
なんぼちがう
ちゅうても
メシを食えば
クソがでる人間で
あることにゃあ
かわりあるめえ

しかし三郎兵衛
…
嵐慶さんは
仏像なんかを彫る
いってみりゃあ
芸術家だ
わしらのような
凡人とは
ここが
ちがうんじゃよ
…

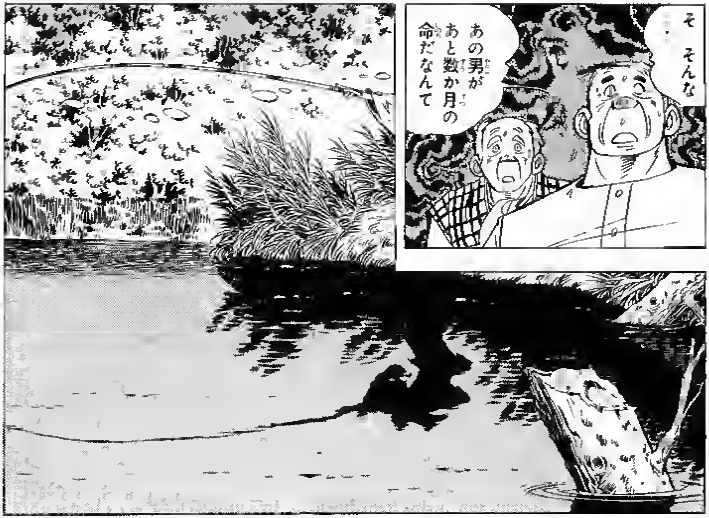
たしかに
黄金の鯉を
釣りあげて
それをモデルに
木彫をしあげたい
という目的は
あるじゃろうが
おらに
いわせりゃあ
たかが木ぼりの
鯉じゃねえか
てきとうに
やったところで
だれにわかるもん
でもあるめえに
…

そこじゃ
ねえかな
…
芸術家と
凡人のちがい
は…

いや…
たしかに師匠の
仕事にたいする
きびしさは
昭和の運慶の
異名どおりに
それはそれは
すばらしいもの
で…

わたしなど
一生かかっても
足もとにも
およばない
でしょう

しかし 師匠の
黄金の鯉の
木彫にかける
執念は…
そうした
仕事のきびしさ
ばかりではなく
のっぴきならない
事情があるの
です…
のっぴき
ならねえ
事情…
なんでえ
それは…
癌です
ええっ
!?
!? 癌……
師匠のからだは
すでに
現代医学でも
どうにもならない
癌におかされて
いて…
余命
いくばくも
ない
身です


そ…そんな
あの男があと数か月の命だなんて

で 嵐慶さんはそれを 知っていなさるのけえ…!?
ええ 知っていると思います

だから この数か月間 常人にはまるで考えられないほどの執念で
黄金の鯉をさがしもとめてきたのだと思います…

なんちゅうこった
この旅はたんなる釣りの旅ではなくおのれの生命をかけた 旅だったとは…

そんな師匠の最後のねがいをぜひかなえさせてやりたいと…
わたしも微力ながらこうして 旅のおともをしているのです

ウ～～～ン
人間の裏側
ちゅうやつは
うわべだけじゃ
わからんもんだ
なあ…
本人も気のどくな
こっちゃが…
つれそってる
おめえも
つらいこと
じゃろ…
ウウ
わ わたしなんか
お師匠さんに
くらべりゃあ
……
三郎兵衛
こりゃあ
えれえことに
なったな
わしらとしても
なんとかのぞみを
かなえさせて
あげてえもん
じゃが…
ウムII

おめえたちが
あんまし真剣に
わたりあってるんで
水をさしちゃあ
わるいと思ってな
おお
三平か

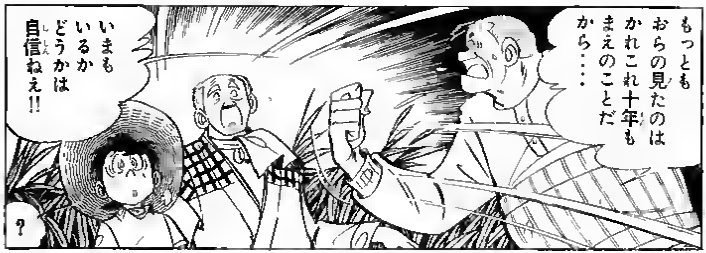
ファ～～～ッ
まいった
まいった
なんでえ じいちゃん
まだ竿をだして
いなかったのけえ
…!?

どうでえ
調子は
調子は
いいけど
釣れるのは
みんなふつうの
鯉はっかし!!

この池には
ホントに
黄金の鯉が
いるんだべか

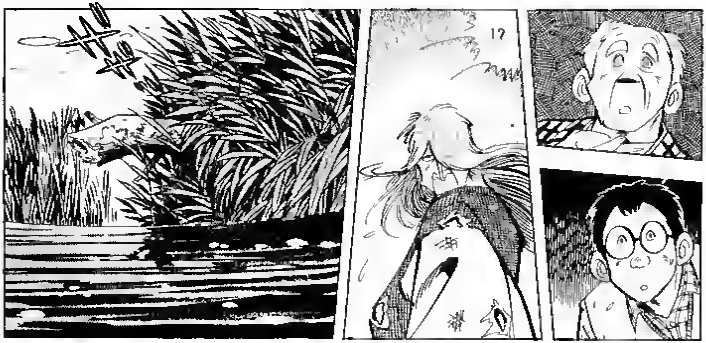
ウム
かりにいたと
しても この池の
なかからそいつを
えらびだして
釣るちゅうことは
ようないなこっちゃ
ねえ…

かりにいたと
してもだとオ
…!!
一平
おめえはまだ
おらのいったことを
信用してねえ
ようだな!!


もっともおらの見たのはかれこれ十年もまえのことだから…
いまもいるかどうかは自信ねえ!!
?

じゃがこうなったら……
イチかバチかの手でおびきだしてみせる!!

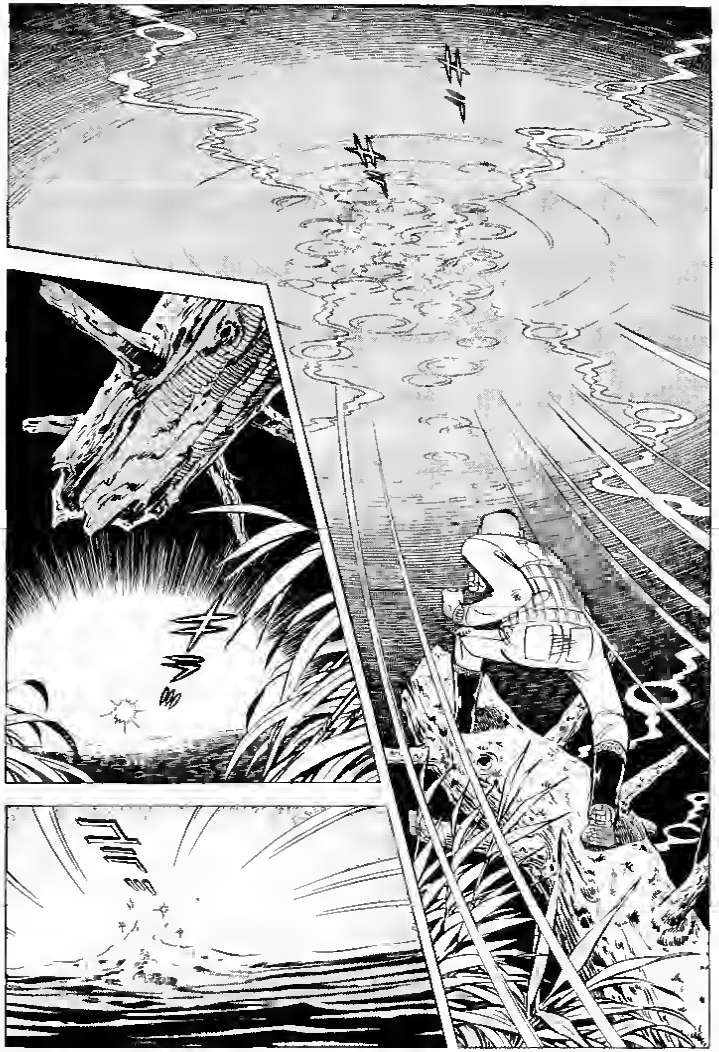
さ 三郎兵衛さん!!
イチかバチかの手ってなにけえ!?
ガタガタこかねえでだまって見てろ!!


17

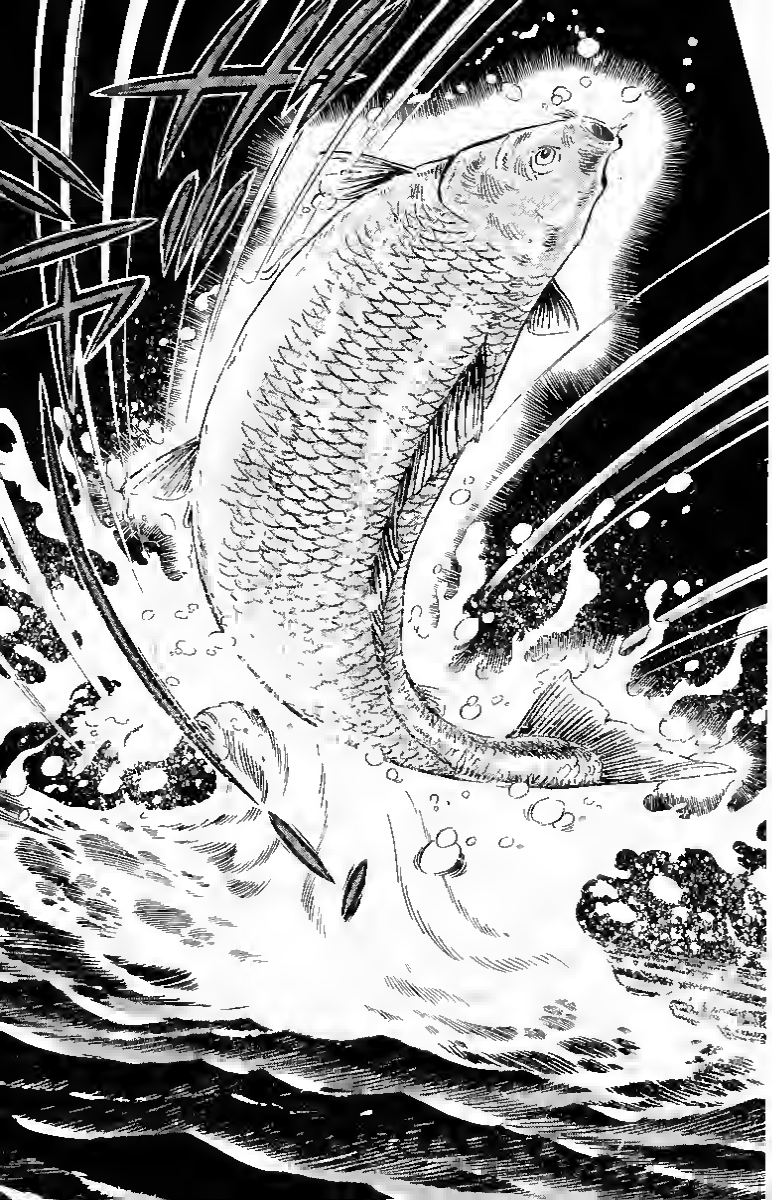
な なにやらかすつもりなんだべイチかバチかの手なんて……
ウム
ヒゲ
ヒゲ
ヒゲ

ン!?
ンクッ!!
ンムッ!!

あ〜〜〜ん
な なんだ ありゃあ……!?

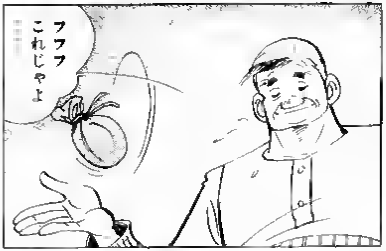


ああっ!!
ウオッ!!
ンムッ!!



でてたっ!!
黄金の鯉だ〰〰っ!!
嵐屋さん見たぺ!!
いまのはたしか……
ウムー
まぎれもない黄金の鯉……!!

そ それにしても
三郎兵衛さんは
いってえなにを
やらかしたんだ
なんか へんなもんを
口ふふくんで ふき
つけたようだった
けど…


フフフ
これじゃよ

な なんだ
とオ…!?
三年がかりで
やっとあつめた
ひとにぎりの砂金を
バラまいた
ちゅうのかっ!!

そ
そんな
バカな……
ら 嵐慶さん
おらたちは
まさか夢でも
見てるんじゃ
ねえべなや
いまのが もし
夢じゃねえと
したら……
奥羽の山中より
ながれいずる砂金を
エサにして 身も心も
黄金色にかがやく
鯉の話は
ホントのことに
なる……
三平くん
夢なら夢で
いいじゃ
ないか
かりにいまのが
夢んなかのできごと
だとしても
わしはこの目で
しかとみとどけ
たんだ
砂金を
ふくんで
ジャンプした
黄金の鯉を
ね……!!

うんにゃ 夢なんかじゃ ねえ!!
嵐蔵さん おめえさんの たゆまざる執念が 黄金の鯉を おびきだしたん じゃ・・・
フフフ・・・
さ 三郎兵衛さん・・・!!
そ そうだっ!!
三郎兵衛さん 砂金はまだのこってるけえ・・・!?
三分の一ほどバラまいただけじゃからまだ のこっとるが
それがどうした
すまねえがそいつをおらにくれねえか!?

おい 三平
なんてことを
いいだすんだ
!!
わずか
ひとにぎりとは
いっても
金だぞ……!
百円や二百円の
お菓子じゃねえって
ことぐれえは
知っておろうが!!
三平くん
いってえ どう
しようてんだ
この砂金を
……
フフフ
きまってる
じゃねえか
……!!
な なんだと才……!?
ねりえに
砂金をまぶして
黄金の鯉を
釣るだと才!!
おめえ 頭が
おかしく
なったとちがうか
そうだよ
三平くん
……
わしのつくる
木彫には
金泥金箔が
よくつかわれる
……
だからわしは
金がどれほど
高価なもので
あるかを
よく知っている

ましてや
その砂金は
三郎兵衛さんが
粒粒辛苦のすえ
やっとあつめた
汗の結晶だ
それをエサにして
鯉を釣ろうなんて
あまりにも発想が
奇抜すぎる!!

きみの好意は
うれしいが
あの鯉を手に
おさめなくとも
わしの目には
しっかりと
やきついていて
もはや 黄金の
鯉の木彫は
九十九パーセント
完成したも
同然じゃ!!

オット 嵐慶さん!
九十九パーセントって
ことは
完璧じゃ
ねえってこと
だべ!!
完璧な
作品をつくるにゃ
やっぱしのこりの
一パーセントの
実物を 手に
してみるって
ことなんだ!!
おらあ
なんとしても
嵐慶さんに
りっぱな黄金の
鯉を 彫って
もらいてえ!
なんとかして
その木彫の
お手づだいを
してえんだ!!

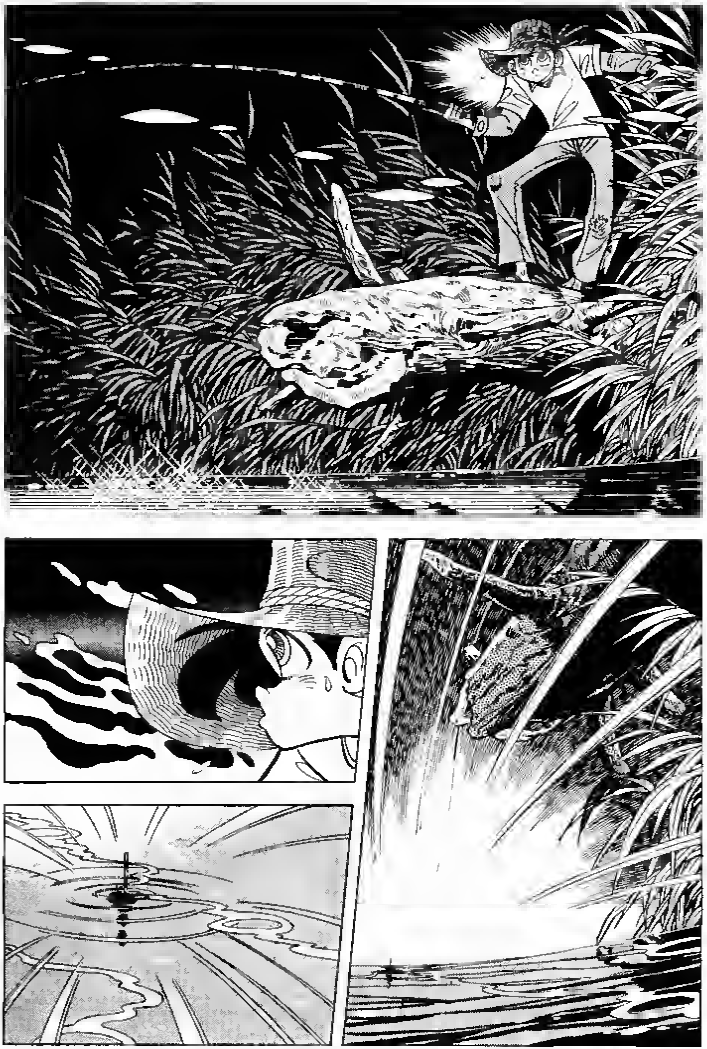
さ
三平くん
……
フフフ……
やってみろ
三平くん！
フハハハ
おらあ
おめえの
そのむこうみずな
ところが
気にいったぜ!!
うわあ!!
あ
ありがとう
三郎兵衛さん!!

ウッヒョ〜〜ッ！
やったるぜエ!!

さ三平…
な なんちゅうやつだおめぇってやつは…

ウ〜〜ム!!

たった一ぴきの鯉を釣るために砂金をエサにしたなどという釣り人は…
世界じゅうをさがしてもきみをおいてほかにはあるまい…



ヒョオッ!!

ングッ!!
あぁ……

お
黄金の
鯉……!!

ウウッ……
夢にまでみた黄金の鯉……!!
三平くん……!!
お お師匠さん……!!
お お師匠さん……
ウウッ……

ながれいする砂金をエサに　身も心も黄金色にかがやく鯉……いうまでもなく　この鯉はホク(矢口)のフィクションであり　こんな鯉などこの世に存在するはずはない　しかし　愛鱗家のあいだでもてはやされている錦鯉のなかには　山吹黄金　ドイツ黄金などのいわゆる全身黄金一色の鯉が実在してあり　池にはなやかないろどりをそえているのをごらんになった方も多いと思う

この黄金の鯉の歴史は　昭和21年　新潟県古志郡山古志村の　青木沢太氏(当時89歳)と　その子女　日出男　絹子両氏の　親子二代にわたる長い研究と努力の結果つくりだされたものでその動機となったのは　大正11年ごろとなり村の少年が　ちかくの川から背筋に金色のウロコをもつ鯉を釣りあげたことをききつけ　それをゆずりうけて親鯉として交配をくりかえし　今日の黄金系の錦鯉がつくりだされたといわれている

黄金の鯉の巻　おわり

■黄金の鯉によせて

ボクの中学校は西成瀬中学校といったが、現在はない。生徒数が減少したため統合され、校舎は精密機械の部品工場になっている。帰省するたびにその前をとおるが、とても複雑な気持ちになる。

中学時代は、にぎやかな学校だった。ちかくに吉野鉱山という、銅を産出する鉱山があって、さかえていた。二度ほどクラス全員で見学しにいったことがある。たくましい男たちが地下ではたらいており、掘りだした鉱石をくだくコンクラッシャーの音がたえまなくひびいていた。銅山だから主として銅を掘っていたわけだが、副産物として、ホンのちょっぴりだが金もとれた。初めて金というものをみせてもらったのは、鉱山の所長室である。たいせつそうに所長さんが金庫からとりだしてみせてくれた。山吹色にかがやくのべ棒だった。当時それ一本が、どのくらいの値段だったか教えてもらったが、忘れてしまった。ただ、山吹色の輝きだけが、いつまでも眼の底にのこった。「黄金の鯉」を描きながら、あの日の輝きを想いだしていた。

縄文式釣りの巻

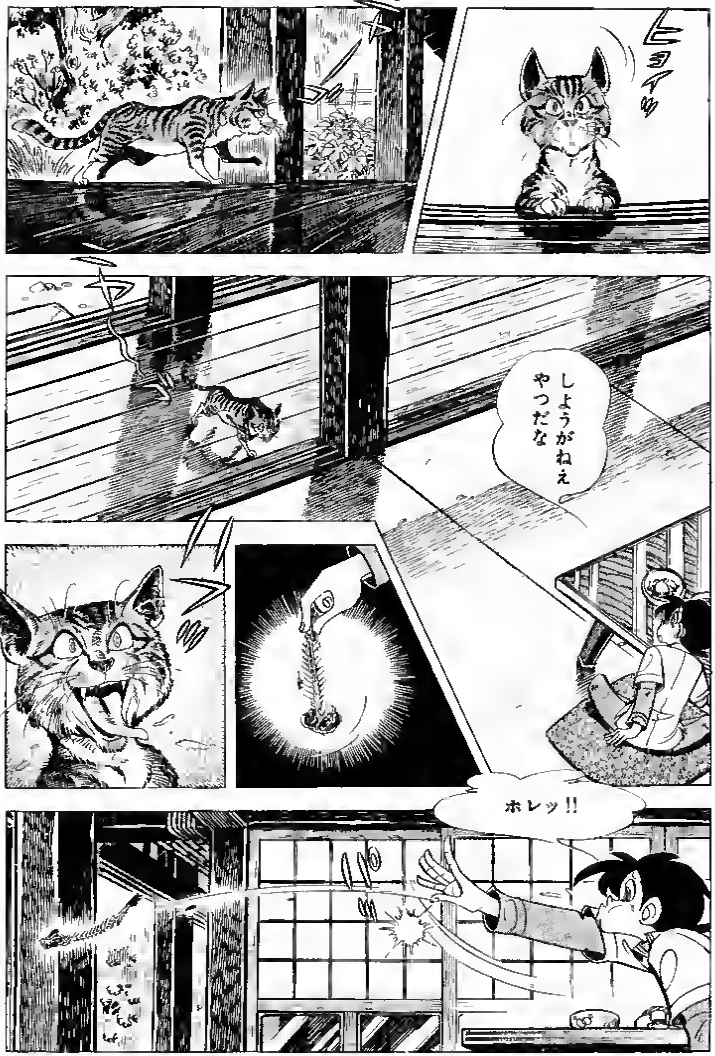
ユリッペの家にタマという猫がいる
こいつがまったくのぐうたら猫でネズミなんか一ぴきもとらねえばかりかひまさえあれば寝てばかり…
フー
しかも日ごろロクなもんを食わしてもらってねえらしくメシどきになるときまっておらの家さやってくる…

ズミ
ズミ

三平
おめえって
やつは
なんちゅう
食い方を
するんだ
メシぐれえ
じっくりと
おちついて
食え・・・

おめえのような
食い方を
どろぼう食いって
いうんだぞ
どろぼう
食い・・・・?
そうさ
どろぼうが
はいった家んなかで
ついでにメシまで
いただいちまえって
かっくらう
食い方じゃよ

なるほど……
んだどもどろぼうがゆっくり食ってたんじゃ商売になるめえ
屁理屈をこねるな
食事はおちついてようくかむんだ……
だいいちそんなにはや食いしたら
せっかくのうめえ料理もあじわう時間がみじかくて損じゃねえか
理屈だなや……
そればかりかよくかむことになり
胃にかかる負担もすくなくなって一挙両得ってもんじゃハハハハ
たしかに時間をかけて食えばそれだけうまさをながくあじわえるってわけか……
また きたな タマのやつ


ヒョイ
しようがねえやつだな
ホレッ!!

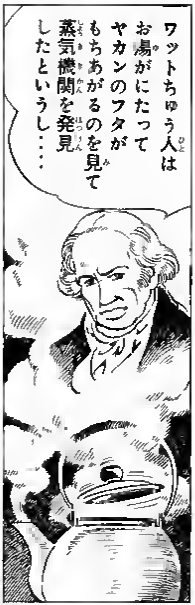
ゴロニャン!!
ニャ〜〜〜ゴ
ま——ったく
ユリッペのやつと
きたら ロクなもん
食わしてやらねえから
ガツガツしてやがる
まあ
いいじゃ
ねえか
どうせおめえの
やるもんだって
魚の骨ぐれえの
もんじゃろ

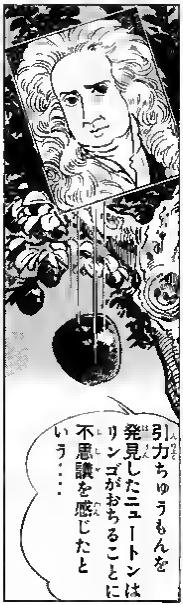
な――にいってるだこのまえなんかヤマメの塩焼きを
丸ごと一ぴきあげたんだぜ
ンッ!?
ガハハハノドさ骨をひっかけたらしいなガツガツするからだよザマミロ!!

・・・
といっては
みたものの
だいじょうぶ
かな
だいぶ
くるしんでる
みてえだ
けど・・・
心配ねえべ
そのうち
とれるさ
・・・
しかし
大むかしの人たちは
おそらくこんな
ことから釣りバリ
ちゅうもんを発明
したんじゃろうな
釣りバリの
発明・・・!?
ウン
釣りバリは
すでに縄文時代には
あったんじゃよ
縄文時代
ちゅうと
あの
縄目模様の
土器なんかが
つくられたむかしの
ことけえ・・・?
そうじゃ
釣りバリは
すでにそのころ
発明されて
いたんじゃ

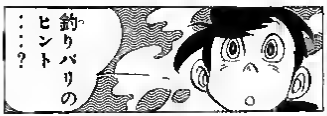
じいちゃん なんてきゅうに そんただことを ・・・・
いや べつに 急に思いついた わけじゃ ねえ
ずっと まえから考えて いたことじゃ

だいたい ものごとの 発明や 発見には かならず ヒントになる ことがある


ワットちゅう人は お湯がにたって ヤカンのフタが もちあがるのを見て 蒸気機関を発見 したというし・・・・


引力ちゅうもんを 発見したニュートンは リンゴがおちることに 不思議を感じたと いう・・・・

それとおなじように 大むかしの人たちが 釣りバリちゅう もんを発明するには なにかヒントになる ことがあったはず じゃ・・・・


釣りバリの ヒント ・・・・?

これを 見ろ!!

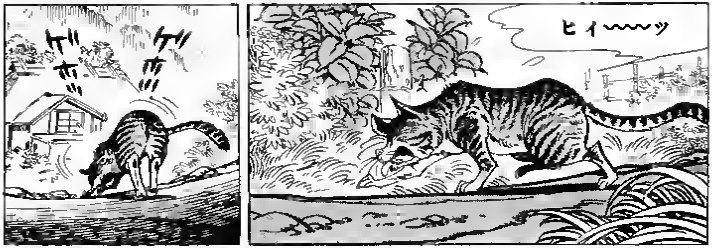
いまタマのやつがノドにひっかけたとおなじアジの骨じゃがなんとなく釣りバリににてると思わんか
ああ
ま まさに釣りバリ

大むかしの人たちがたとえばいまのタマのように魚の骨をノドにひっかけたのを見て…
釣りバリちゅうもんを考えついたんじゃねえかと わしは思うが…

な――るほど猫のノドさひっかかった魚の骨をヒントに釣りバリを…
たまげたなやしいちゃんがそんただことを考えてたなんて
いやあ じつは以前わしもひっかけてえれえくるしんだことがあったが
そんときフッとそんなことを考えたんじゃよ

いや
おもしれえよ
じいちゃんの
その説!!
たしかに
釣りバリは
魚のノドさ
ひっかける道具
だからな…!!
しかし
そうなると
大むかしの人たちは
こんただ骨を
釣りバリにして魚を
釣ってたのかなア

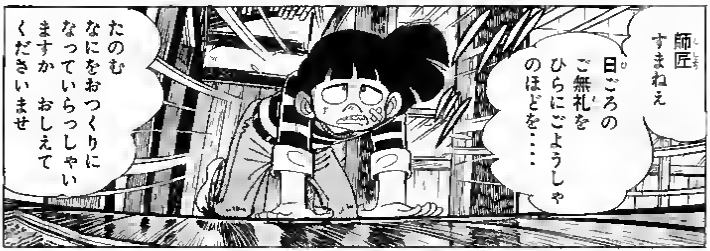
バカ
こんなもんで
魚が釣れるわけ
ねえべ
鹿の角や
動物の骨を
けずって
つくったん
じゃよ!!
ちょっくら
わしの本棚から
「古代の日本」ちゅう
本をもってきて
みろ


ヒィ〜〜ッ

おう 正治
カセでも ひいたか
ずいぶんな ごあいさつだ なや
どうせ ロクでもねえ ものをつくってる くせして……
ゴホン!!

どうせロクでもねえこととはなんちゅういいぐさだ
ちゃーんとことわけを知ってからいってもらいてえなや
なにがことわけだい
カモシカのガイコツなんかもちだしてさあ!!

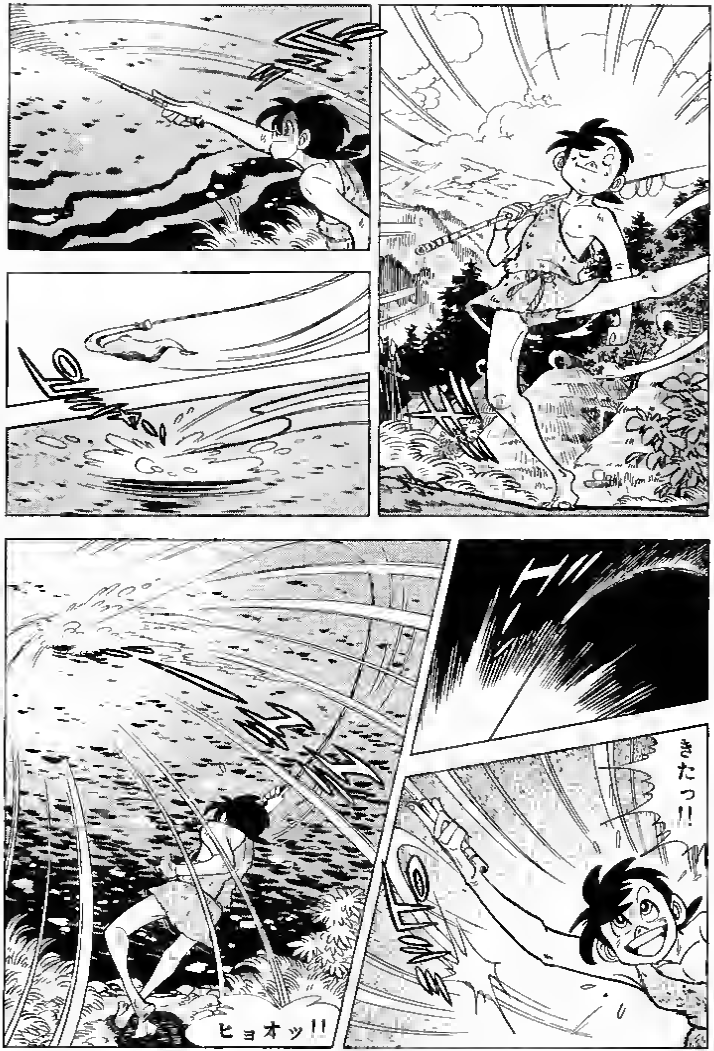
ケッてめえみてえな低次元なガキにゃあおらのやってることなんか 理解できめえ!!
低次元とはなんたるいいぐさ
こう見えてもおらは師匠の一番弟子だぜ
弟子におしえるのは 師匠のつとめじゃねえか!
弟子なら弟子らしい口をきけ!!
ちゃ――んと手をついておねがいしますっていえばおしえてやる!!


師匠 すまねえ
日ごろのご無礼をひらにごようしゃのほどを・・・
たのむなにをおっくりになっていらっしゃいますか おしえてくださいませ

それで
いいんだよ
それで
やれば
できるじゃ
ねえか
いいか
おどろく
なよ
じつは
こいつは
な
ええっ!?
縄文式
釣りバリ
……!?
そうさ
去年六枚沢さ
鮎釣りにいったとき
ひろってきた
このカモシカの角を
利用して
縄文時代に
夢をはせてるって
わけさ
へエ～～～ッ
師匠の頭の
構造って
どうなってるだ
なんで
そんただアイディアが
でてくるんだ
いや
じつはな
……
ええっ
猫のノドさ
ひっかかった魚の
骨……!?

いやそんなことがヒントになって
釣りバリが発明されたんじゃねえかってしいちゃんがいうんだ
ああ あった
じいちゃんこれだべ
それそれ
ホラこれが縄文時代の釣りバリじゃよ
ああ
鉄や銅の発見されなかった石器時代には
角や骨をけずってこんだ釣りバリをつくっていたんじゃよ
すんごいなやじいちゃん
これなんかカエシまでついてらあ!!
だんだん工夫がこらされていったんじゃな
まいったなや
こりゃあなんだべこのハリのうえさついてるやつは……

オモリじゃよ
はじめは小石なんかをつけてたと思うが…
時代がすすむにつれて 土器のように焼き物でオモリをつくるようになったんじゃよ
たまげたなや
釣りバリばかりじゃなくオモリをつけて釣ることまで考えてたなんて
大むかしの人だからといってバカにしちゃあいかんよ
わしらが今日たのしんでる釣りも
時代をさかのぼればこうした大むかしの人々のたゆまざる研究のたまものなんじゃよ
なーるほど


きたっ!!
ヒョオッ!!

ウッヒャ〜〜ッ
じいちゃん
おらあ
やってみるだ
縄文式釣りを
・・・!!
やるって
おめえ
どうやって

角ならある!!
ホラ 去年の夏 六枚沢で ひろってきた カモシカの ガイコツだ
こいつで 縄文式 釣りバリを つくってみるだ
ヒャッホ――
やれやれ 思いたったら ただちに実行か……
あれじゃあ メシ食うのも はやいわけだ
なーるほど
これが 縄文時代の 釣りバリって わけか……
どうでえ
だんだん カツコがついて きたろう
おお パッチシだ
さ――すが 器用なもんだなや 師匠の手は……

んだども
そんただもんで
ホントに釣れる
かなあ…
バカいうな
げんにこのとおり
縄文時代の
人たちは
釣ってたんだ
縄文時代の
人たちにできた
ことがおらたちに
できねえわけは
ねえべ
ちゅうことは
そいつをつかって
じっさいに釣って
みようってこと
けえ…？
あったり
めえだべ
せっかく
つくっても
ためし釣りをして
みねえことには
なんの意味も
なさねえべ
ほんじゃあ
ためし釣りの
相手は…
ちゃんと
考えてる
まずは
小手しらべに
村会さんの
池の鯉だ!!
ええっ!?
村会さんちゅうたら
あの村会議員の
伝兵衛さんちの
…
でっけえ
錦鯉が
うじゃうじゃ
いる 池のこと
けえ…!?

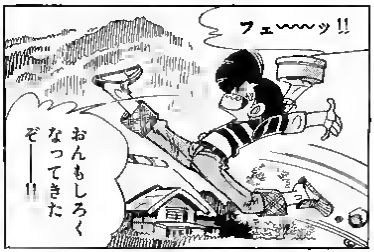
それ以外に村会さんの池はあるのか
だいたいこのハリはかなり大口の魚じゃねえとムリだ
そこさいくと村会さんの池にゃあ三尺ちかい錦鯉がうじゃうじゃだ
ためし釣りにはもってこいの場所さ
んだども人のかってる池の鯉を釣るなんてどろぼうじゃねえか
バカそんなことをいってる場合じゃねえ
おらたちは学術的実験をおこなうんだぞたんなるどろぼうとわけがちがう!!

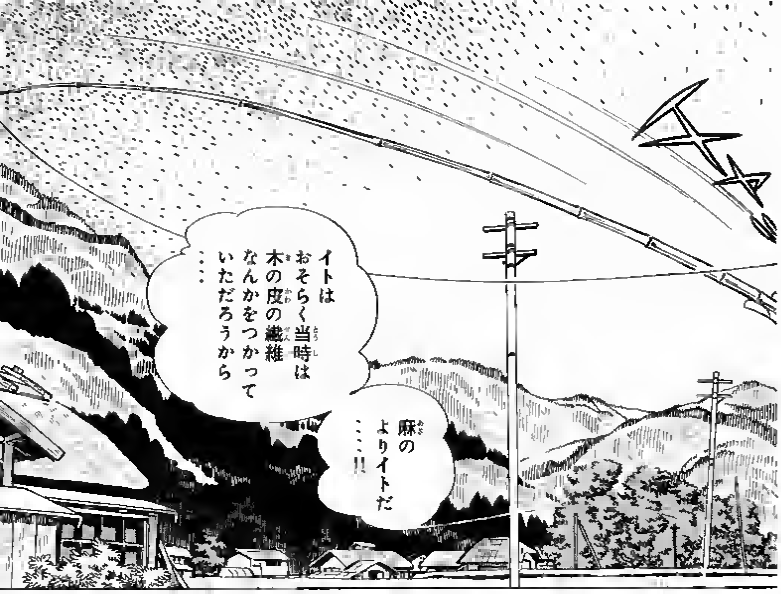
ようしできたぞお!!
テグスはナイロン何号にする?
かなりふとくねえとあの錦鯉はあがらねえぞ
バカ縄文時代にナイロンなんてあるわけねえべ!!
この実験はできるだけ縄文時代に忠実におこなうことがたいせつなんだ!!

これがしかけだ
竿は竹ののべ竿
オモリは小石
な――るほど

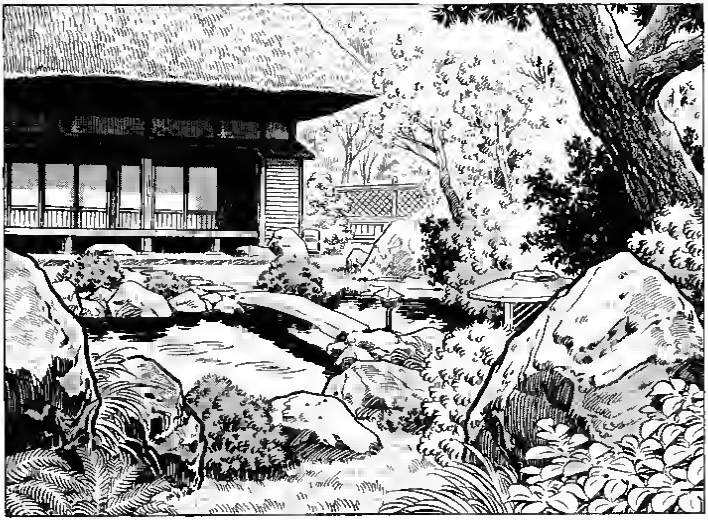
師匠
なんだかドキドキしてきたなや
縄文時代の人たちもやっぱしドキドキしながら釣りにでかけたんだべか？

さあ感心してる場合じゃねえ!!
いくぞっ!!


フェ～～ッ!!
おんもしろくなってきたぞ――!!


麻のよりイトだ……!!
イトはおそらく当時は木の皮の繊維なんかをつかっていただろうから……

あったりめえさ
釣りのたのしさは
そのドキドキと
はやる気もちだ
時代はかわっても
人の心にかわりはねえ!
われら縄文時代の釣り人なり〜〜〜っ



ケッへへ
いるぞ
いるぞ
でっけえ
やつが
うじゃうじゃ
いるぞ!!
しかも
うめえことに
人影はなし
……
シメ
シメ

正治
とりあえず
おめえはそこさ
かくれてみてろ
バッチシ
たのむぜ
師匠!!
わかって
るって!!

フフフ
とんで火にいる
夏の虫とは
このことだ
わが縄文式
釣りバリの
威力
いまこそ
ためして
くれようぞ
モゾ
モゾ

フワ〜
ポ！
うまく
いったら
おなぐさみ
〜〜〜っ!!

ケッ
ようし!!
こうなったら大物にねらいをつけて・・・
あれだ!!
小ものがとびついてエサだけとられちまったか
あの三色鯉がいちばんでかい!!

あいつの鼻っツラめがけて直撃だ
ズーン
ドン

そらきた!!
やった!!

トハ――ッ!!
師匠(ししょう)
すんごいぞ
かかってる
かかってる!!

ドドド

ンギ〜〜ッ!!
いてて
てて
ガタガタ
わめくんじゃ
ねえ!
なんちゅう
ガキどもだ!!
わしがいのちの
つぎにたいせつに
しとる 錦鯉を
釣りあげるなんて
…
まあまあ
村会さん
村会さんの
愛鱗ぶりは
かねがね
ぞんじて
おります
お腹だちは
ごもっとも
ですが…
なにぶん
子どもたちの
ことじゃし ここは
ひとつわしの顔に
めんじて…
いかん!
いくら子ども
だからといって
ゆるせん!!
いや
子どもだから
ゆるすわけには
いかん!!

いいか 考えてもみろ！
これからの日本をしょってたつ子どもが軽どろぼうなんかやらかしてどうする
これは将来的な大問題だ!!

まあまあこれを見てくだされ
なんじゃこりゃあ

大げさ……!?

そんな大げさな……

しかしちかごろの子どもたちはちょいとおとなしすぎるとは思わねえか……？

三平たちは　そんな
とおい先祖の
たゆまざる努力に
感激し…
すこしでも
先祖の生活を
知ろうとして
このハリを
つくったんじゃ
…

いま
鯉を釣った
ハリじゃよ
鉄も銅もなかった
縄文のむかし
わしらの先祖は
こんなハリをつかって
魚を釣っていたんじゃよ…

そりゃあ
ひとの池の
鯉を釣るのは
たしかに
よくねえことだ

生活が
ゆたかになり
便利になったため
自分の頭や
手足をつかって
ものごとを工夫したり
つくったりする
ことを　あんまり
しなくなった
ように思わんか
…？
子どもは
もっと自由に
のびのびと
…
ときにゃあ
わるさのひとつや
ふたつしながら
いろんなことを
まなび吸収していく
ことのほうがいいと
わしは思うがな
…

ファ〜〜〜ッ
まいった
まいった
ロープで
しばられた
あとが
ヒリヒリ
する
まったくだ
じいちゃんが
きてくれなかったら
くらくなるまで
しばられてたかも
しれねえ クッソオ
まあそんなに
むくれるな
わるさは
子どもの
特権しゃ
ねえか
それにしても
あったまさ
くるぜ あの
村会のやつめ

三ちゃん
おめえまた
へんなもん
くわしたんじゃ
ねえのけえ
さっきから
タマが
くるしがって
いるけど
しるかい
そんだ
こと!!
ミャオー
ケッホ
ケーホ

縄文式釣りの巻　おわり

あとがき

矢口高雄

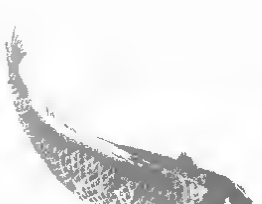
「釣りキチ三平」が、週刊少年マガジン誌上に連載開始したのは、昭和四十八年六月のことである。以来、まる十年もの永い時間を、ボクは三平くんとともに釣り、泣いたり、笑ったりしてきたわけだが、まさかこれほどつづくとは夢にも思わなかったことである。なにしろ、この作品はオリジナルとして初めての週刊誌連載で、ましてやそれまで〝釣りまんが〟なるジャンルがなかっただけに、何もかも手さぐりで、自分の作品のどこがよく、どこがおもしろいのかなどまるでわからないまま、ただひたすら原稿用紙と格闘する毎日だった。

そんなある日、わが家に三人の男がおとずれた。編集長、副編集長、編集の三氏であった。「別冊少年マガジン（のちに月刊少年マガジン）に「三平」の読み切りを描いてほしい」が、用件であった。当時ボクは、「三平」のほかに他社の二誌（一誌は隔週連載、もう一誌は週刊誌に月一本のシリーズ連載）にも描いていたので、スケジュールがとれないと

丁重におことわり申しあげたのだが、その程度のことで引きさがるような三人ではなかった。ガンとしてすわったきり、ボクの首がたてにふられるまで動こうとしないのである。元来気の弱いボクだけに、ついに三人のネバリに屈してしまった。

「それではとにかく、次の号に一回だけ描いてみましょう」

スケジュールをギリギリに調節し、休日も返上して、夜を徹してとにかく一本の短編を描きあげた。予想外のことがおこったのは、それから数日後のことである。ふたたび三人がおとずれ、できあがったばかりの別冊少年マガジンがわたされた。そのページをひらくや、ボクは「あっ！」と声をあげた。なんと、ボクの作品のタイトルページ（四色刷り）に、その色もあざやかに〝堂々新連載〟と印刷されているではないか！こんな約束はしたおぼえがないとくいさがったのだが、あとのまつりだった。三人はニコニコ笑いながら、天井をみたり本棚に目をやったり、プカプカとタバコをふかしたりのオトボケ顔で、まったくとりあってくれない。本は当然そのまま発売となり、読者を裏切るわけにもいかなくなったボクは、ついに次号から毎月、短編読み切りスタイルの「三平」を描かなければならないハメとなったのである。したがって、本書に掲載された諸作品は、そうした編集者のなかば暴力的な策略の産物でもある。



しかし、このことは結果として「釣りキチ三平」という作品を、よりふところの深い作品にしたように思う。つまり、週刊誌は毎週発行されるだけに、エピソードをじっくりつみかさねた長いドラマが可能だが、月刊誌は月一回発行なので、その回その回できめなければならない。ぜい肉をそぎおとしたスピーディな展開と、鋭い切れ味が要求されるということである。くわえて、月刊誌には季節感が重要な要素となる。夏の号に冬のドラマは異和感をもたらすということである。その点、月刊誌は三平くんにとって、じつにマッチした舞台であった。つまり、〝釣り〟は季節によって、対象魚も釣り方も種々のジャンルにわかれるからである。「四季の流れをドラマにしよう」。読み切り短編のモチーフは、この一点に集約された。このモチーフは、三平くんにじつにマッチした。四季の流れのなかで、三平くんは生き生きと躍動するではないか。長編では不合理なドラマも、かったるいエピソードも小気味よくこなした。春は桜の下で、夏は草いきれて、秋は紅葉の散る中で、そして冬は白銀の世界で……。

そんなある日、ボクはひとつのドラマを考えた。アイディアもよかったし、おもしろいドラマだとボクは自信満々に三平くんにさしだした。ところが、しばらくして三平くんはプイと横をむいてしまった。

「こんなドラマ、おらの世界じゃねえよ」といいたげな顔で横をむいた

きり、動こうとしなくなったのである。このときボクは、三平という少年が、ボクの手からはなれて一人あるきをしているのに気づいておどろいた。ボクの創ったキャラクターであるはずの三平くんが、独立した人格ともいうべきものを身につけて、そこにすわっていたのである。

それからのボクのドラマづくりは、三平くんと二人の共同作業になった。

「こんなドラマはどうだい……？」

「おっ、おもしれえじゃないか。」

「いや、つまんねえよ。」

すんなり決まるときもあれば、徹夜でとっくみあいの口論となることもあった。そんなときボクは、「かってにしろ。」と、つっぱなしたことも何度かあった。すると三平くんはかってに動くのである。ボクがだまっていても、かってに動いて、一人でどんどんドラマをつくってしまうのである。こうなればもう「シメた」ものである。

「釣りキチ三平」が十年もつづいた秘密は、じつは、三平くんの一人あるきにおうところが大きかったのではないだろうかと、いま、ボクはしみじみと思っているのである。

（一九八五年一一月五日記す。）

あなたは、この本を読んで、どんな感想をおもちになりましたか。

編集部では、この本についての読者のみなさまのご意見をおまちしています。

このつぎには、どんな作家のどんな漫画を読みたいと、お考えですか。「KCスペシャル」にしてほしいと思う作品がありましたら、「読後の感想」とあわせて、左記あてに、どしどしお知らせください。

東京都文京区音羽二丁目十二番二十一号
〔郵便番号一一二―〇一〕
「講談社コミックス月刊（マガジン）」編集部
KCスペシャル係

KCスペシャル―166

釣りキチ三平―第十集

1985年12月6日　第1刷発行
1997年8月27日　第23刷発行

定価はカバーに表示してあります。

著者　矢口高雄
発行者　五十嵐隆夫
発行所　株式会社講談社
東京都文京区音羽二―一二―二一
郵便番号一一二―〇一
電話　編集部（03）五三九五―三四五八
販売部（03）五三九五―六〇八
印刷所　廣済堂印刷株式会社
製本所　誠和製本株式会社

◎矢口高雄　一九八五年

落丁本・乱丁本は、小社雑誌業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えします。
（☎〇三―五九五―三六〇三）
なお、この本についてのお問い合わせは、月刊少年マガジン編集部宛にお願いいたします。
本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き禁じられています。

ISBN4-06-101166-9　（月マ）　Printed in Japan

KCSP
166

釣りキチ三平

第10集

コイ釣り編 II

矢口高雄

講談社

雑誌 45423-66
ISBN4-06-101166-9
C9979 ¥621E (3)
講談社
定価652円
本体621円

KCスペシャル
釣りキチ三平
1 アユ釣り編
2 フナ釣り編
3 イワナ釣り編
4 コイ釣り編
5 おもしろ釣り編
6 ヤマメ釣り編
7 謎の魚釣り編 I
8 謎の魚釣り編 II
9 イシダイ釣り編
10 コイ釣り編 II
11 ニジマス釣り編
12 ライギョ釣り編
13 イトウ釣り編 I
14 イトウ釣り編 II
15 イトウ釣り編 III
16 おもしろ釣り編 II
17 ムツゴロウ釣り編 I
18 ムツゴロウ釣り編 II
19 秘伝アユ漁編 I
20 秘伝アユ漁編 II
21 渓流釣り編
22 アカメ釣り編
23・24 フライフィッシング編 I・II
25 怪魚釣り編
26・27・28 サーモン・ダービー編 I・II・III
29・30 マス釣り編 I・II
31・32・33 ブルーマーリン編 I・II・III
34・35 キャスティング編 I・II
36 ヘラブナ釣り編
37 アユ釣り編 II
大好評発売中!